Canon

EOS 10D DIGITAL

使用説明書



ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。将来いつでも使用できるよう大切に保管してください。

Exif Print DPOF DIRECT PRINT BUBBLE JET DIRECT

J 日本語版

Canon EOS 10D DIGITAL 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 10Dは、優れた機動性を備えた高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、有効画素数約630万・高精細CMOSセンサー搭載、全EFレンズ群対応、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、全自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能、カメラダイレクトプリント機能など、さまざまな特長を備えています。
なお、記録媒体には、コンパクトフラッシュカードを使用します。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

＊ CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、カメラ（本機）や記録媒体（CFカード）の不具合により、撮影画像の記録やコンピューターへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobe、およびPhotoshopは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- IBM PC/ATシリーズは、米国International Business Machines社の商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、現在、商標登録出願中です。
- DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCFは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用し合うことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

同梱品の確認

初めてご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- □ EOS 10D／カメラ本体（ボディキャップ付き、日付／時計機能用リチウム電池内蔵）
- □ **アイカップ Eb**
- □ **バッテリーパック BP-511**（保護カバー付き）
- □ **バッテリーチャージャー CB-5L**
- □ **バッテリーチャージャー用電源コード**
- □ **インターフェースケーブル IFC-300PCU**
- □ **ビデオケーブル VC-100**
- □ **ネックストラップ EW-100DB**（アイピースカバー付き）

- □ EOS DIGITAL Solution Disk（イオス デジタル ソリューション ディスク）
- □ Adobe Photoshop Elements Disk（アドビ フォトショップ エレメンツ ディスク）

- □ **EOS 10D使用説明書**（本書）
- □ **EOS 10Dソフトウェア使用説明書**
  ソフトウェアのインストール方法や、EOS 10Dで撮影した画像のコンピューターへの取り込み、RAW画像の現像処理・画像処理の方法について説明しています。
- □ **バッテリーパック BP-511使用説明書**

- □ **お客様ご相談窓口一覧**
- □ **保証書**
- □ **クイックオペレーションガイド**
- □ **EOS 10D Accessories**（アクセサリーズ）
  EOS 10Dの主要アクセサリーを紹介しています。

※ 撮影画像を記録する**CFカードは同梱されていません**ので、別途ご購入ください。
なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

目　次

取り扱い上のご注意

カメラについて

(1) カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
(2) このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
(3) カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
(4) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
(5) カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
(6) レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
(7) カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
(8) カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
(9) 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
(10) カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り外し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
(11) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
(12) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

(1) 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

(2) 強く押さえたり、衝撃を与えたりしないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
(3) 汚れたときは、市販のブロアーブラシで吹き払ったり、傷が付かないよう、やわらかい布で軽くふいてください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
(4) 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

日付／時計機能用リチウム電池について

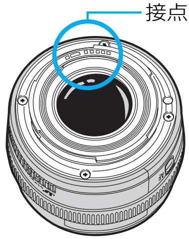
(1) リチウム電池はお子様の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと大変危険です。万一お子様が飲み込んだ場合、化学物質による被害を受ける危険性があります。ただちに医師に相談してください。
(2) 金属製のピンセットなどでつかまないでください。ショートするおそれがあり危険です。
(3) 分解や加熱をしないでください。破裂する危険があります。

CFカードについて

(1) CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
(2) テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
(3) 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CFカードが変形して使用できなくなります。
(4) CFカードに液体をこぼさないでください。
(5) 大切な画像データを守るため、CFカードは必ずケースなどに入れて保管してください。
(6) 指定外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないものがあります。このような場合は、指定のCFカードをご使用ください。
(7) 曲げたり、強い力や衝撃を与えないでください。
(8) 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所、静電気や電磁波が発生している所に保管しないでください。

レンズの接点について

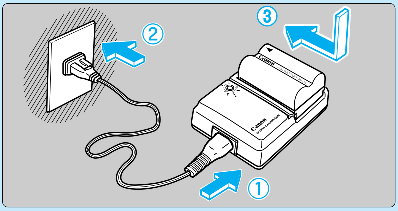
レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

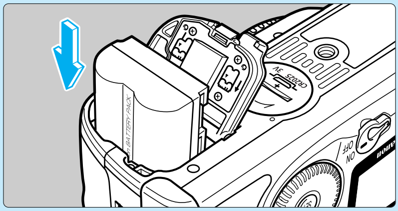


CE 製品についているこのマークは、EC指令への適合宣言マークです。

すぐ撮影したい方のために

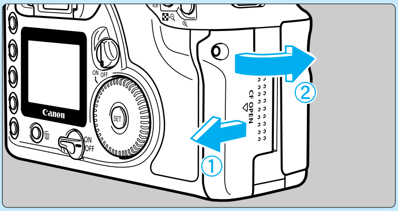
（→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
詳しい使用方法につきましては、参照ページをご覧ください。

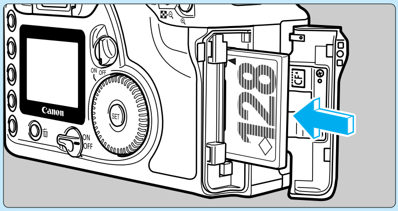




1 **バッテリーを充電する**
チャージャーに電源コードを接続し、バッテリーを取り付けます。充電ランプが点滅から点灯に変わったら、充電完了です。充電時間は約90分です。（→18）

2 **バッテリーを入れる**
バッテリー室ふたを開けて、充電済みのバッテリーをロック位置までしっかりと入れます。「カチッ」と音がするまでふたを閉じます。（→20）

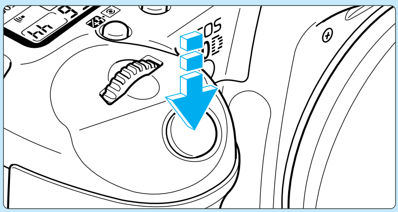




5 **CFカードスロットカバーを開ける**
カバーを矢印方向にずらしてから、開きます。（→24）

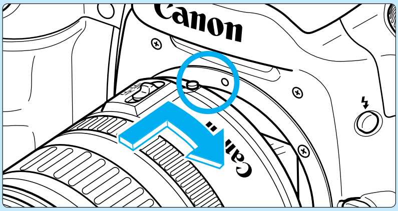
6 **CFカード（別売）を入れる**
CFカードを入れ、カバーを閉じます。（→24）





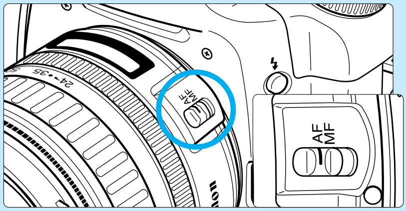
9 **ピントを合わせる**
写したいもの（被写体）にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。（→26）

10 **撮影する**
さらにシャッターボタンを押して撮影します。（→26）



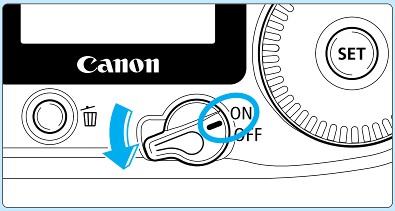
3 レンズを取り付ける

レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。(→23)

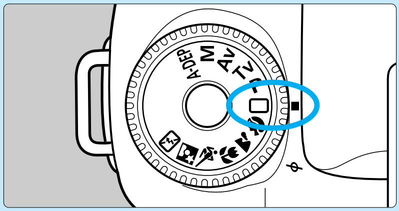


4 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

(→23)

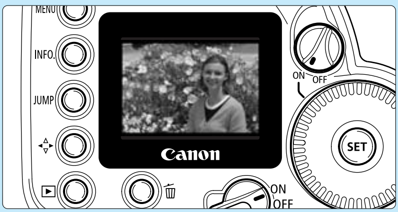


7 〈 〉スイッチを〈ON〉にする。(→26)



8 モードダイヤルを〈□〉(全自動)にする

(→34)



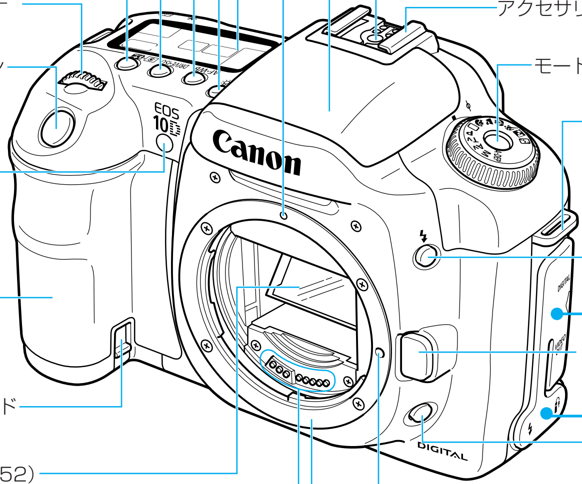
11 撮影した画像を確認する

撮影した画像が約2秒間表示されます。表示する時間を変更することができます。(→39)

- 今までに撮影した画像を確認したい場合は、『撮影画像を見る』(→38)『撮影した画像を再生する』(→104)を参照してください。
- 撮影した画像を消去したい場合は、『撮影画像を消去する』(→113)を参照してください。

各部の名称

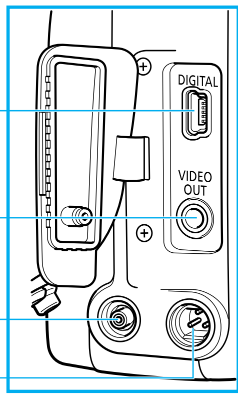
（→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

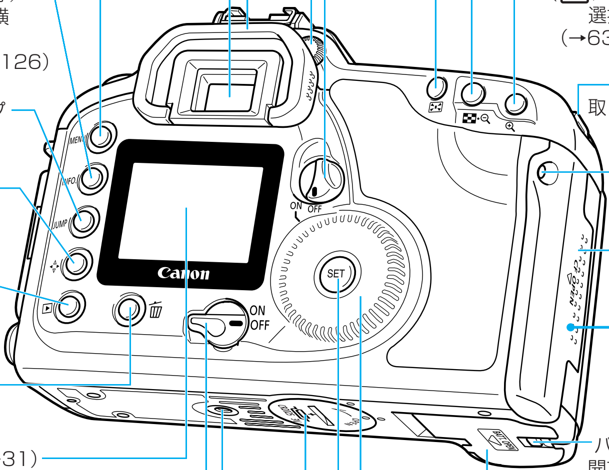




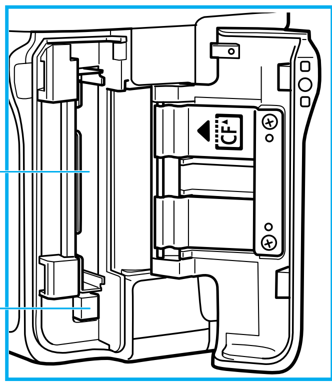
ボディキャップ（→23）

カバー内





CFカードスロットカバー 内



表示パネル

シャッター速度（4000～30″, buLb）
データ処理中（buSY）
内蔵ストロボ充電中（buSY）
日付／時刻機能用電池警告（C bC）
現像パラメーター（PA-0～PA-3, PA-A）
ISO感度（Auto, 100～1600, H）
カメラ起動中（EOS）

AFフレーム選択（[--:--]）
CFフル警告（FuLL CF）
CFエラー警告（Err CF）
CF未装填警告（no CF）
エラー表示（Err）
撮影素子清掃中（CLEA n）

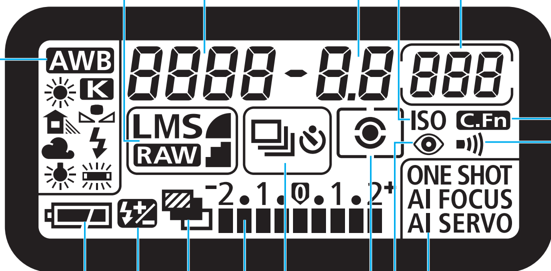
絞り数値（00～91）

ISO ISO感度

撮影可能コマ数
（999～0）
セルフタイマー作動表示
（10～1）
バルブ露光時間（0～999）

記録画質
- L ラージ／ファイン
- L ラージ／ノーマル
- M ミドル／ファイン
- M ミドル／ノーマル
- S スモール／ファイン
- S スモール／ノーマル
- RAW ロウ

ホワイトバランス
- AWB オート
- 太陽光
- 日陰
- くもり
- 電球
- 蛍光灯
- ストロボ
- マニュアル
- K 色温度



C.Fn カスタム機能

電子音

バッテリーチェック

ストロボ調光補正

AEB

AFモード
- ONE SHOT ワンショットAF
- AI FOCUS AIフォーカスAF
- AI SERVO AIサーボAF

赤目緩和

測光モード
- 評価測光
- 部分測光
- 中央部重点平均測光

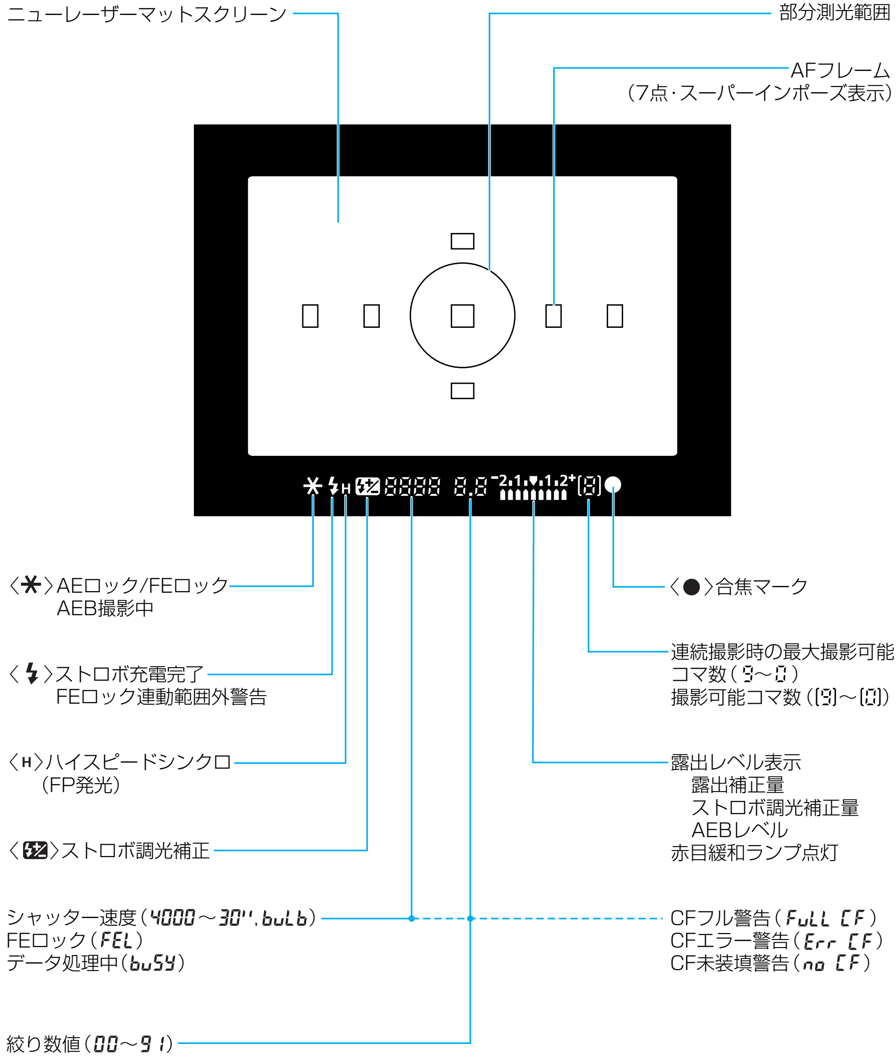
ドライブモード
- 1コマ撮影
- 連続撮影
- セルフタイマー

露出レベル表示
露出補正量
AEBレベル
ストロボ調光補正量

CFカード書き込み経過

上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

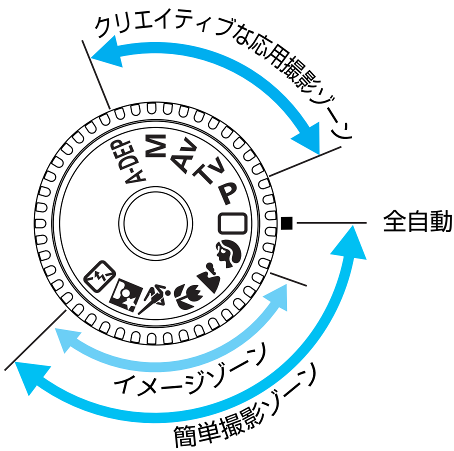
ファインダー内表示



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルは2つの機能ゾーンに分けられています。



①簡単撮影ゾーン

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

□ ：**全自動**（→34）

カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

- ：ポートレート（→36）
- ：風景（→36）
- ：クローズアップ（→36）
- ：スポーツ（→37）
- ：夜景ポートレート（→37）
- ：ストロボ発光禁止（→37）

②クリエイティブな応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P ：プログラムAE（→76）

Tv ：シャッター優先AE（→78）

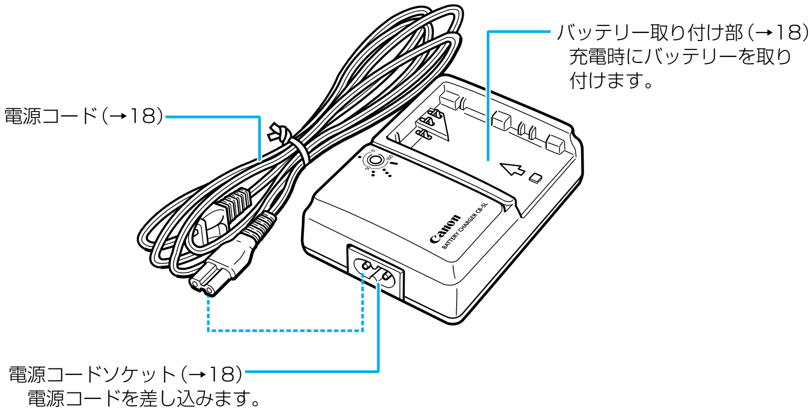
Av ：絞り優先AE（→80）

M ：マニュアル露出（→82）

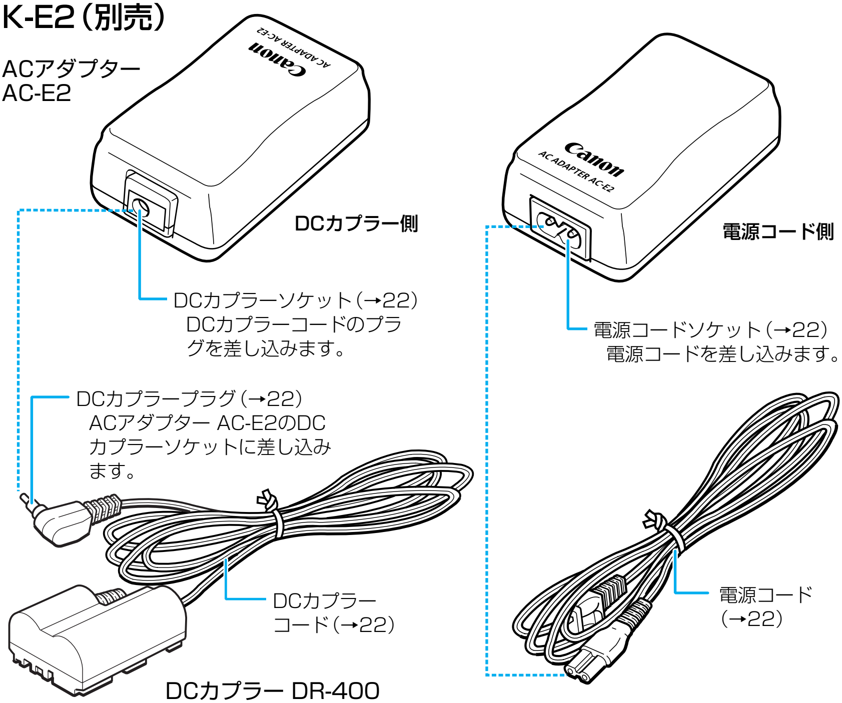
A-DEP ：自動深度優先AE（→84）

（→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

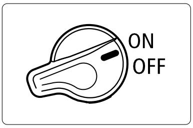
バッテリーチャージャー CB-5L



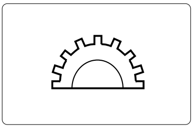
ACアダプターキット ACK-E2（別売）



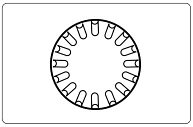
本使用説明書上のお断り



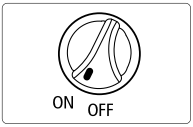
- 本文中の〈〉はメインスイッチを示しています。
〈〉スイッチが〈ON〉になっていることを前提に、それぞれの操作方法を説明しています。各操作をする前に、まず最初に〈〉スイッチを〈ON〉にしてください。



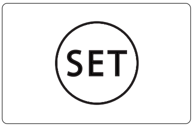
- 本文中の〈〉はメイン電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルスイッチを示しています。
〈〉操作は、〈〉スイッチが〈ON〉になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に〈ON〉になっていることを確認してください。



- 本文中の〈SET〉は設定ボタンを示しています。メニュー機能、カスタム機能の設定などに使用します。

- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。『各部の名称』(→10)を参照してください。
- (→＊＊)の＊＊部は参照ページを示しています。
- 本書では、EF24-85mm F3.5-4.5 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- (4)／(6)／(16)はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 作例写真は、原則として35mmフィルム使用の一眼レフカメラで撮影したものを使用しています。
- 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

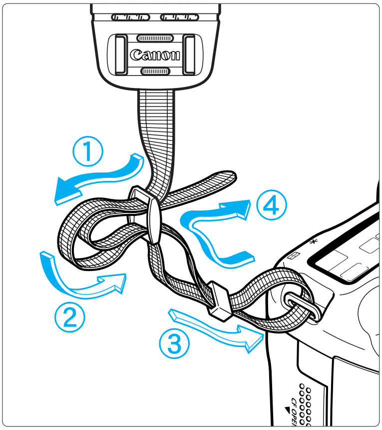
：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

：カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

C.Fn ：それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドが書かれています。
詳細については『カスタム機能で変更できる内容』(→142)を参照してください。

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、EOS 10Dの操作の基本について説明します。

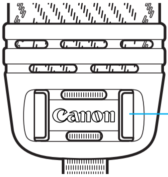
1 使用前の準備と基本操作



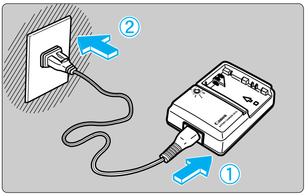
ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップについている止め具の内側を通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

● ストラップにはアイピースカバーがついています。（→74）

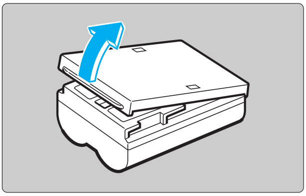


バッテリーを充電する



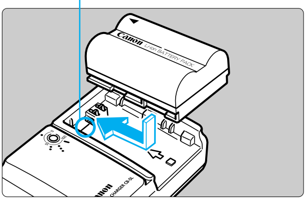
1 電源コードを接続する

- 電源コードをチャージャーに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。



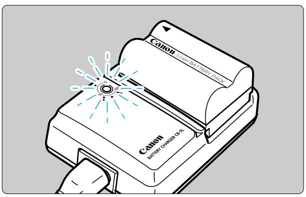
2 保護カバーを外す

- 外したカバーはなくさないように保管してください。
- バッテリーをカメラから取り出したときは、ショート防止のため必ずカバーを取り付けてください。



3 バッテリーを取り付ける

- 〈—〉マークにバッテリーの先端をあわせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



バッテリー残量	赤ランプ
0～50%	1回／秒：点滅
50～75%	2回／秒：点滅
75%以上	3回／秒：点滅
充電完了	点灯

4 充電する

➡ バッテリーを取り付けると自動的に充電が始まり、赤ランプが点滅します。

➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、約90分です。**

- 赤ランプの点滅／点灯で、バッテリーの充電具合や残量を確認することができます。

➡ **充電が完了すると赤ランプが点灯します。続けて約1時間充電を続けると、フル充電にすることができます。**

- 充電が終わったら、バッテリーを外し、電源コードをコンセントから抜いてください。

- バッテリーパックBP-511、BP-512以外は充電しないでください。
- バッテリーをカメラに入れたままにしておくと、カメラを使用しなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因となります。
  カメラを使用しないときは、バッテリーをカメラから取り出し、ショート防止用の保護カバーを取り付けて保管してください。カメラを使用するときは、必ずバッテリーを充電してからご使用ください。

- 充電時間は、周囲の温度やバッテリーの充電状態によって異なります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる場合があります。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下したときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

Li-ion

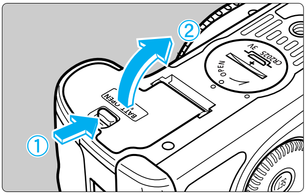
使用後はリサイクルへ

リチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

バッテリーを入れる／取り出す

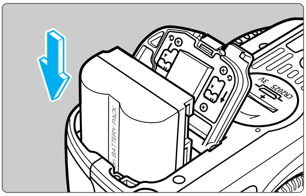
入れ方

充電したバッテリーパックBP-511をカメラに入れます。



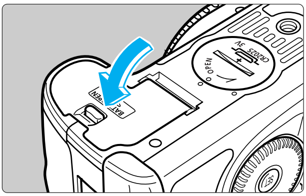
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 バッテリーを入れる

- バッテリーの向きに注意して入れてください。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



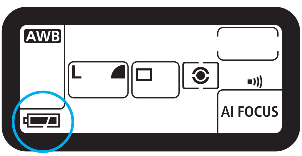
3 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパックBP-512も使用できます。

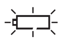
バッテリーチェックについて

バッテリーの残量は、〈 〉スイッチを〈ON〉にしたとき（→26）に3段階で表示されます。



：バッテリーの容量は十分です。

：残量が少なくなっています。

：バッテリーを充電してください。

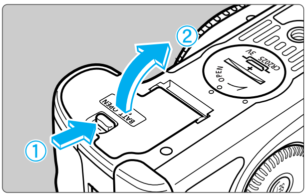
撮影コマ数について

温　度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+20℃）	約650コマ	約500コマ
低温（0℃）	約500コマ	約400コマ

- 撮影コマ数は、当社試験基準によります。
  (フル充電のバッテリー、EF50mm F1.4 USM、撮影画像の確認 [**入**]、撮影画像の確認時間 [**2秒**]、記録画質 [**Large◢**] で撮影・記録)

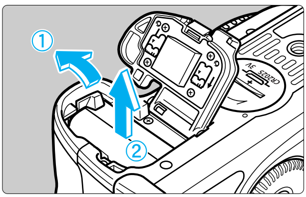
> - 実際の撮影条件との違いにより、撮影コマ数は表記数値よりも少なくなる場合があります。
> - 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影コマ数は少なくなります。
> - シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影コマ数が少なくなります。
> - バッテリーグリップBG-ED3（別売）使用時の撮影コマ数については、BG-ED3の使用説明書を参照してください。

取り出し方



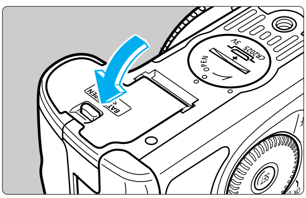
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 バッテリーを取り出す

- バッテリーロックレバーを矢印方向にスライドさせて、ロックを外し、バッテリーを取り出します。

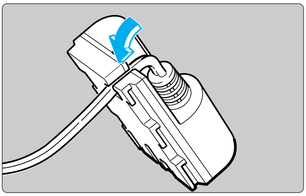


3 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

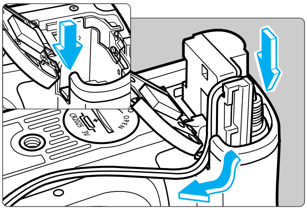
家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E2（別売）を使うと、家庭用電源を使用してカメラを使うことができます。家庭用電源を使用すると、バッテリーの残量を気にせずに撮影や画像の再生を行うことができます。



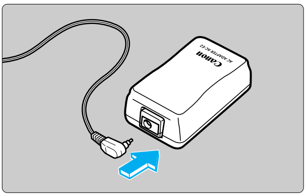
1 コードを溝にはめ込む

- コードを傷つけないように、ていねいにはめ込んでください。



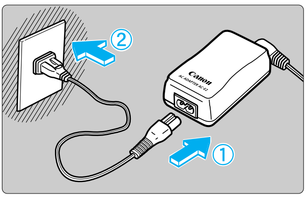
2 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーコード通し部のカバーを押し下げます。
- DCカプラーを入れ、コードを通し部に入れます。
- コードが通し部にしっかりと入っていることを確認し、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れてください。
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押し、閉じます。



3 DCカプラーを接続する

- DCカプラーのプラグをACアダプターのソケットに接続します。



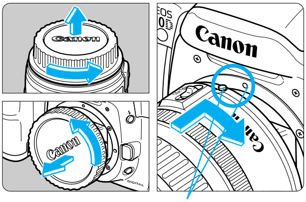
4 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

- カメラの〈 〉スイッチを〈ON〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。
- DCカプラーは、EOS 10D、D60、D30以外で使用しないでください。

レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方



レンズ取り付け指標

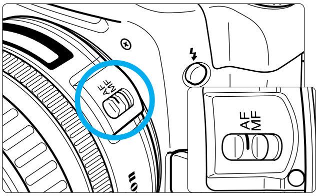
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

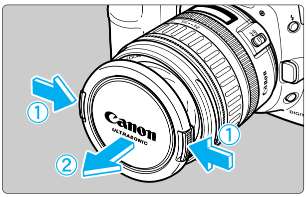
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

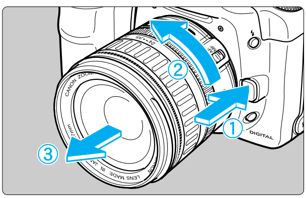


- 〈MF〉（または〈M〉）になっているとオートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す



取り外し方

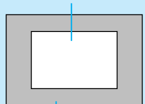


レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- レンズ取り付け指標が真上になるまで回してから、外してください。

- EOS 10Dの撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、EOS 10Dに装着したEFレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。
- 〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動焦点のことです。
- 〈MF〉、〈M〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動焦点のことです。
- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。

EOS 10D撮影画面
（22.7×15.1mm）

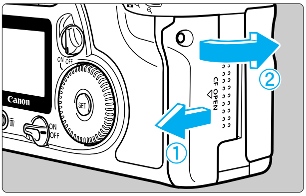


35mm判フィルム撮影画面
（36×24mm）

CFカードを入れる／取り出す

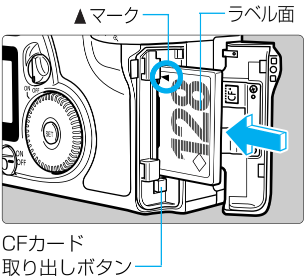
撮影した画像は、CFカード（別売）に記録されます。
このカメラで使用できるCFカードは、タイプ I、タイプ IIのCFカードです。

入れ方



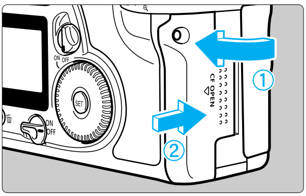
1 カバーを開く

● カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。



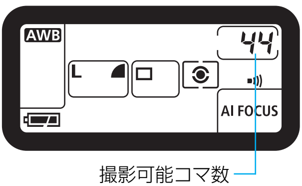
2 CFカードを入れる

● キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
● CFカードのラベル面（▲マーク印刷側）を手前にして、▲マークの矢印の向きにしっかりと奥まで差し込みます。
➡ CFカード取り出しボタンが飛び出します。



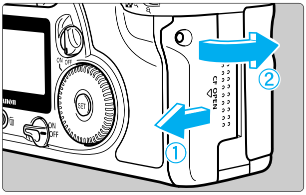
3 カバーを閉じる

● カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
➡ 〈電源〉スイッチを〈ON〉にすると、表示パネルとファインダー内に撮影可能コマ数が表示されます。



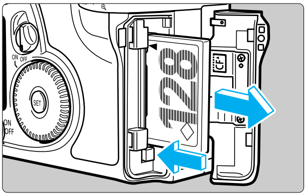
撮影可能コマ数は、使用するCFカードの空き容量や、設定したISO感度などにより変動します。

取り出し方



1 カバーを開く

- 〈🔌〉スイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「buSY」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプ（→11）が消えていることを確認して、カバーを開きます。



2 CFカードを取り出す

- CFカード取り出しボタンを押し込みます。

➡ CFカードが出てきます。

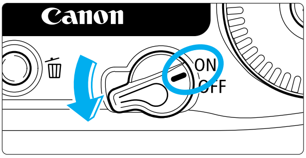
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプ点滅中（ファインダー内および表示パネルに「buSY」表示中）は、絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。**
  また場合によってはCFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
  ・CFカードスロットカバーを開く
  ・バッテリーを取り出す
- 撮影後の現像処理中と、CFカードへの画像記録中（アクセスランプ点滅中）は、メニュー機能の操作はできません。このとき〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターに［**処理中...**］の警告が表示されます。
- 初めて使用するCFカードや、表示パネルに「Err CF」が表示された場合は、『CFカードを初期化する』（→115）を参照してフォーマットしてください。
- 低容量のCFカードは使用しないでください。画像サイズが大きくなると、CFカードに記録できないことがあります。
- マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、1MBあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したCFカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分にご注意ください。

撮影の基本操作

メインスイッチ

このカメラは〈 〉スイッチを〈ON〉にして初めて作動します。

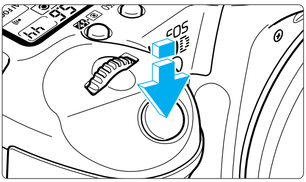


〈ON〉：カメラを作動させるときはこの位置にします。
〈OFF〉：カメラは作動しません。
カメラを使用しないときはこの位置にします。

- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能／→138）。カメラを使用するときは、シャッターボタンを半押ししてください。
- 撮影直後に〈 〉スイッチを〈OFF〉にすると、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間アクセスランプが点滅する場合があります。
  CFカードへの画像記録が終了すればアクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

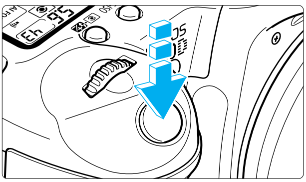
シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



半押し（⏱4）

AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

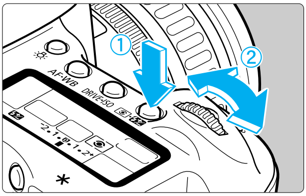
シャッターボタン半押し後のタイマー（⏱4）が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。

カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります（ダイレクトプリント出力中を除く）。

電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈⌒〉や〈◎〉で、撮影に関する設定や準備、液晶モニター表示内容の選択・設定などを行います。〈◎〉で撮影に関する設定を行うときは、〈⊘〉スイッチを〈ON〉にしてください。
電子ダイヤルによる基本操作は、それぞれ次の2通りがあります。

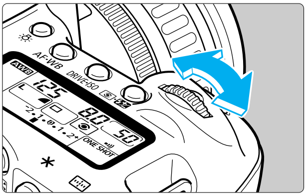
〈⌒〉による基本操作



(1) ボタンを押したあと、〈⌒〉を回す

撮影時は、ボタンを押すとその機能選択状態がタイマー(⏱6)で保持されます。その間に表示パネルを見ながら〈⌒〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFフレーム、AFモード、ドライブモード、測光モードの選択・設定に使用します。
- 液晶モニター使用時は、メニュー機能の選択、記録画像の選択などに使用します。

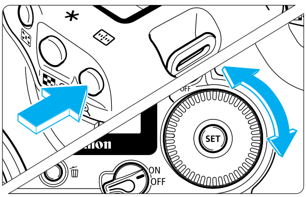


(2)〈⌒〉のみを回す

表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈⌒〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

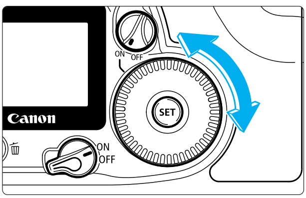
〈◎〉による基本操作



(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

撮影時は、ボタンを押すとその機能選択状態がタイマー(⏱6)で保持されます。その間に表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFフレーム、ホワイトバランス、ISO感度、ストロボ調光補正の選択・設定に使用します。
- 液晶モニター使用時は、メニュー機能の選択、記録画像の選択などに使用します。



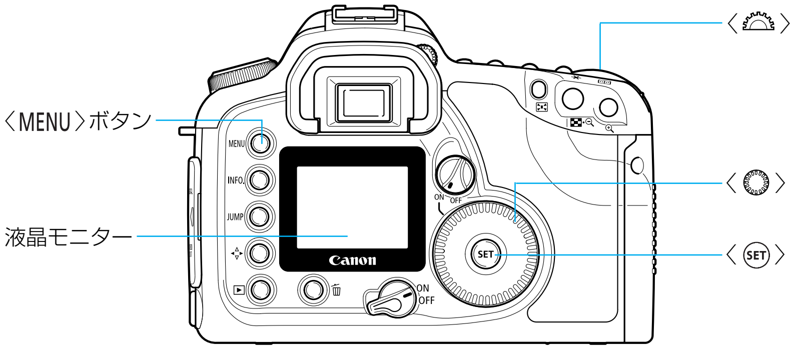
(2)〈◎〉のみを回す

表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈◎〉を回します。

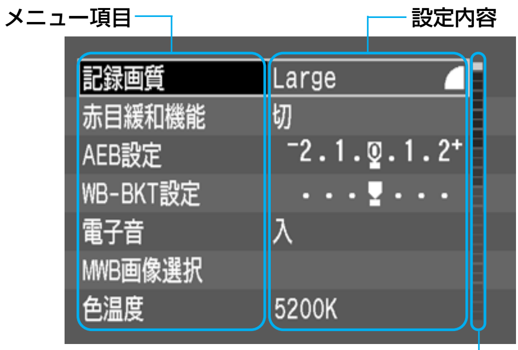
- 露出補正や〈**M**〉モード時の絞り数値の設定などに使用します。

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながらカメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈 〉または〈 〉、〈SET〉を使って、次の手順で行います。
メニュー機能に関する詳しい内容については、『メニューによる機能設定』(→135)を参照してください。



メニュー画面



設定内容を色で表示

メニュー画面は、項目の内容によって3系統に色分けされています。
また、選択している項目の枠に色がつきます。

色	設定内容	説　明
赤	撮影系	撮影に関するメニュー項目
青	再生系	撮影した画像の再生操作に関するメニュー項目
黄	セットアップ系	カメラの基本機能に関するメニュー項目

メニュー機能の設定操作



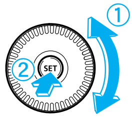
1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。



2 メニュー項目を選ぶ

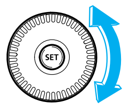
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。





3 メニュー内容を選ぶ

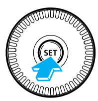
- 〈◎〉で内容を選びます。





4 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。



5 終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して終了します。

- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。
- 〈◎〉によるメニュー選択操作、再生・ダイレクトプリント・プリント指定時の操作は、〈⚙〉で行うこともできます。
- 設定の終了は、シャッターボタン半押しでも行えます。
- メニュー項目とメニュー内容は、循環式になっています。
- 日本語以外の表示言語を11種類選ぶことができます。(→139)
- メニュー画面を表示している状態で〈JUMP〉ボタンを押すと、押すごとに撮影系、再生系、セットアップ系の順に、各系統の最上部の項目に移動することができます。

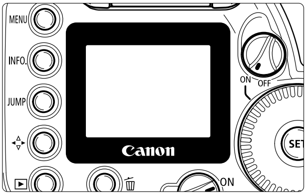
メニュー設定項目と初期設定

（太字）：初期設定

	メニュー項目	設定項目・内容／情報				参照ページ	注
撮影系（赤）	記録画質	**Large ◢**	Large ▟	Middle ◢	Middle ▟	42	
		Small ◢	Small ▟	RAW＊1			
	赤目緩和機能	**切**	入			95	＊2
	AEB設定	**-2.1.0.1.2+**	-2.1.0.1.2+	-2.1.0.1.2+		86	＊1
		-2.1.0.1.2+	-2.1.0.1.2+				
	WB-BKT設定					50	＊1
	電子音	**入**	切			136	
	MWB画像選択	マニュアルホワイトバランスを設定します				48	＊1
	色温度	2800～10000Kの範囲で指定します（100K単位）				49	＊1
	現像パラメーター	**標準**	Adobe RGB	セット1		52	＊1
		セット2	セット3	設定			
	ISO感度拡張	**切**	入			137	＊1
再生系（青）	画像プロテクト	撮影画像をプロテクト（保護）をかけます				112	
	画像回転	撮影画像を回転します				110	
	プリント指定	撮影画像をプリント指定します（DPOF）				127	
	オートプレイ	撮影画像を自動再生します				109	
セットアップ系（黄）	オートパワーオフ	**1分**	2分	4分		138	
		8分	15分	30分			
		切					
	撮影画像の確認	切	**入**	入（Info）		38	
	撮影画像の確認時間	**2秒**	4秒			39	
		8秒	ホールド				
	縦横自動回転表示	**入**	切			57	
	液晶の明るさ					139	
	日付/時刻	**年／月／日**	月／日／年	日／月／年		150	
	ファイル番号	**通し番号**	オートリセット			55	
	言語	English	Deutsch	Français		139	
		Nederlands	Dansk	Suomi			
		Italiano	Norsk	Svenska			
		Español	汉语	**日本語**			
	ビデオ出力方式	**NTSC**	PAL			140	
	CFカード初期化	CFカードを初期化（フォーマット）します				115	
	カスタム機能（C.Fn）	カスタム機能を設定します				142	＊1
	設定解除	カメラ設定初期化	カスタム機能一括解除			140	＊1
	撮像素子の清掃	撮像素子の清掃（クリーニング）をします				152	＊1
	ファームウェア Ver.	カメラのファームウェアのバージョン情報です				140	

＊1　簡単撮影ゾーン（→33）では、メニュー画面に表示されません。
＊2　〈 〉〈 〉〈 〉では、メニュー画面に表示されません。

液晶モニターについて



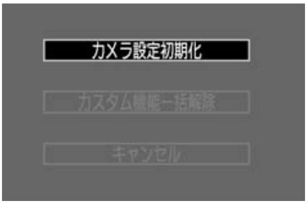
背面の液晶モニターは、記録画像の確認や選択、メニュー機能の選択・設定に使用します。

- 液晶モニター使用時は、〈◎〉スイッチが〈OFF〉でも〈◎〉を使用することができます。
- 液晶モニターをファインダーとして見ながら撮影することはできません。
- 液晶モニターの明るさを5段階に調整することができます。(→139)

カメラの各機能設定を初期状態にするには

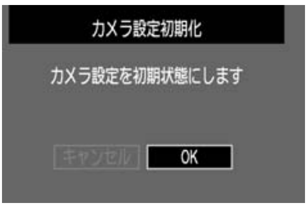
1 メニューから[設定解除]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して[**設定解除**]を選び、〈SET〉を押します。



2 [カメラ設定初期化]を選ぶ

- 〈◎〉を回して[**カメラ設定初期化**]を選び、〈SET〉を押します。



3 初期状態にする

- 〈◎〉を回して[OK]を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

➡ カメラの状態は次の表のようになります。

撮影機能関係

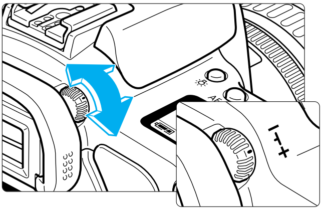
AFモード	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
測光モード	評価測光
ドライブモード	1コマ撮影
露出補正	0(ゼロ)
AEB設定	解除
ストロボ調光補正	0(ゼロ)
カスタム機能(C.Fn)	設定状態のまま

記録画像関係

記録画質	L ◢(ラージ/ファイン)
ISO感度	100
ホワイトバランス	AWB(オート)
色温度	5200K
WB-BKT設定	解除
現像パラメーター	標準
縦横自動回転表示	入
ファイル番号	通し番号

鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することによって、メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は、−3〜＋1dptの範囲で行うことができます。



視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準（−1dpt）の位置です。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）のご使用をおすすめします。（→170）

カメラの構え方

鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



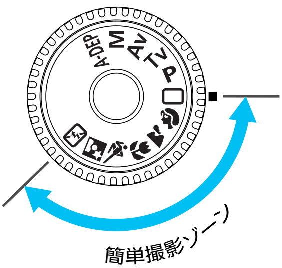
横位置　　縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

この章ではモードダイヤルの簡単撮影ゾーンにある〈□〉〈[ポートレート]〉〈[風景]〉〈[クローズアップ]〉〈[スポーツ]〉〈[夜景ポートレート]〉〈[フラッシュ発光禁止]〉を使って簡単に撮影する方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。
また、誤操作による失敗を防ぐため、〈AF･WB〉〈ISO〉〈[測光モード]･[調光補正]〉〈✱〉〈[AFフレーム選択]〉ボタンなどの撮影に関する操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。

2 カメラまかせの全自動撮影

簡単撮影ゾーンでは、すべてが自動設定され、シャッターボタンを押せば、誰でもカメラまかせで撮影できます。

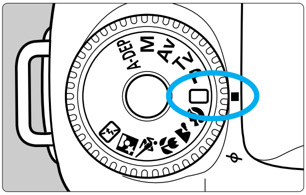


モードダイヤルを〈□〉〈[ポートレート]〉〈[風景]〉〈[クローズアップ]〉〈[スポーツ]〉〈[夜景ポートレート]〉〈[フラッシュ発光禁止]〉のいずれかにする

- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→34)と同じです。

□ 全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな画像を撮影できます。



1 モードダイヤルを〈□〉にする

➡ AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈◉〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

● 6種類（RAWを除く）の記録画質を選択することができます。（→42）



2 ピントを合わせる

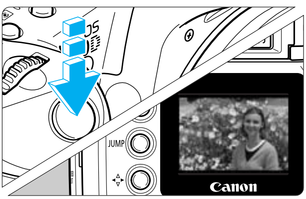
● ファインダーをのぞいていずれかのAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。

➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。

● 合焦マーク〈●〉の左側に表示される数字「9」〜「0」は、最大何コマ連続撮影できるかを示しています。

● CFカードの空き容量が少なくなり、撮影できるコマ数が9コマ以下になったときは、「[9]」〜「[0]」が表示されます。



3 撮影する

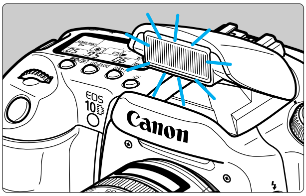
● 構図を決め、露出値が点滅していないことを確認して、シャッターボタンを全押しします。

➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

● CFカードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内にCFフル警告「FuLL CF」が表示され、撮影できなくなります。残量のあるCFカードに入れ換えてください。
● 合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）』（→67）を参照してください。
● 誤ってストロボの自動ポップアップを阻害したときは、表示パネルにエラーコード「Err 05」が表示されます。そのときは、〈 〉スイッチを〈OFF〉にして、もう一度〈ON〉にしてください。

● AFでピントが合うと同時に、ピントと露出がロックされます。
● 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
● AFフレームが複数同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったAFフレームでとらえたすべての位置にピントが合っています。
● 7つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、『画面の端の被写体にピントを合わせる』（→61）を参照してください。
● 簡単撮影ゾーン（〈 〉〈 〉〈 〉を除く）では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。
内蔵ストロボに関しては、『内蔵ストロボを使用した撮影』（→92）を参照してください。
● セルフタイマー撮影ができます。（→73）
● ピントが合ったときの電子音や、セルフタイマー撮影時の作動音の［入］［切］を設定することができます。（→136）
● 表示パネルを照明することができます。（→90）

内蔵ストロボによるAF補助光について



暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

● 〈 〉〈 〉〈 〉では、AF補助光は光りません。
● 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
● 応用撮影ゾーンでは、〈 〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

イメージにあわせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影できます。

ポートレート



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 望遠レンズを使用して、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。
- AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈連続撮影アイコン〉（連続撮影）、測光モードは〈評価測光アイコン〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

風景



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- 広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。
- AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈評価測光アイコン〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

クローズアップ



草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影できます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。
- AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈評価測光アイコン〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

スポーツ



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- はじめに中央のAFフレームで被写体をとらえます。その後、7つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
- AFモードは〈**AI SERVO**〉、ドライブモードは〈連続〉（連続撮影）、測光モードは〈評価〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

夜景ポートレート



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影できます。

- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは〈風景〉で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフタイマー（→73）を併用したときは、セルフタイマーランプが一瞬光って撮影終了を示します。
- AFモードは〈**ONE SHOT**〉、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈評価〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

ストロボ発光禁止



美術館など、ストロボ撮影が禁止されている場所や、自然光を生かした雰囲気のある写真を撮影するときに使用します。

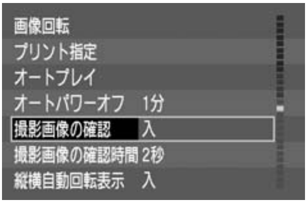
- 内蔵ストロボ、EOS専用外部ストロボ使用時ともに発光しません。
- AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈評価〉、ISO感度は「Auto」、ホワイトバランスは〈AWB〉に自動設定されます。

- シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。
- 〈夜景ポートレート〉では、手ブレを防ぐために必ず三脚を使用してください。

MENU 撮影画像を見る

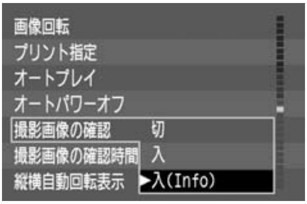
撮影画像の確認

撮影直後の画像を、すぐにカメラ背面の液晶モニターで確認することができます。表示の方法は、撮影画像がそのまま表示される［**入**］、撮影画像と撮影情報を表示する［**入（Info）**］、撮影画像を表示しない［**切**］の3種類があります。



1 メニューから［撮影画像の確認］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**撮影画像の確認**］を選び、〈SET〉を押します。



2 撮影画像の確認を設定する

- 〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

3 撮影する

- ➡ 撮影された画像が液晶モニターに表示されます。
- 表示される時間は、［**撮影画像の確認時間**］の設定時間です。

［**入**］の場合



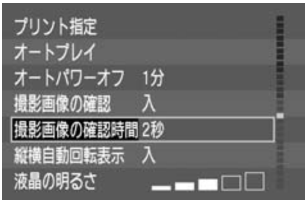
［**入（Info）**］の場合（→105）



- 撮影画像の確認時間を変更することができます。
- 連続撮影したときは、現像処理が終了した画像を連続して自動再生します。その間に〈▶〉ボタンを押すと、［**処理中...**］表示になります。

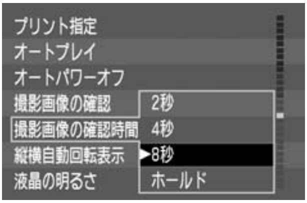
撮影画像の確認時間

撮影直後の画像確認時間を設定することができます。設定できる時間は[**2秒**][**4秒**][**8秒**]と、撮影画像を表示したままにする[**ホールド**]の4種類があります。



1 メニューから[撮影画像の確認時間]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して[**撮影画像の確認時間**]を選び、〈SET〉を押します。



2 撮影画像の確認時間を設定する

- 〈◎〉を回して希望する確認時間を選び、〈SET〉を押します。

➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。

- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

- [**ホールド**]に設定した場合、撮影画像はシャッターボタンを半押しするまで表示されます。ただし、オートパワーオフ（→138）設定時は、設定時間になると自動的に電源が切れます。
- [**撮影画像の確認時間**]の設定は[**撮影画像の確認**]で[**入**]または[**入（Info）**]に設定した場合に有効です。
- 連続撮影時の[**撮影画像の確認時間**]は、最後に撮影した画像の表示時間です。
- 表示中に〈🗑〉ボタンを押したあと、〈◎〉を回して[**OK**]を選び、〈SET〉を押すと、表示中の画像を消去することができます。
- 今までに撮影した画像を確認したい場合は、『撮影画像の再生』（→103）を参照してください。



この章では、記録画質、ISO感度、ホワイトバランス、現像パラメーター、色空間、ファイル番号、縦横自動回転表示といった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

3

撮影画像に関する設定

簡単撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質（RAWを除く）、ファイル番号、縦横自動回転表示の選択・設定、カメラの設定内容の確認のみが行えます。

MENU 記録画質の選択

撮影する画像の「記録画質」は、以下の7種類（簡単撮影ゾーン時は RAW を除く6種類）から選ぶことができます。
〈L◢〉〈L▟〉〈M◢〉〈M▟〉〈S◢〉〈S▟〉は、撮影後の現像処理が必要ありません。
〈RAW〉は撮影後、コンピューターで現像処理を行います。

1 メニューから［記録画質］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。



2 記録画質を設定する

- 〈◎〉を回して希望する記録画質を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

L◢ ラージ／ファイン
約630万画素の画像を低圧縮でJPEG記録します。JPEG画像を最高画質で記録したいときに選択します。なお、1コマあたりの画像サイズが大きいため、撮影できるコマ数は少なくなります。

L▟ ラージ／ノーマル
約630万画素の画像を高圧縮でJPEG記録します。比較的高画質なJPEG画像を記録しながら、撮影できるコマ数を多くしたいときに選択します。

M◢ ミドル／ファイン
約630万画素の画像を、約280万画素に変換して低圧縮でJPEG記録します。JPEG画像を中程度の画質で記録しながら、撮影できるコマ数を同時にある程度確保したいときに選択します。

M▟ ミドル／ノーマル
約630万画素の画像を、約280万画素に変換して高圧縮でJPEG記録します。〈M◢〉よりも、撮影できるコマ数を多くしたいときに選択します。

S◢ スモール／ファイン
約630万画素の画像を、約160万画素に変換して低圧縮でJPEG記録します。画像サイズよりも撮影できるコマ数を優先したいときに選択します。

S▟ スモール／ノーマル
約630万画素の画像を、約160万画素に変換して高圧縮でJPEG記録します。撮影できるコマ数を最優先にしたいときに選択します。

RAW ロウ
約630万画素の画像を、画像劣化のない圧縮方式でRAW記録します。記録した画像の処理をコンピューターで行いたいときに選択します。なお、1コマあたりの画像サイズが大きいため、撮影できるコマ数は少なくなります。

現像処理について

撮像素子の生（RAW）データをデジタル化して、ホワイトバランスや画質調整することを現像処理といいます。〈L◢〉〈L▟〉〈M◢〉〈M▟〉〈S◢〉〈S▟〉はカメラ内部で現像処理され、JPEG形式で記録されます。〈RAW〉画像の現像処理は、撮影時に設定されていたホワイトバランス、現像パラメーターの内容で行われます。なお、現像処理は、専用のソフトウェアを使用して何回でもやり直すことができます。

記録画質に対する1コマのサイズと撮影可能コマ数の目安

記録画質	画像サイズ（記録画素数）	記録形式	圧縮率	1コマのサイズ（約MB）	撮影可能コマ数（約コマ）
L◢ラージ／ファイン	3072×2048（約630万）	JPEG	低圧縮	2.4	50
L▟ラージ／ノーマル			高圧縮	1.2	103
M◢ミドル／ファイン	2048×1360（約280万）		低圧縮	1.3	95
M▟ミドル／ノーマル			高圧縮	0.7	184
S◢スモール／ファイン	1536×1024（約160万）		低圧縮	0.8	145
S▟スモール／ノーマル			高圧縮	0.4	282
RAW ロウ ＋S▟	RAW：3072×2048（約630万）	RAW＋JPEG	RAW：ロスレス圧縮RAW	6.0	19
＋S◢				6.4	18
＋M▟				6.2	18
＋M◢				6.8	16
＋L▟				6.7	17
＋L◢				8.0	14

- 簡単撮影ゾーンでも記録画質（RAWを除く）を設定することができます。
- 1コマのサイズ、撮影可能コマ数は、当社試験基準によります。（ISO100、現像パラメーター：［標準］設定時）
- 撮影可能コマ数は128MBのCFカード使用時のコマ数です。
- 1コマのサイズ、撮影可能コマ数は、被写体、撮影モード、ISO感度、現像パラメーターにより異なります。
- ご使用になるCFカードの撮影可能コマ数は、表示パネルで確認することができます。
- 〈RAW〉を選択したときは、RAW画像のファイル内にJPEG画像が同時に記録されます。
- 設定した記録画質は、簡単撮影ゾーン、応用撮影ゾーンごとに記憶されます。

RAW形式で記録した画像をコンピューターで開いたり、RAW画像のファイル内に同時記録されているJPEG画像を抽出するときは、専用のソフトウェアを使用します。詳しくは、『EOS 10Dソフトウェア使用説明書』を参照してください。

C.Fn

- RAW画像のファイル内に同時記録する、JPEG画像の記録画質を変更することができます。（C.Fn-08→144）
- 〈SET〉を押して、表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、［**記録画質**］を設定することができます。（C.Fn-01-1→142）

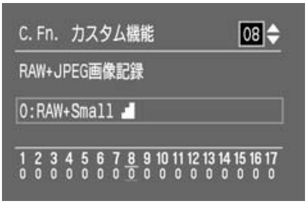
MENU RAW画像とJPEG画像の同時記録

記録画質を〈RAW〉に設定して撮影したときは、RAW画像のファイル内に、JPEG画像が同時に記録されます。同時に記録するJEPG画像の記録画質を、カスタム機能 C.Fn-08の[**RAW+JPEG画像記録**] で選ぶことができます。なお、RAW画像のファイル内に同時記録されているJPEG画像を抽出するときは、専用のソフトウェアを使用します。



1 メニューから [カスタム機能(C.Fn)] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して [**カスタム機能(C.Fn)**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カスタム機能画面が表示されます。



2 C.Fn-08 [RAW+JPEG画像記録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**RAW+JPEG画像記録**]を選び、〈SET〉を押します。



3 同時記録するJPEGの記録画質を設定する

- 〈◎〉を回して希望する記録画質を設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すとメニューに戻ります。
- 再度〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。
- [**記録画質**] を〈RAW〉にして撮影すると、RAW画像のファイル内に、設定した記録画質で、JPEG画像が同時記録されます。

RAW画像のファイル内に記録されているJPEG画像を抽出するときは、専用のソフトウェアを使用します。詳しくは、『EOS 10D ソフトウェア使用説明書』を参照してください。

ISO ISO感度の設定

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです（→156）。数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなる場合があります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細かな画像が撮影できます。

簡単撮影ゾーンでのISO感度

ISO感度が自動的に設定されます。

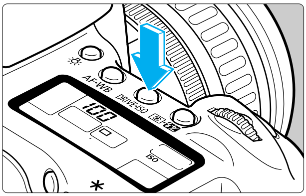
（ISO）

通常撮影（ストロボなし）	可変*	100	可変*	可変*	400	可変*	可変*
内蔵ストロボ使用時	400**	100	–	400**	–	400**	–
外部ストロボ使用時	100	100	100	100	400	100	–

* ISO100～400の間で自動設定されます。／ **日中逆光時はISO100に設定されます。

応用撮影ゾーンでのISO感度

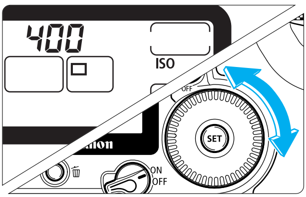
ISO感度を「100」「200」「400」「800」「1600」の中から選択することができます。なお、メニュー［**ISO感度拡張**］で［**入**］を選択すると、「H」（ISO 3200）も選択できるようになります。



1 **〈DRIVE･ISO〉ボタンを押す**（⏱6）

➡ 表示パネルに現在設定されている感度が表示されます。

● 簡単撮影ゾーンのときは、表示パネルに「Auto」と表示されます。



2 **ISO感度を設定する**

● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回し、希望する感度を選びます。

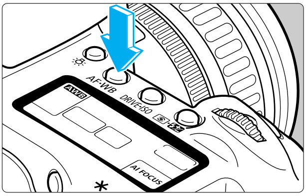
● シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

> ● ISO感度を高くしたり、高温下で使用すると、画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。この場合、1コマのサイズが大きくなるため、撮影可能コマ数が減少します。撮影可能コマ数は、表示パネルで確認することができます。（→12）
>
> ● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

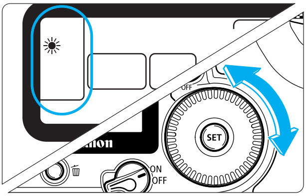
> 手順 2で〈◎〉を回すと、ドライブモードの選択（→72）になります。

WB ホワイトバランスの選択

ホワイトバランスは、オート、太陽光、日陰、くもり、電球、蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度の中から選ぶことができます。

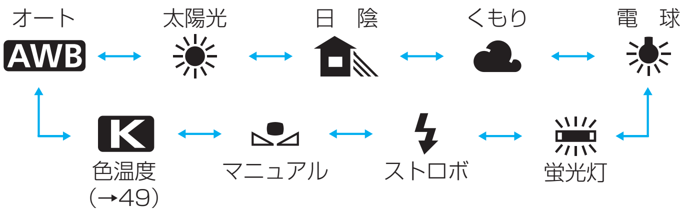


1 〈AF·WB〉ボタンを押す（⏱6）



2 ホワイトバランスを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回し、希望するホワイトバランスを選びます。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。



- 簡単撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。
- 手順 2で〈⌂〉を回すと、AFモードの選択（→60）になります。

ホワイトバランスについて

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなり、赤→オレンジ→黄→白→青白と変化していきます。例えば、白熱電球下で白い被写体を撮影すると赤みを帯びた画像になり、蛍光灯下では緑っぽい画像になります。
人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。従来のフィルムを使用するカメラでは、色補正のフィルターを付けたり、フィルムを交換して調整しますが、デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色合いで撮影できます。
このカメラの〈AWB〉は、撮像素子を使用して行います。

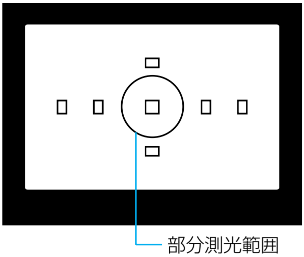
ホワイトバランスの種類

マーク	設定条件	色温度／K（ケルビン）
AWB	カメラの設定にまかせて撮影するときに選択します。	約3000～7000
	晴天の屋外で撮影するときに選択します。	約5200
	屋外の日陰で撮影するときに選択します。	約7000
	曇天や日陰、薄暮、夕焼け空などで撮影するときに選択します。	約6000
	白熱電球の照明で撮影するときに選択します。	約3200
	白色蛍光灯の照明で撮影するときに選択します。	約4000
	ストロボを使用して撮影するときに選択します。	約6000
	基準となる白い被写体を撮影し、その画像からホワイトバランスデータを取り込むことで、その場の撮影環境に最適なホワイトバランスを設定することができます。（→48）	約2000～10000
K	ホワイトバランスの色温度を2800～10000K（100Kステップ）の範囲で直接設定することができます。（→49）	約2800～10000

〈AWB〉選択時に、白熱電球のような色温度の低い照明下で撮影すると、照明の雰囲気が残る画像となることがあります。希望どおりの画像が撮影できないときは、ホワイトバランスを〈〉にしたり、色温度を直接設定（→49）して撮影してください。

MENU マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランスは、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、この画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。



1 白い被写体を撮影する

- 部分測光範囲の領域全体に、白い被写体がくるようにします。
- どのホワイトバランス（→46）設定でも構いません。
- 白い被写体が標準露出になるよう撮影します。露出がアンダー、またはオーバーになると正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。



2 メニューから［MWB画像選択］を選ぶ

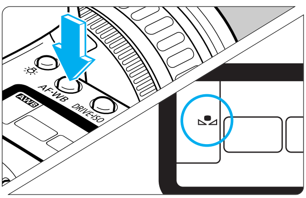
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**MWB画像選択**］を選び、〈SET〉を押します。



3 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ ホワイトバランスデータが取り込まれます。
- 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。



4 〈AF·WB〉ボタンを押す（⏱6）

5 マニュアルホワイトバランスを選ぶ

- 〈◎〉を回して［ ］を選びます。

基準となる白い被写体には、無地の白い紙などをおすすめします。

各撮影環境で撮影した白い被写体の画像をCFカード内に記録しておき、撮影の際に、この撮影画像を［**MWB画像選択**］で選ぶことで、各撮影環境に最適なホワイトバランスを簡単に設定することができます。

MENU 色温度を直接設定する

ホワイトバランスの色温度を2800～10000K（100Kステップ）の範囲で設定することができます。



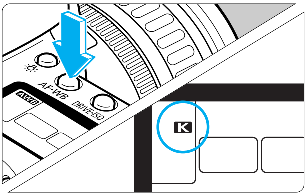
1 メニューから［色温度］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**色温度**］を選び、〈SET〉を押します。



2 色温度を設定する

- 〈◎〉を回して希望する色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2800～10000K（100Kステップ）です。
- 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。



3 〈AF･WB〉ボタンを押す（⏱6）

4 色温度を選ぶ

- 〈◎〉を回して〈K〉を選びます。

- 〈K〉は、自然光の色温度を設定するときに使用してください。人工光源の色温度を設定すると、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。
- カラーメーターで測定した色温度を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

MENU ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

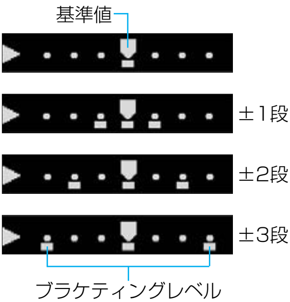
1回の撮影で色温度の異なる3コマの画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの標準色温度を基準に、1段ステップ±3段の範囲で、カメラが自動的に色温度を変えて現像処理を行います。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。1段は、色温度変換フィルターの5ミレッドに相当します。撮影した画像は、標準色温度、青色寄りに補正（マイナス補正）、赤色寄りに補正（プラス補正）の順にファイル番号が付けられてCFカードに記録されます。

1 記録画質を［RAW］以外にする（→42）



2 メニューから［WB-BKT設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈〇〉を回して［WB-BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。



3 ブラケティングレベルを設定する

- 〈〇〉を回してブラケティングレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できるブラケティング範囲は、1段ステップ±3段です。

➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。

- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

➡ ホワイトバランスブラケティング中は、選択しているホワイトバランスのマークが点滅します。

➡ 表示パネルの撮影可能コマ数が約1/3になります。

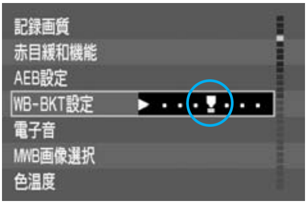
4 撮影する

➡ 1回の撮影で色温度の異なる3コマの画像がCFカードに記録されます。

➡ 標準色温度、青色寄りに補正（マイナス補正）、赤色寄りに補正（プラス補正）の順に3コマの画像がCFカードに記録されます。

- 設定しているドライブモード（→72）に従って撮影されます。連続撮影のときは、撮影したコマ数の3倍の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3コマの画像を記録するため、通常の撮影よりもCFカードへの画像記録時間が長くなります。

ホワイトバランスブラケティングの解除



- 手順2と3の操作でブラケティングレベルを〈・・・・・・・〉にして、〈SET〉を押します。
- 〈 〉スイッチ〈OFF〉でも解除されます。

記録画質が〈RAW〉に設定されているときは、ホワイトバランスブラケティングは機能しません。

ホワイトバランスブラケティングとAEB（→86）を組み合わせて撮影できます。そのときは、AEB撮影で露出を変えて撮影した3コマ画像に、ホワイトバランスブラケティングが適用されるため、合計9コマの画像がCFカードに記録されます。

C.Fn

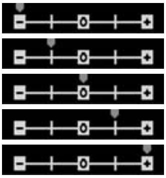
- 撮影順序をマイナス補正、標準露出、プラス補正に変更することができます。（C.Fn-09-2、3→144）
- ホワイトバランスブラケティング撮影を、〈 〉スイッチ〈OFF〉で解除しないようにすることができます。（C.Fn-09-1、3→144）

MENU 現像パラメーターを設定する

撮影した画像の現像処理の内容（パラメーター：［**コントラスト**］［**シャープネス**］［**色の濃さ**］［**色あい**］／各5段階）をカメラで任意に設定して、3件まで登録・セットすることができます。
［**標準**］を選択するとすべてのパラメーターが［**0**］に設定された状態で撮影されます。

設定段階

−2：
−1：
0：
+1：
+2：



パラメーター	設定内容	設定項目	設定効果
コントラスト	コントラストの強さを調整	−1/−2	コントラスト弱
		0	標準的なコントラスト
		+1/+2	コントラスト強
シャープネス（エッジの強調）	シャープネスの強さを調整	−1/−2	シャープネス弱
		0	標準的なシャープネス
		+1/+2	シャープネス強
色の濃さ	色の濃さを調整	−1/−2	色が薄め
		0	標準的な色の濃さ
		+1/+2	色が濃いめ
色あい	色みの調整	−1/−2	肌色が赤め
		0	標準的な色あい
		+1/+2	肌色が黄色め



1 メニューから［現像パラメーター］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**現像パラメーター**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**セット1**］～［**セット3**］の初期状態は、すべてのパラメーターが［**0**］（標準）に設定されています。

セット番号



3 セット番号を選ぶ

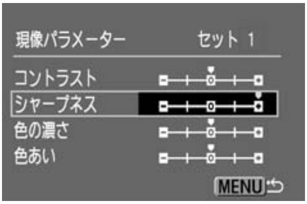
- 〈◎〉を回してセット［1］～［3］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。



4 パラメーターを選ぶ

- 〈◎〉を回してパラメーターを選び、〈SET〉を押します。
- パラメーターは次のように循環します。

［コントラスト］ ⟷ ［シャープネス］
↕ ↕
［色あい］ ⟷ ［色の濃さ］



5 パラメーターの内容を設定する

- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します。
- 各パラメーターを5段階に設定できます。



6 メニュー［現像パラメーター］に戻る

- 〈MENU〉ボタンを2回押して手順1と同じ状態に戻り、〈SET〉を押します。



7 設定したセット番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して設定したセット番号（［**セット1**］～［**セット3**］）を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

現像パラメーターが設定された状態で、カメラの〈◎〉スイッチを〈ON〉にすると、カメラが起動して撮影準備状態になるまでの間、表示パネルに「EOS」（イオス）と表示されたあと、設定されている現像パラメーターが表示されます。現像パラメーターが［**セット1**］～［**セット3**］に設定されているときは「PA-1」～「PA-3」、［Adobe RGB］（→54）に設定されているときは「PA-A」と表示されます。

C.Fn
〈SET〉を押して、表示パネルを見ながら〈⌒〉を回して、［**現像パラメーター**］を設定することができます。（C.Fn-01-2→142）

MENU 色空間の選択

色空間とは、色の再現領域（色域特性）を示すものです。このカメラの色空間は、sRGBとAdobe RGBに対応しています。

sRGBの選択

通常の撮影では色空間をsRGBにします。メニューの［**現像パラメーター**］で、［**Adobe RGB**］以外の項目を選択すると、色空間がsRGBになります。

1 メニューから［現像パラメーター］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**現像パラメーター**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［Adobe RGB］以外の現像パラメーターを選ぶ（→53）

- 〈◎〉を回して［**標準/セット1/2/3**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。

- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。
- 撮影すると、sRGBで画像が記録されます。

Adobe RGBの選択

コンピューターで彩度調整を行いたいときや、Adobe RGB環境下での商用印刷を行うときに選択します。



『sRGBの選択』の手順2で［**Adobe RGB**］を選びます。

- 撮影すると、Adobe RGBで画像が記録されます。

- Adobe RGBを選択したときは、現像パラメーター（→52）の設定はできません。現像パラメーターは、すべて［0］の設定で撮影されます。
- ［**Adobe RGB**］に設定して撮影した画像には、ICCプロファイルが付加されませんので、プロファイル変換を行う場合は、Adobe RGBを指定する必要があります。
- Adobe RGBで撮影した画像を、液晶モニターやテレビなどのsRGB環境下で再生すると、低彩度な画像表示になります。また、sRGB対応のプリンターで出力すると、低彩度なプリント結果になりますので、事前に彩度調整が必要です。

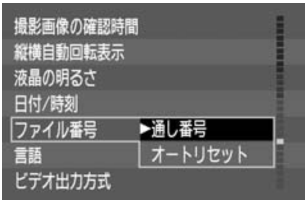
MENU ファイル番号の設定方式

撮影した画像は、自動的に0001～9999までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに最大100画像ずつ保存されます。各フォルダには100～999までの番号が付けられ、CFカードに記録されます。自動ファイル番号の付け方としては、［**通し番号**］と［**オートリセット**］の2種類があります。



1 メニューから［ファイル番号］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**ファイル番号**］を選び、〈SET〉を押します。



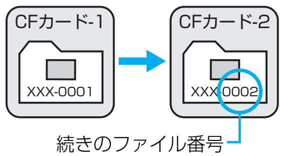
2 設定する項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**通し番号**］または［**オートリセット**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

通し番号

CFカードを交換しても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をコンピューターでまとめて管理するようなときに有効です。ただし、すでに画像が記録されているCFカードに入れ換えたときは、その中に入っている画像の最大ファイル番号と、最後に撮影した画像のファイル番号を比較して、数の大きい方を続きのファイル番号とします。

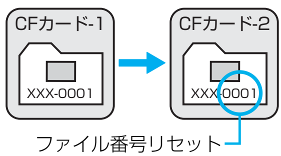
CFカードを交換した場合



オートリセット

CFカードを交換すると、ファイル番号が初期値（XXX-0001）に戻ります。撮影した画像のファイル番号が、0001から始まりますので、撮影日ごとに新しいCFカードに変更して、CFカード単位で何日目の何コマ目かを分類したいときなどに有効です。ただし、すでに画像が記録されているCFカードに入れ換えたときは、その中に入っている画像の最大ファイル番号に続いたファイル番号となります。

CFカードを交換した場合

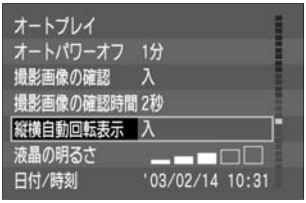


- 999CANONフォルダが作成されると、液晶モニターに［**フォルダ番号がいっぱいです**］と表示されます。ファイル番号が9999になるまで撮影できますが、事前に新しいCFカードを準備しておいてください。
- フォルダ番号が999でファイル番号が9999になると、CFカードに空きがあっても、表示パネルとファインダー内に「FuLL CF」が表示されて撮影できなくなります。そのときは、新しいCFカードに交換してください。

- ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムコマ番号に相当するものです。
- ファイル名について詳しくは、『デジタルカメラ・写真の基本用語解説』（→157）を参照してください。

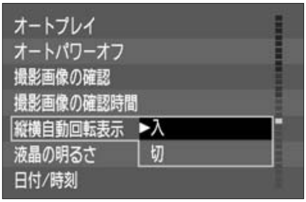
MENU 縦横自動回転表示の設定

カメラを縦位置にして撮影した画像を再生するときに、画像の確認が行いやすいように、画像を時計方向に90°または270°自動回転させて表示することができます。



1 メニューから［縦横自動回転表示］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**縦横自動回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。



2 設定する項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**入**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消え、メニューが終了します

3 縦位置で撮影する

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像（→38）は自動回転表示されません。



4 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

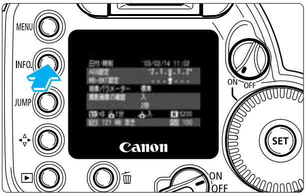
➡ 縦位置で撮影した画像が左図のように見やすい位置で表示されます。

- カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されない場合があります。
- ［**縦横自動回転表示**］を［**入**］に設定して縦位置で撮影した画像を、メニュー［**画像回転**］で回転させると、画像の回転情報が書き換えられます。

カメラの縦横の向き（姿勢）を変えると、姿勢を検出するセンサーの機構により、小さな音がすることがありますが、故障ではありません。

INFO. カメラの設定内容を確認する

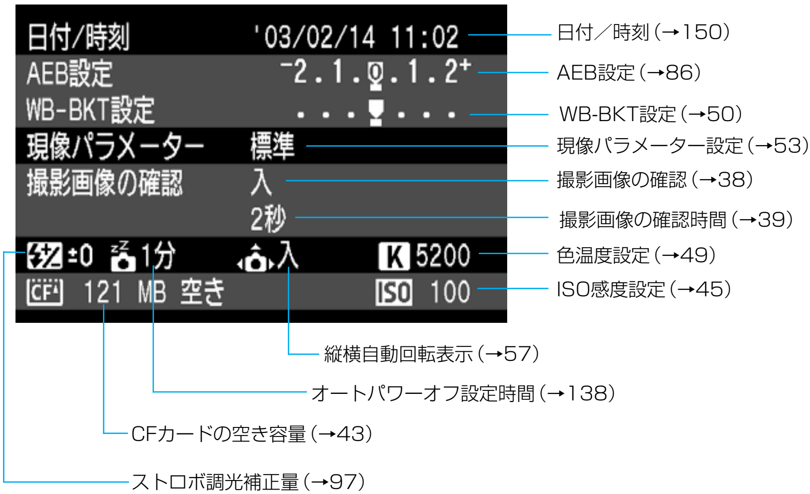
撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている内容が液晶モニターに表示されます。



設定内容を表示する

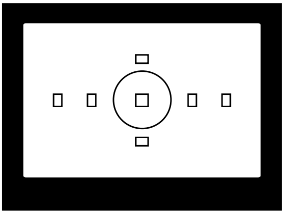
- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにカメラの設定内容が表示されます。
- 再度〈INFO.〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。

設定内容表示



再生時の画像情報表示については、『撮影画像の情報表示』（→105）を参照してください。

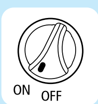
ファインダー内には、7つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図にあわせてオートフォーカスの作動特性を選択することができます。



4 オートフォーカスとピント合わせ

簡単撮影ゾーンでは、この章の中の、フォーカスロック撮影（→61）、手動ピント合わせ（→67）のみが行えます。

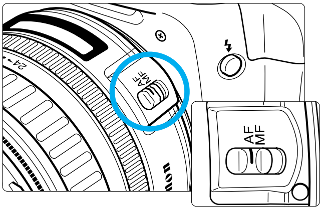




あらかじめ〈 〉スイッチと〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

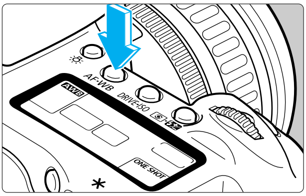
AF AFモードの選択

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。①止まっている被写体の撮影に適している「ワンショットAF」、②動いている被写体の撮影に適している「AIサーボAF」、③被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換える「AIフォーカスAF」の3種類があります。

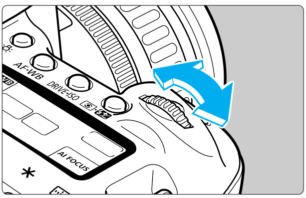


1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

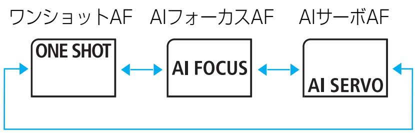


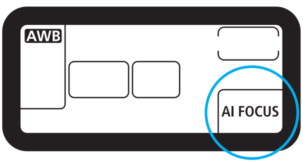
3 〈AF·WB〉ボタンを押す（⏱6）



4 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回し、希望するAFモードを選びます。



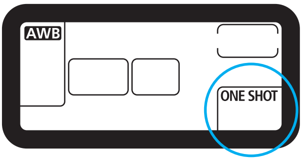


- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

手順 4 で〈 〉を回すと、ホワイトバランスの選択（→46）になります。

止まっている被写体を撮るときはワンショットAF





シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬光ります。同時にファインダー内に合焦マークが表示されます。

● 評価測光ではピントが合うと同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影ができます。

C.Fn ファインダー内のAFフレームの点灯（スーパーインポーズ表示）を禁止することができます。（C.Fn-10-1→145）

画面の端の被写体にピントを合わせる

7つのAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは次のようにします。この方法を「**フォーカスロック撮影**」といいます。
フォーカスロック撮影は、AFモードが、ワンショットAFに設定されているときに有効です。

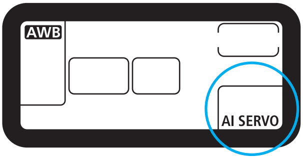
1 **AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる**

2 **シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える**

3 **撮影する**

ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えてもう一度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）』（→67）を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAIサーボAF



シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

- 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。
- 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

- ピントが合ってもファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯せず、電子音も鳴りません。
- ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影はできません。

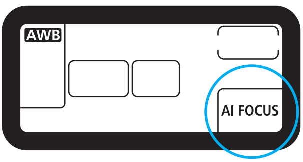
*動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AFフレーム自動選択のときは、初めに中央AFフレームで被写体をとらえます。AF中に被写体が中央AFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。AFフレームは光りません。
- 任意のAFフレームを選択しているときは、選択したAFフレームで動体予測を行います。

C.Fn AIサーボAF作動中に〈✱〉ボタンを押すと、押している間AFの作動を一時停止することができます。（C.Fn-04-2→142）

AFモードを自動的に切り換えるAIフォーカスAF



AIフォーカスAFは、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。
ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

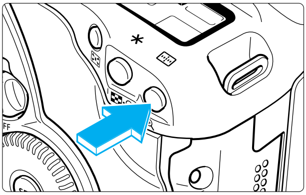
AFフレームの選択

AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には「自動選択」と「任意選択」があります。
簡単撮影ゾーンと〈 A-DEP 〉では自動選択になりますが、〈 **P** 〉〈 **Tv** 〉〈 **Av** 〉〈 **M** 〉の撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

● **自動選択**
7点のAFフレームの中から、撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

● **任意選択**
7点のAFフレームから、任意の1点を選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたい場合や、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたい場合に便利な機能です。

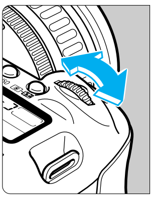
AFフレーム選択の基本操作



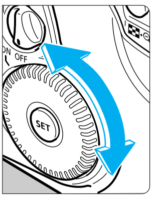
〈 〉ボタンを押す（6）

● AFフレームは〈 〉ボタンを押したあと、ファインダーまたは表示パネルを見ながら〈 〉〈 〉を回して選択します。

横方向



縦方向

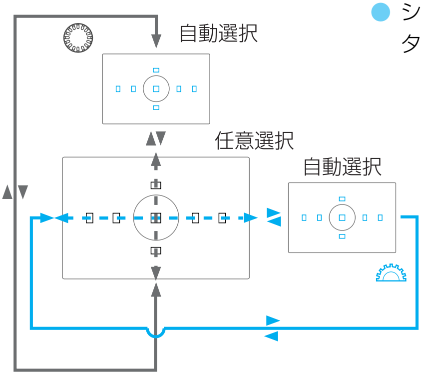


横方向のAFフレーム選択

● 〈 〉ボタンを押して〈 〉を回します。
➡ AFフレームが横方向に移動します。

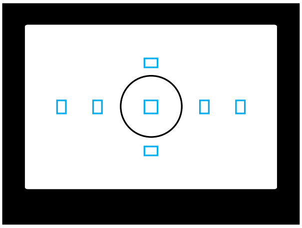
縦方向のAFフレーム選択

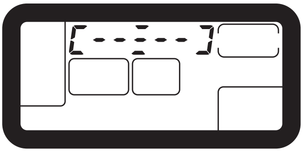
● 〈 〉ボタンを押して〈 〉を回します。
➡ AFフレームが縦方向に移動します。
● シャッターボタンの半押し、または再度〈 〉ボタンを押すと撮影準備状態に戻ります。



C.Fn
〈 〉ボタンを押さずに、〈 〉の単独操作でAFフレームの選択ができます。
（C.Fn-13-3→146）

自動選択



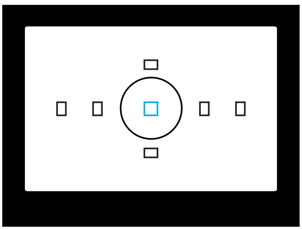


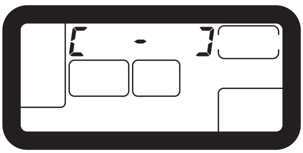
すべてのAFフレームを赤く表示させる

- 〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉または〈 〉を回してファインダー内表示を図のようにします。
- 一番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。
- 表示パネルを見ながら行うこともできます。

任意選択

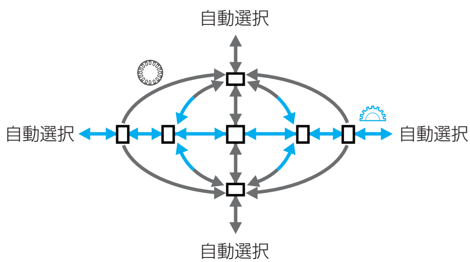
中央AFフレーム選択例





希望する1点のAFフレームを赤く表示させる

- 選択方法は『AFフレームの基本操作』(→63)を参照してください。
- 〈 〉と〈 〉によるAFフレームの詳細な動き方は次のとおりです。
- 表示パネルを見ながら行うこともできます。



C.Fn 合焦時にAFフレームが赤く光らないようにすることができます。(C.Fn-10-1→145)

MENU AFフレームの登録と切り換え

よく使うAFフレームをあらかじめ登録しておくことで、他のAFフレームから、瞬時に登録AFフレームへの切り換えができます。中央以外のAFフレームを登録した構図優先の設定や、AFフレーム自動選択を登録したシャッターチャンス優先の設定など、撮影目的に応じてAFフレームを登録します。すべてのAFフレームが登録対象となります。複数登録はできません。

AFフレームの登録



1 メニューから [カスタム機能(C.Fn)] を選ぶ

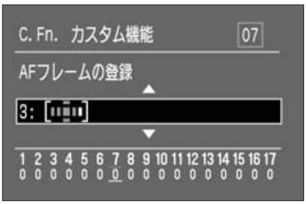
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して [**カスタム機能(C.Fn)**] を選び、〈SET〉を押します。

➡ カスタム機能画面が表示されます。



2 C.Fn-07 [AFフレームの登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**AFフレームの登録**] を選び、〈SET〉を押します。



3 AFフレームを登録する

- 〈◎〉を回して希望するAFフレームを選び、〈SET〉を押します。
- 4 : [▪▪▪▪▪] が自動選択です。

➡ 選択したAFフレームが登録されます。

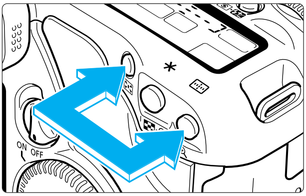
- 〈MENU〉ボタンを押すとメニューに戻ります。
- 再度〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。

4 オートフォーカス

登録したAFフレームのことをHPと呼びます。HPはHome Position（ホームポジション）の略です。

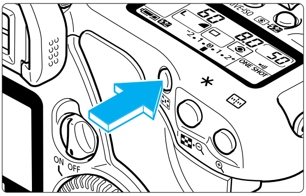
登録AFフレームへの切り換え

カスタム機能が初期状態での登録AFフレームへの切り換えは〈 〉ボタンと〈 〉ボタンの同時押しで行いますが、カスタム機能C.Fn-13-1、2を設定することにより、〈 〉ボタン単独押しで切り換えることができます。



① 〈 〉ボタンと〈 〉ボタンの同時押しで切り換え

- カスタム機能を設定しない初期状態の切り換え方法です。



設定方法は『カスタム機能の設定方法』(→141)を参照するか、65ページと同じ要領で設定してください。

② 〈 〉ボタン単独押しで切り換え

C.Fn-13-1 (→146)

③ 〈 〉ボタン単独押しで、押している間だけ切り換え

C.Fn-13-2 (→146)

- 〈 〉ボタン離すと元のAFフレームに戻ります。

C.Fn-13-1、2とC.Fn-04-1、3を組み合わせて設定すると、〈 〉ボタン単独押しで登録AFフレームへの切り換えと、AFスタートを同時に行うことができます。

AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

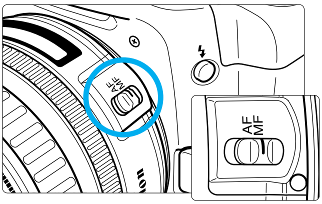
次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

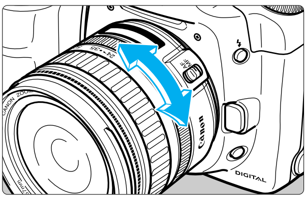
(a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体 ………………… 例：青空、単色の平面など
(b) 非常に暗い場所にある被写体
(c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体 ……… 例：反射光の強い車のボディ
(d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態 ……… 例：おりの中の動物

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。
(1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉（または〈M〉）にして手動ピント合わせを行う。（→23）

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



1 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉（または〈M〉）に切り換える**

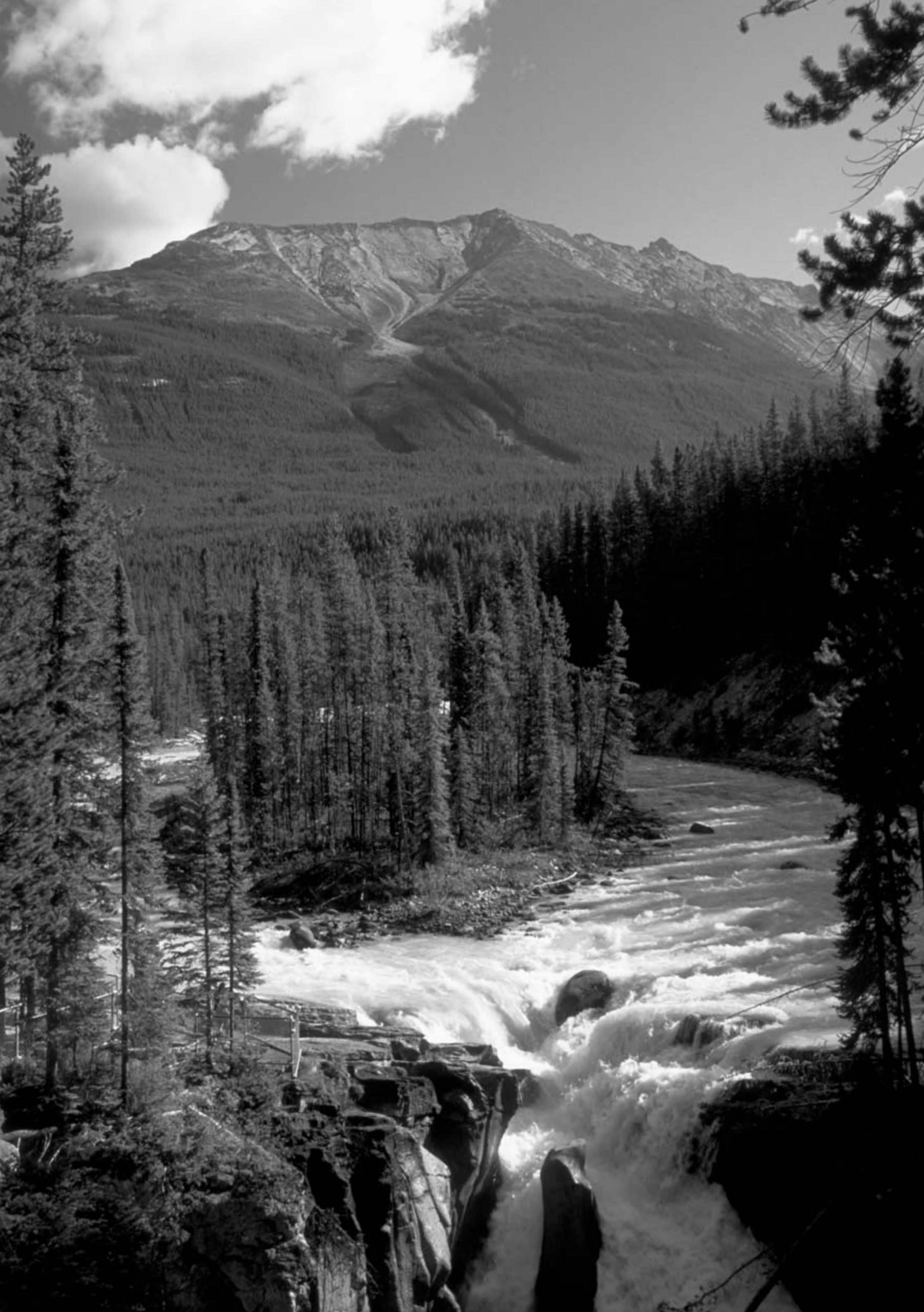


2 **ピントを合わせる**

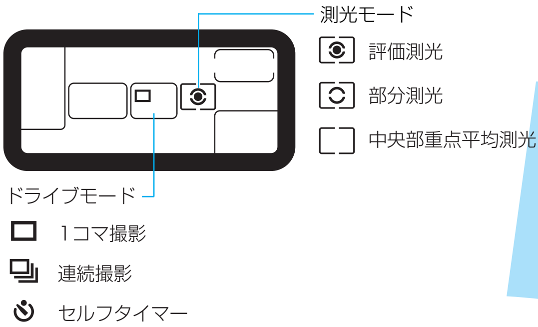
- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 外部ストロボ使用時にAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外のAFフレームではピントが合わないことがあります。
- USM（Ultrasonic Motor／超音波モーター）レンズのとき
  USMレンズ（距離目盛りのないUSMレンズを除く）はワンショットAFで作動したあと、そのままフォーカスリングを操作してピントを微調整（フルタイムマニュアル）することができます。

4 オートフォーカス

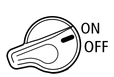


測光モードには、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光があります。ドライブモードには、1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマーがあります。撮影状況や撮影意図にあわせて選択してください。



測光方式とドライブモードの選択

簡単撮影ゾーンでは、測光モードとドライブモードは自動設定されます。セルフタイマーのみ設定できます。

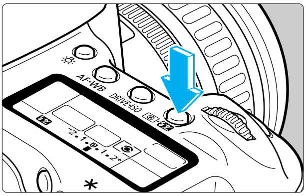


あらかじめ〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

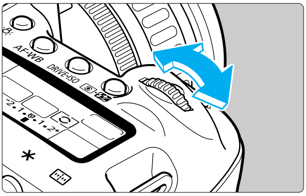
5

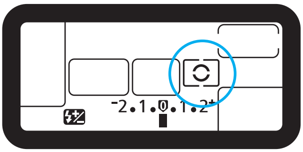
測光モードの選択

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。
簡単撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されますが、応用撮影ゾーンでは測光モードを選ぶことができます。



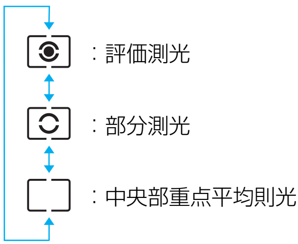
1 〈◎·±〉ボタンを押す（⏱6）





2 測光モードを選ぶ

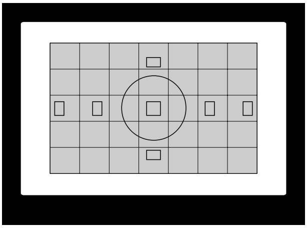
- 表示パネルを見ながら〈 〉を回し、希望する測光モードを選びます。



- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

手順2で〈○〉を回すと、内蔵／外部ストロボの調光補正（→97）になります。

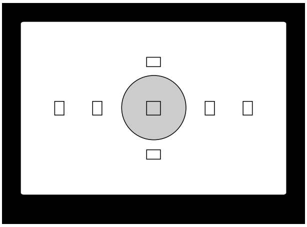
測光モードの種類



評価測光

逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内を35に分割してすべてのAFフレームに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める主被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光や、カメラの姿勢（縦横）など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出値にします。

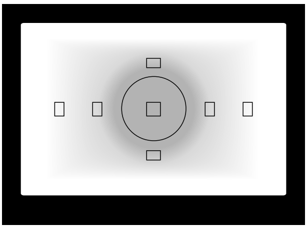
- 手動ピント合わせ時は、常に中央AFフレーム基準の評価測光になります。
- 主被写体が極端な逆光下にあったり、強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光〈〉の使用をおすすめします。



部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9%の範囲を測光します。

- 部分測光の測光範囲はおよそ左図の範囲となります。



中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

DRIVE ドライブモードの選択

ドライブモードには以下の3つの方式があります。

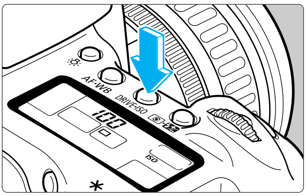
□ 1コマ撮影 ：シャッターボタンを押すと1コマ撮影します。

連続撮影 ：シャッターボタンを押しつづけている間、連続撮影ができます。

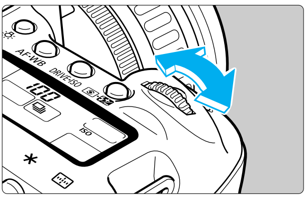
セルフタイマー撮影 ：シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、約10秒後に撮影されます。（→73）

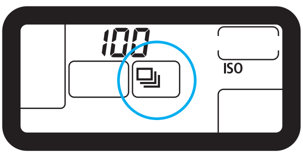
記録画質	連続撮影速度		連続撮影時の最大撮影可能コマ数
	ワンショットAF	AIサーボAF	
L/L/M/M/S/S	約3コマ／秒		約9コマ
RAW			

- 〈RAW〉はC.Fn-08の設定状態に関係なく表の値になります。
- 連続撮影速度、連続撮影時の最大撮影可能コマ数は、当社試験基準によります。（シャッター速度1/250秒以上、ISO100設定時）



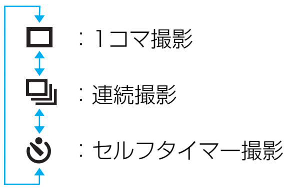
1 〈DRIVE•ISO〉ボタンを押す（6）





2 ドライブモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉を回し、希望するドライブモードを選びます。



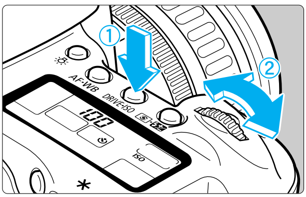
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

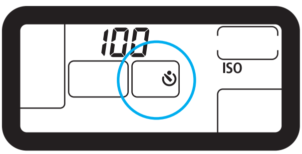
- CFカードの空き容量が少なくなり、撮影可能コマ数が9コマ以下になったときは、連続撮影できないことがあります。
- 連続撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存されてから、順次CFカードに記録されるため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「buSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。CFカードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタン半押しでファインダー内右下に表示される「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」（9～0）で、そのとき撮影できるコマ数を確認してください。なお、「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」は、CFカードを入れていないときは表示されません。
- 内部メモリーからすべての撮影画像がCFカードへ記録される前（アクセスランプ点滅中）にシャッターボタンを半押しすると、CFカードへの記録が一時的に中止されます。
- ファインダー内と表示パネルに「FuLL CF」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。

- ホワイトバランスブラケティング（→50）設定時も9コマの連続撮影ができます。
- 手順2で〈 〉を回すと、ISO感度の設定（→45）になります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



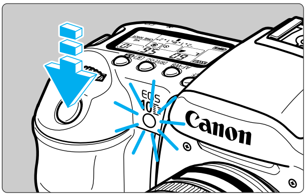


1 セルフタイマーを選ぶ

- 〈DRIVE•ISO〉ボタンを押し、表示パネルを見ながら〈 〉を回して〈 〉を選びます。

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてシャッターボタンを半押しし、合焦マーク〈●〉の点灯と露出表示を確認します。



3 撮影する

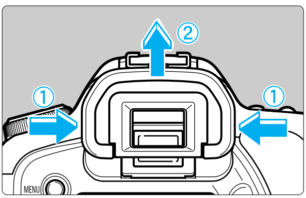
- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプが点滅し、電子音が鳴り始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。
- ➡ 約10秒後に撮影されます。
  始めの8秒間：ランプ点滅
  　　　　　　／ゆっくりピッ、ピッ音
  最後の2秒間：ランプ点灯／早くピピピ音
- ➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈DRIVE•ISO〉ボタンを押します。

> レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、狙った被写体にピントが合わなくなります。

> - ピントが合ったときの電子音やセルフタイマー撮影時の作動音の［入］［切］を設定することができます。（➝136）
> - 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（➝61）して撮影します。

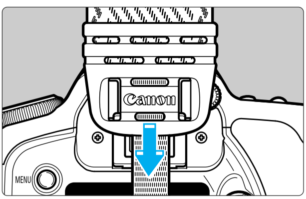
アイピースカバーの使い方

セルフタイマーやリモコンを使うときなど、ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのようなときは、ストラップのベルト部分の端についているアイピースカバーを使います。



1 アイカップを外す

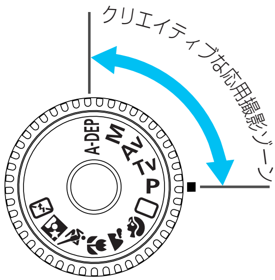
- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

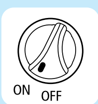
応用撮影ゾーンではシャッター速度や絞り数値を選択して露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影をすることができます。



撮影目的にあわせた応用撮影

- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（4）表示されます。
- 被写界深度確認、露出補正、AEB、AEロック、バルブは応用撮影ゾーンでのみ行うことができます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』(→159) を参照してください。





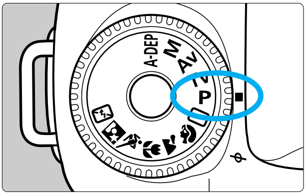
あらかじめ〈 〉スイッチと〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

P プログラムAE撮影



〈□〉と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

＊ **P** は、Program（プログラム）の略です。
＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈**P**〉にする



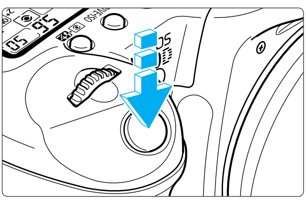
2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。

➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。

- 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、撮影できません。『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）』（→67）を参照してください。
- 合焦マーク〈●〉の左側に表示される数字「9」〜「0」は、最大何コマ連続撮影できるかを示しています。
- CFカードの空き容量が少なくなり、撮影できるコマ数が9コマ以下になったときは、「[9]」〜「[0]」が表示されます。

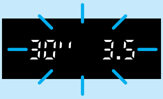


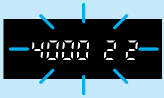
3 撮影する

- 構図を決め、露出値が点滅していないことを確認して、シャッターボタンを全押しします。

➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

露出警告





露出値が点滅するときは露出が不適切です。撮影できますが明るすぎたり暗すぎたりした写真になります。詳しくは『露出警告表示一覧』（→160）を参照してください。

- AFフレームが自動選択（→64）になっている場合は、同じピント位置のAFフレームが複数点灯します。

P と □（全自動）の違い

- 自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせはともに同じです。
- 〈 P 〉では次の機能の選択・設定または使用が可能ですが、〈 □ 〉ではできません。

撮影機能関係
AFモード選択
AFフレーム任意選択
ドライブモード選択
測光モード選択
プログラムシフト
露出補正
AEB
〈✱〉ボタンによるAEロック
被写界深度確認
カメラ設定初期化
カスタム機能（C.Fn）
カスタム機能一括解除
撮像素子の清掃

ストロボ関係（内蔵ストロボ）
常時発光/発光禁止
FEロック
ストロボ調光補正

ストロボ関係（EXスピードライト）
マニュアル/マルチ発光
ハイスピードシンクロ
FEロック
光量比制御
ストロボ調光補正
FEB
後幕シンクロ
モデリング発光

記録画像関係
〈RAW〉選択
ISO感度設定
ホワイトバランス選択
MWB画像選択
WB-BKT設定
色温度指定
現像パラメーター設定

プログラムシフトについて

- プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が表示されるまで〈 ⚙ 〉を回して行います。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。
シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

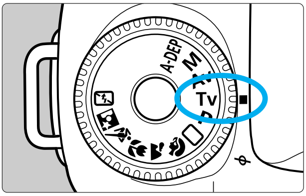
＊ Tv は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



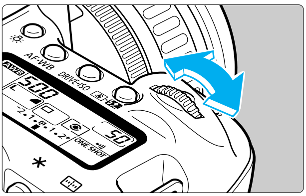
速いシャッター速度



遅いシャッター速度

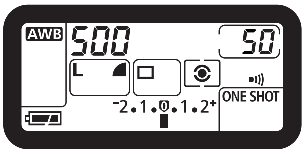


1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

● 〈 〉を回して希望するシャッター速度を設定します。



3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。



4 撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

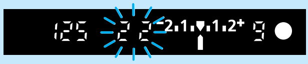
● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

露出警告

- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くします。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径／最小絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くします。



シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段ステップで設定することができます。表示されたシャッター速度の「4000」から「4」までは分数の分母を表しています。例えば「125」は1/125秒を表しています。また、「0"7」は0.7秒を、「15"」は15秒を表しています。

4000	3000	2000	1500	1000	750	500	350	250	180				
125	90	60	45	30	20	15	10	8	6	4	0"3	0"5	0"7
1"	1"5	2"	3"	4"	6"	8"	10"	15"	20"	30"			

C.Fn

- セイフティシフト機能を付加することができます。（C.Fn-16-1→147）
  設定したシャッター速度に対して絞り数値が変化しても適正露出が得られないとき、シャッター速度が自動的にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセイフティシフトといいます。
- シャッター速度の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）

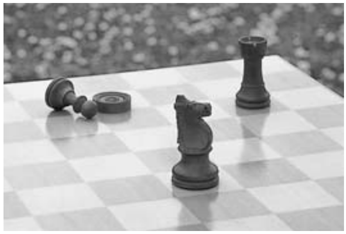
Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。
絞り数値を小さくする（開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

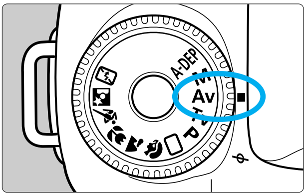
＊ **Av** は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。



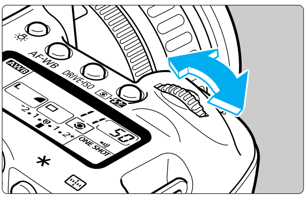
小さい絞り数値



大きい絞り数値

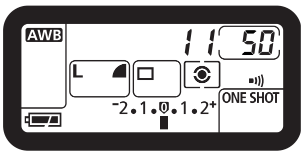


1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

● 〈 〉を回して希望する絞り数値を設定します。



3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ シャッター速度が自動的に決まります。



4 撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。
● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

露出警告

- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくして（絞りを開いて）ください。



- シャッター速度の「4000」が点滅しているときは、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくして（絞りを閉じて）ください。



絞り数値の表示

絞り数値は1/2段ステップで設定することができます。数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。

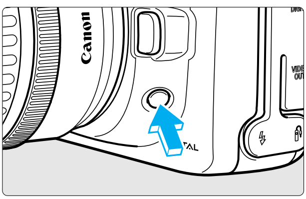
1.0	1.2	1.4	1.8	2.0	2.5	2.8	3.5	4.0	4.5	5.6	6.7	8.0	9.5
11	13	16	19	22	27	32	38	45	54	64	76	91	

カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

C.Fn

- セイフティシフト機能を付加することができます。（C.Fn-16-1→147）
  設定した絞り数値に対してシャッター速度が変化しても適正露出が得られないとき、絞り数値が自動的にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセイフティシフトといいます。
- 絞り数値の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）
- ストロボ撮影時のシャッター速度を1/200秒に固定することができます。（C.Fn-03-1→142）

被写界深度を確認する



ピントを合わせた被写体を中心にその前後にもピントの合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度（→158）といいます。絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。

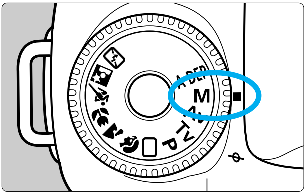
- 応用撮影ゾーンで機能します。
- 〈A-DEP〉では、シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったあとで機能します。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M 自分で露出を決めて撮る

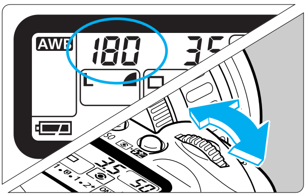


カメラまかせではなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用し自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊ **M** は、Manual（マニュアル）の略です。

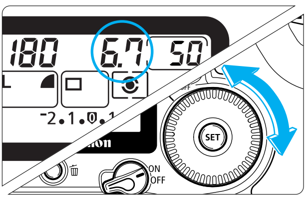


1 モードダイヤルを〈**M**〉にする



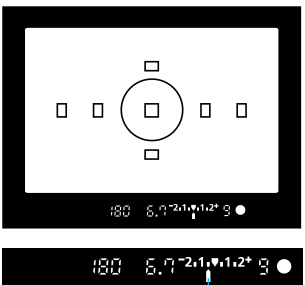
2 シャッター速度を設定する

● 〈 〉を回して希望するシャッター速度を設定します。



3 絞り数値を設定する

● 〈 〉スイッチを〈ON〉にして、〈 〉を回して希望する絞り数値を設定します。



露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。

➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。

● 露出レベルマーク〈 〉で標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

5 露出を決める

- 任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

標準露出指標



：露出を決めるときの基準です。



：標準露出にするには、シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。



：標準露出にするには、シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

露出レベルマーク

- 露出レベルマーク〈▲〉が〈**2+**〉または〈**-2**〉の位置で点滅しているときは、露出が〈**2+**〉または〈**-2**〉を超えていることを示しています。

6 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

6

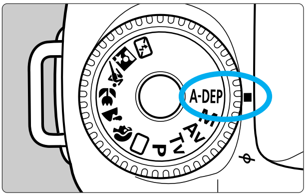
撮影目的にあわせた応用撮影

C.Fn シャッター速度、絞り数値の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）

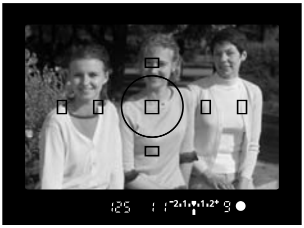
A-DEP近くから遠くまでピントが合った画像を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な画像を撮ることができます。7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

＊ A-DEP は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略で自動被写界深度のことです。



1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。
- シャッターボタンを半押ししたまま絞り込みボタンを押すと、ピントの合う範囲を事前に確認することができます。（→81）

3 撮影する

- 露出値が点滅していなければ適正露出です。
- 構図を決めシャッターボタンを全押しします。
- 手順2の作例の場合、左手前の被写体から、右奥の被写体までが鮮明に写ります。

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉（または〈M〉）になっていると、〈A-DEP〉撮影できません。
- 絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。

- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- AFモードの設定に関係なく、ワンショットAFでの撮影になります。
- ストロボを使用したときは〈P〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にしたりして撮影できます。設定できる補正量は1/2段ステップで±2段の範囲です。

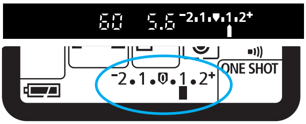
1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする



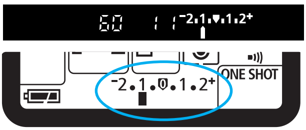
2 ピントを合わせ、露出レベル表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

プラス補正

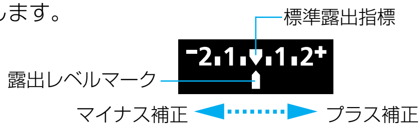


マイナス補正



3 補正量を設定する

- 〈 〉スイッチを〈ON〉にして、ファインダーまたは表示パネルを見ながら〈 〉を回して希望する補正量を設定します。
- 〈 〉の操作はシャッターボタン半押し中か、半押し後（ 4 ）作動中のみ有効です。
- 「＋」はプラス補正を、「－」はマイナス補正を示します。



- 露出補正を解除するときは、補正量を〈 〉または〈 〉の位置に戻します。

4 撮影する

- 設定した補正量は〈 〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値F5.6が適正露出のとき、露出レベルで1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	－1段	←	0	→	＋1段
シャッター速度なら	250	←	125	→	60
絞り数値なら	8.0	←	5.6	→	4.0

- 不用意に〈 〉が動いて補正量が変わらないようご注意ください。〈 〉スイッチを〈OFF〉にすると安全です。

C.Fn
- 露出補正量の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）
- 〈 〉ボタンを押しながら〈 〉を回して露出補正量を設定することができます。（C.Fn-13-3→146）

6 撮影目的にあわせた応用撮影

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

1/2段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの画像を撮影できます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。
撮影モード〈**P**〉では、シャッター速度と絞り数値の両方を変えてAEB撮影します。
〈**Tv**〉では、絞り数値を変えてAEB撮影します。
〈**Av**〉〈**M**〉〈**A-DEP**〉では、シャッター速度を変えてAEB撮影します。


標準露出（0）


マイナス補正（－1/2）


プラス補正（＋1/2）



1 メニューから［AEB設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**AEB設定**］を選び、〈SET〉を押します。

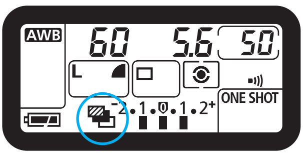


AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈◎〉を回してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

➡ 表示パネルに〈AEB〉とAEBレベルが表示されます。



標準露出



マイナス補正



プラス補正



3 撮影する

➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

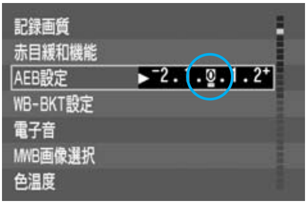
➡ 撮影順に補正位置が表示されます。

➡ 設定しているドライブモード（→72）に従って撮影されます。

➡ AEB撮影中は〈✱〉とAEBレベルが点滅します。

- セルフタイマーを併用したときは、10秒後、自動的に3コマ連続撮影されます。

AEB撮影の解除



- 手順1、2の操作でAEBレベル量を〈▸⁻2.1.0.1.2⁺〉にします。
- 〈モードダイヤル〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換でも自動解除されます。

- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。
- カスタム機能C.Fn-12-1（→145）でミラーアップを設定した状態でAEB撮影する場合、ドライブモードを連続撮影にしても1コマ撮影となります。

- ドライブモードが1コマ撮影の場合は、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。そのとき、露出レベルの表示範囲を超える露出補正をすると、表示は次のようになりますが、補正は設定どおりに行われます。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈A-DEP〉の場合



露出補正－2段、AEB±1段

〈M〉の場合



中心露出が標準露出に対して－2段、AEB±1段

C.Fn

- AEBの設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）
  そのときのファインダー内のAEB表示は次のようになります。

AEB±1/3段



：－1/3時

AEB±2/3段



：－2/3時

- 撮影順序をマイナス補正→標準露出→プラス補正の順に変更することができます。（C.Fn-09-2、3→144）
- AEB撮影を〈モードダイヤル〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換で解除しないようにすることができます。
  （C.Fn-09-1、3→144）

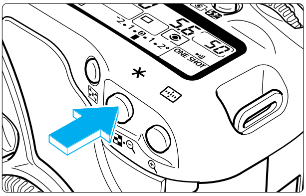
6
撮影目的にあわせた応用撮影

✱露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。
AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによりAEロックの効果は変わります。詳しくは『AEロックの効果』(→161)を参照してください。

1 ピントを合わせる

➡ ファインダー内に露出値が表示されます。



2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定(AEロック)されます。
- 露出を合わせたい被写体をファインダー中央において〈✱〉ボタンを押します。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。



AEロック表示

3 構図を決めて、撮影する

- シャッターボタンを全押しします。



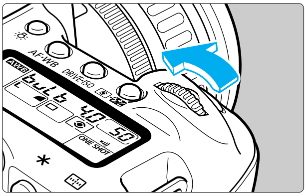
ワンショットAFと評価測光の組み合わせの場合、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時に自動的にAEロックされます。

C.Fn
〈✱〉ボタンの代わりにシャッターボタン半押しでAEロックを行い、〈✱〉ボタンでピントを合わせることもできます。(C.Fn-04-1→142)

長時間露光（バルブ）撮影

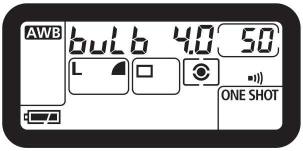
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

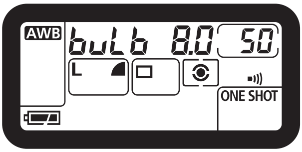
1 モードダイヤルを〈M〉にする



2 シャッター速度を「bulb」にする

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回して「bulb」を選びます。
- 「30"」の次が「bulb」です。





3 絞り数値を設定する

- 〈ダイヤル〉を回して希望する絞り数値を設定します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。（1～999秒まで表示）
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

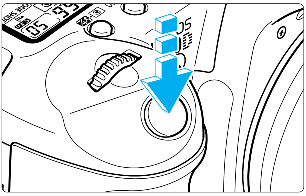
長時間露光は撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像となります。

連続してバルブ撮影を行ったときの撮影可能時間は、約2.5時間（フル充電バッテリー使用時）です。

シャッターボタンを押したままにできる機能がついているリモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）をカメラのリモコン端子に接続して使用すれば、指でシャッターボタンを押したままにする必要はありません。（→171）

ミラーアップ撮影

カスタム機能C.Fn-12-1（➞145）を利用して、ミラーアップと露光を別々に行うミラーアップ撮影を行うことができます。ミラーショックが気になる近接撮影や超望遠レンズを使用するときに活用してください。カスタム機能の設定は、『カスタム機能の設定方法』（➞141）を参照してください。ミラーアップ撮影を設定すると、カメラの作動は以下のようになります。



1 シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーアップします。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。そのときは、再度シャッターボタンを全押しします。

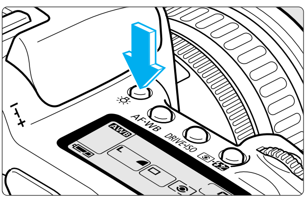
2 再度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われ、ミラーが下がります。
- もう一度撮影するときは、手順1から行います。

- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでのミラーアップ撮影では、ミラーアップ安定後速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するとき、セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。

- ミラーアップ撮影にはリモートスイッチRS-80N3（別売）のご使用をおすすめします。
- ミラーアップ撮影は、ドライブモード（➞72）の設定にかかわらず1コマ撮影になります。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用すると、始めのシャッターボタン全押しでミラーアップし、2秒後に撮影されます。

表示パネルの照明

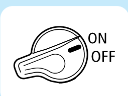


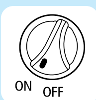
表示パネルには照明機能が付いています。
〈☼〉ボタンを押すたびに照明が点いたり（⏱6）消えたりします。暗い場所での撮影で表示パネルが見にくいときに使用してください。表示パネルの照明は撮影終了後、約2秒で自動的に消えます。バルブ撮影では、撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

表示パネルが照明されている間に、撮影に関わる各種ボタン、モードダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。

内蔵ストロボ、またはEOS専用EXシリーズスピードライトを使用すると、E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、通常のAE撮影と同じ感覚で、主被写体重視の自然で雰囲気のあるストロボ撮影を簡単に行うことができます。
この章では内蔵ストロボ、EOS専用スピードライト550EXを使用した撮影について説明しています。550EXの詳しい操作については、550EXの使用説明書を参照してください。

7 ストロボを使った撮影





あらかじめ〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。また、必要に応じ、〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

7

内蔵ストロボを使用した撮影

内蔵ストロボを使用すると、通常のAE撮影と同じ感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。

●E-TTL自動調光撮影

E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシンクロになり、主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な撮影を全自動で行うことができます。

●FE（Flash Exposure（フラッシュ エクスポージャー））ロック

被写体の任意部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

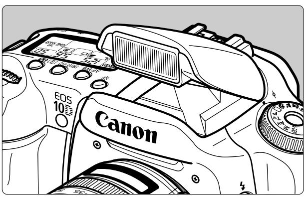
●ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を補正することができます。補正できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

簡単撮影ゾーン（〈 〉〈 〉〈 〉を除く）では、暗いときや日中逆光時に、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。
ここでは、〈□〉（全自動）と組み合わせたE-TTL自動調光撮影について説明します。

1 モードダイヤルを〈□〉にする



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、被写体にピントを合わせます。
- ➡ 必要に応じて自動的に内蔵ストロボが上がります。



ストロボ充電完了表示

3 〈⚡〉の点灯を確認する

- ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 内蔵ストロボが発光して撮影されます。
- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

応用撮影ゾーンでは、〈ϟ〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げてから撮影します。

P ：カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。
シャッター速度と絞り数値は〈□〉（全自動）と同様、自動的に決まります。

Tv ：1/200秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。

Av ：任意の絞り数値を設定したいときに選択します。
夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で適正露出になります。

- 自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。

M ：シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

A-DEP ：〈 **P** 〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離

（EF24-85mm F3.5-4.5 USM使用時）

ISO感度	WIDE : 24mm	TELE : 85mm
100	約1～3.7m	約1～2.9m
200	約1～5.3m	約1～4.1m
400	約1～7.4m	約1～5.8m
800	約1～10.5m	約1～8.2m
1600	約1～14.9m	約1～11.6m
H : 3200	約1～21m	約1～16.3m

ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値（調光絞り値）の設定
P（絞り優先AE）	自　動（1/60秒～1/200秒）	自　動
Tv（シャッター優先AE）	手　動（30秒～1/200秒）	自　動
Av（絞り優先AE）	自　動（30秒～1/200秒）	手　動
M（マニュアル露出）	手　動（30秒～1/200秒）	手　動
A-DEP（絞り優先AE）	自　動（1/60秒～1/200秒）	自　動

- EXシリーズスピードライトを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、画面の一部がケラレ（欠け）て暗い画像になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラレてしまいます。必ずフードを外してから撮影してください。
- 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がケラレることがあります。
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、レンズ表記焦点距離18mmまでです。18mm未満の広角レンズを使用すると、撮影した画像の周囲が暗くなります。
- 内蔵ストロボ充電中は、「buSY」と〈ϟ〉がファインダー内に表示されます。

- E-TTLのEは、英語のEvaluative（評価）の頭文字をとったものです。
- 〈**Tv**〉〈**M**〉で1/200秒より速いシャッター速度を設定しても、自動的に1/200秒に設定されます。
- AF撮影時のストロボ露出は、常に撮影時の絞り数値を基準に、AFフレーム連動・主被写体重視のE-TTL自動調光で制御されます。
- AFでピントが合わせにくい状況では、AF補助光（→35）が被写体に向けて自動投光されます（〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉を除く）。

C.Fn
- 内蔵ストロボの発光を禁止することができます。（C.Fn-05-3→143）
- 内蔵ストロボの同調タイミングを後幕シンクロにすることができます。（C.Fn-15-1→146）
- 〈**Av**〉でストロボ撮影するときのシャッター速度を1/200秒に固定することができます。（C.Fn-03-1→142）

赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人の瞳孔を小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は〈 〉〈 〉〈 〉以外のすべての撮影モードで機能します。



1 メニューから［赤目緩和機能］を選ぶ

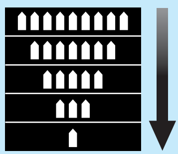
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈 〉を回して［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。



2 赤目緩和機能を設定する

- 〈 〉を回して［**入**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和機能はEXシリーズスピードライト使用時も機能します。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。

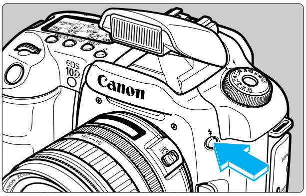


赤目緩和ランプ
点灯表示

室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

✱ FEロック撮影

FE（Flash Exposure）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。FEロックは応用撮影ゾーンで機能します。



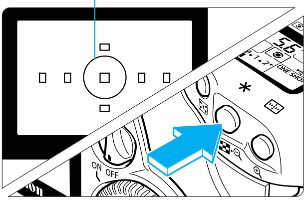


1 〈⚡〉の点灯を確認する

- 〈⚡〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げておきます。
- ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

- 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。



①



②



3 〈✱〉ボタンを押す（⏱16）

- ファインダーの部分測光範囲を被写体に合わせて〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露出量を記憶します。
- ➡ ファインダー内に〈✱〉が点灯します。
- ➡ 中央のAFフレームが一瞬赤く光ります。
- ➡ ファインダー内の表示が約0.5秒間、①のようになり、そのあと②の表示になります。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。



4 撮影する

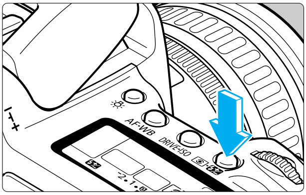
- 構図を決めて撮影します。

❗ 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいてもう一度手順2～4の操作をします。

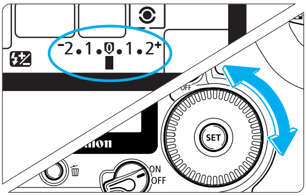
C.Fn 〈⊡〉ボタンでFEロックを行うことができます。（C.Fn-13-4→146）

ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。設定できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。ストロボ調光補正は応用撮影ゾーンで機能します。

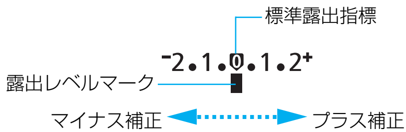


1 〈 〉ボタンを押す（6）



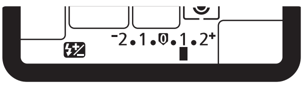
2 補正量を設定する

- 〈 〉スイッチを〈ON〉にして、表示パネルまたはファインダーを見ながら〈 〉を回し、希望する補正量を設定します。
- 「+」はプラス補正を、「−」はマイナス補正を示します。

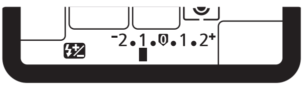


- ストロボ調光補正を解除するときは、補正量を〈0〉の位置に戻します。

プラス補正



マイナス補正



3 撮影する

- 設定した補正量は〈 〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 手順2で〈 〉を回すと、測光モードの選択（→70）になります。

C.Fn
- 調光補正量の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）
- ストロボ露出自動低減制御を解除することができます。（C.Fn-14-1→146）

7 ストロボ撮影

EOS専用スピードライト550EXを使用した撮影

キヤノンスピードライト550EXを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。

●E-TTL自動調光



E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシンクロになり、主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な撮影を全自動で行うことができます。

●ハイスピードシンクロ（FP発光）

30秒から1/4000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。

●FE（Flash Exposure）ロック

（フラッシュ エクスポージャー）

被写体の任意部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

●ストロボ調光補正

通常のAE露出補正と同じ感覚で、ストロボ光のみの調光補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/2段ステップ±2段です。

●FEB（Flash Exposure Bracketing）

（フラッシュ エクスポージャー ブラケティング）

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/2段ステップ±3段です。

●モデリング発光

ストロボ撮影時の影の出かたや、多灯発光によるライティングのバランスを事前に確認することができます。

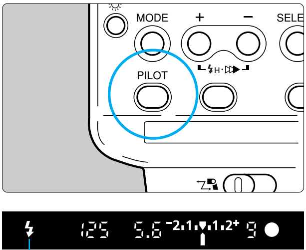
●ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光

カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影ができます。接続コードが不要なため、自由で高度なライティング設定が可能です。

- ピントが合わせにくい状況では、550EXからAF補助光が被写体に向けて自動投光されます。
- EOS専用外部ストロボ使用時におけるこのカメラの区分は、Aタイプ（E-TTL自動調光対応）カメラです。

全自動ストロボ撮影

ここでは、〈**P**〉(プログラムAE)と組み合わせたE-TTL自動調光撮影について説明します。550EXの操作については、550EXの使用説明書を参照してください。



ストロボ充電完了表示

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 550EXのパイロットランプの点灯を確認する

3 被写体にピントを合わせて撮影する

- ファインダー内の〈ϟ〉の点灯と、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影モード別ストロボ撮影

〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉の撮影モードと組み合わせたときも、ストロボを使用しない通常撮影と同じ操作でE-TTL自動調光撮影を行うことができます。

(1)シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値(調光絞り値)の設定
Tv (シャッター優先AE)	手　動(30秒〜1/200秒)	自　動
Av (絞り優先AE)	自　動(30秒〜1/200秒)	手　動
M (マニュアル露出)	手　動(30秒〜1/200秒)	手　動

＊ 暗いところで〈**Av**〉を設定すると、シャッター速度が遅くなりますので、手ブレ防止のため、三脚を使用してください。

(2)シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にした「プリ発光・記憶式評価調光」により、E-TTL自動調光撮影が行われます。

(3)背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。

- 〈**A-DEP**〉でストロボ撮影したときは、〈**P**〉と同じ撮影結果になります。
- 撮影モードを簡単撮影ゾーンにしたときは、内蔵ストロボを使用したときと同じ感覚で、カメラまかせでストロボ撮影ができます。

C.Fn
- EXシリーズスピードライトの発光を禁止することができます。(C.Fn-05-3→143)
- 〈**Av**〉でストロボ撮影するときのシャッター速度を1/200秒に固定することができます。(C.Fn-03-1→142)

ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影

550EXをハイスピードシンクロモード〈 〉にすると、1/200秒よりも速いシャッター速度が設定されても、自動的にすべてのシャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影が可能になります。ハイスピードシンクロ状態になると、カメラのファインダー内に〈 H〉が表示されます。

ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影などで効果を発揮します。

- 日中シンクロによるポートレート撮影で、絞りを開いて（絞り数値を小さくして）背景をぼかす。
- キャッチライトを入れる。
- シャドー部に補助光を与える。



通常発光



FP発光

FEB撮影

550EXでは背景の露出を変えずに1/2段ステップ±3段の範囲で、自動的に発光量を変えながら3コマのストロボ撮影を行うことができます。これをFEB（Flash Exposure Bracketing）撮影といいます。



標準露出（0）



マイナス補正（－1.0）



プラス補正（＋1.0）

- FEBの設定は550EXで行います。詳しくは550EXの使用説明書を参照してください。
- FEB撮影は550EXの充電を確認してから行ってください。〈□〉（1コマ撮影）をおすすめします。

C.Fn FEBの設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-1→143）

✱ FEロック撮影

FEロック撮影の操作については、内蔵ストロボの『FEロック撮影』(→96)に準じます。
なお、550EXの発光モードは、通常発光／ハイスピードシンクロ(FP発光)のどちらでも構いません。それぞれの発光モードに対応したFEロック撮影ができます。

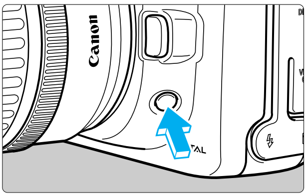
ストロボ調光補正

調光補正の操作については、内蔵ストロボの『ストロボ調光補正』(→97)に準じます。

EXシリーズスピードライトの中には、ストロボ側でも調光補正を設定できるものがあります。これらのストロボとカメラの両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側の補正が優先し、カメラによる補正は機能しません。

モデリング発光

ストロボ撮影による被写体の影の出かたや、多灯発光によるライティングのバランスを確認することができます。



1 ストロボ撮影のためのカメラとストロボの設定を確認する

2 カメラの絞り込みボタンを押す

- 550EXが70Hzで約1秒間発光します。

ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影

スピードライト550EXは、次の3つの機能を備えています。

(1) 通常のE-TTL自動調光ストロボ
(2) スレーブストロボ
(3) スレーブ設定された550EXをワイヤレス制御するマスター機能

これらの機能を活用すると、カメラ・ストロボ間の接続コードが不要の「ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影」を簡単に行うことができます。
このシステムは、3灯までの組み合わせ、メイン・サブに区分した光量比の設定など、高度で自由なストロボライティングを実現したものです。

- 詳しくは550EX、ST-E2の使用説明書を参照してください。

マクロリングライトMR-14EX、マクロツインライトMT-24EXをマスターストロボとして、また、スピードライト420EXをスレーブストロボとして使用することもできます。

汎用ストロボを使用した撮影

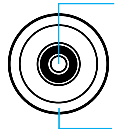
同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは1/60秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

シンクロ端子について

シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ端子はコードの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。

- 他社製のカメラ用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つストロボ）および、ストロボ用付属品をこのカメラに使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- スタジオ用大型ストロボの中には、シンクロコードの極性が、このカメラの極性と逆のものがあります。この場合そのストロボは発光しません。ストロボメーカーに相談されるか、市販の極性変換ケーブルを使用して極性を合わせてください。このカメラの極性は右図のようになっています。



- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。

TTL/A-TTL自動調光スピードライトについて

- TTL、A-TTL自動調光のEZ/E/EG/ML/TLシリーズスピードライトをTTL、A-TTL自動調光状態で使用すると発光しません。マニュアル発光機能を持つスピードライトはマニュアル発光モードで撮影してください。
- 550EXのカスタム機能C.Fn-3-1を設定して、TTL自動調光になっているときは発光しません。

撮影した画像を見る方法や削除の方法、またテレビとの接続方法について説明します。

8 撮影画像の再生

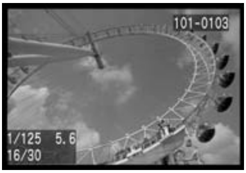
他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにコンピューターなどで画像データを加工したり、ファイル名を変更した画像は、正常に表示できない場合があります。

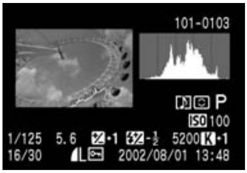
撮影した画像を再生する

撮影した画像を自由に選択して、1コマ表示や画像情報表示、インデックス表示、拡大表示で見ることができます。また画像を回転して表示したり、10コマ先の画像を表示することもできます。

1コマ表示



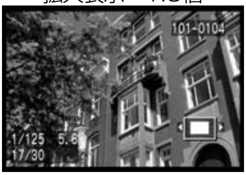
画像情報表示



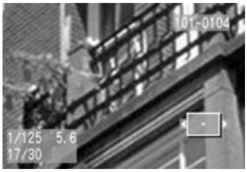
インデックス表示



拡大表示：1.5倍



拡大表示：10倍



回転表示

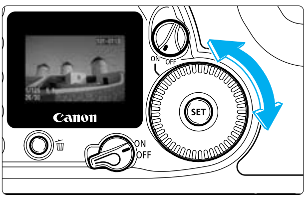


▶ 1コマ表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。



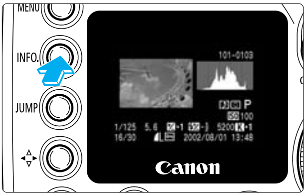
2 表示画像を切り換える

- 〈◎〉を左に回すと、新しい画像から順に古い画像が表示されます。
- 〈◎〉を右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、再生が終了します。

再生状態のままカメラを放置すると、オートパワーオフ（→138）で設定した時間で再生が終了します。

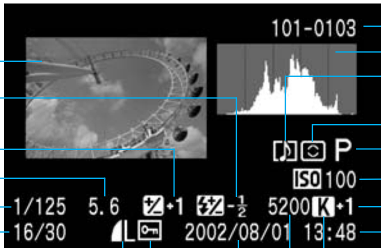
INFO.撮影画像の情報表示

液晶モニターに画像が表示されているときに〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の撮影情報が表示されます。



〈INFO.〉ボタンを押す

- 1コマ表示の状態で〈INFO.〉ボタンを押します。
- 表示画像は1コマ表示同様、〈◎〉の操作で切り換えられます。
- 押すごとに、1コマ表示、画像情報表示が切り換わります。



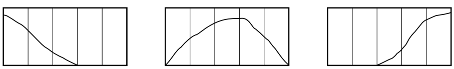
- 撮影準備状態での設定内容表示については、『カメラの設定内容を確認する』(→58)を参照してください。
- オートプレイ、画像回転、画像プロテクト中に〈INFO.〉ボタンを押しても、画像情報を表示することができます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。左によるほど暗い画素になり、右によるほど明るい画素になります。このヒストグラムを見ることにより、撮影した画像がどの程度の明るさか判断することができます。

ヒストグラムを見て、暗いほうに偏っているようであれば、露出補正(→85)をプラス補正し、明るいほうに偏っているようであれば、マイナス補正し、再撮影することで良い結果が得られます。

ヒストグラム例



暗い画像　　普通の明るさの画像　　明るい画像

ハイライト警告表示について

画像情報表示にしたときに、撮影画像の露出オーバー部分を点滅表示します。ヒストグラムを参考に露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

インデックス表示

1画面に9コマの画像を同時に表示します。

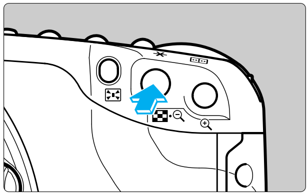


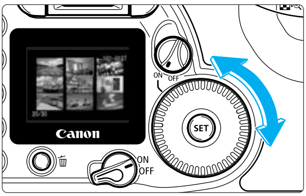
1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈⊞·🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 選択されている画像に緑色の枠がつきます。





3 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、新しい画像から順に古い画像が選択されます。
- 〈◎〉を右に回すと、古い画像から順に新しい画像が選択されます。

4 インデックス表示の状態から任意の方法で画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押すと1コマ表示になります。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の撮影情報が表示されます。
- 〈🔍〉ボタンを1回押すと1コマ表示に、もう一度押すと拡大表示（→107）になります。

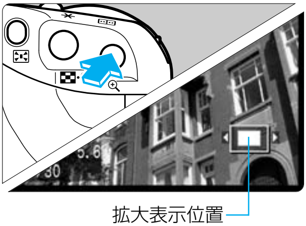
インデックス表示中に〈JUMP〉ボタンを押して〈◎〉を回すと、前または次の9コマ目の画像へジャンプすることができます。（→108）

⊕／⊖ 拡大表示

撮影した画像を、約1.5倍～約10倍に拡大して表示することができます

1 画像を表示する

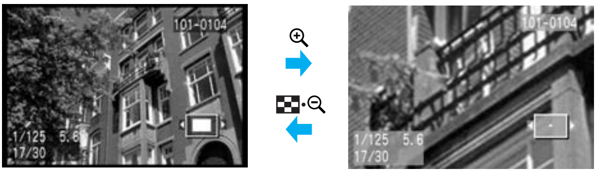
- 拡大したい画像を1コマ表示、または画像情報表示で再生します。

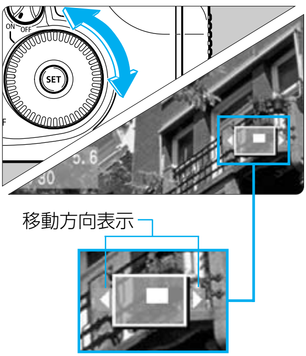


2 画像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 始めに画面の中央が拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈⊞・⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、手順1の状態まで連続的に小さくなります。

1.5倍　　10倍





3 表示位置を移動する

- 〈◎〉を回すと、表示位置が左右方向に移動します。
- 表示位置を上下方向へ移動するときは、〈✥〉ボタンを押して移動方向を切り換えたあと、〈◎〉を回します。〈✥〉ボタンを押すごとに移動方向が切り換わります。
- 表示位置の移動方向は、画面に表示されている〈◀▶〉、または〈▲▼〉で確認することができます。

- 手順2、3を繰り返して希望する位置を拡大します。
- 拡大表示を終了するときは、〈▶〉ボタンを押します。

💡 拡大表示中に〈ダイヤル〉を回すと、拡大位置、拡大率を固定した状態で、表示画像を切り換えることができます。

8 撮影画像の再生

JUMP ジャンプ表示

1コマ表示、画像情報表示、インデックス表示、拡大表示のときに、画像を飛ばして表示（ジャンプ）することができます。

1 画像を表示する

- 1コマ表示、画像情報表示、インデックス表示、拡大表示のいずれかで再生します。

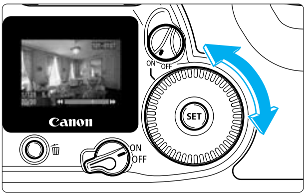


ジャンプバー

2 ジャンプ表示にする

- 〈JUMP〉ボタンを押します。

➡ 画面の下にジャンプバーが表示されます。



拡大・ジャンプ表示



インデックス・ジャンプ表示



3 前後の画像にジャンプする

- 〈 〉（拡大表示のときは〈 〉）を回します。

1コマ表示、画像情報表示、拡大表示

・左に回すと前の10コマ目、右に回すと次の10コマ目の画像を表示します。拡大表示のときは、拡大位置、拡大率が固定された状態でジャンプします。

10コマ前の画像 ↔ 現在の画像 ↔ 10コマ次の画像

インデックス表示

・左に回すと前の9コマ目、右に回すと次の9コマ目の画像を表示します。

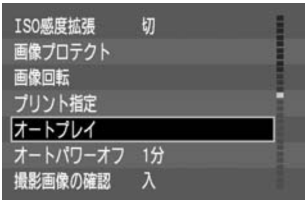
9コマ前の画像 ↔ 現在の画像 ↔ 9コマ次の画像

- 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。

［**画像プロテクト**］、［**画像回転**］でジャンプ表示を行うこともできます。

MENU 撮影画像を自動再生する／オートプレイ

CFカードに記録されている画像を自動的に連続表示します。1画像の表示時間は約3秒です。

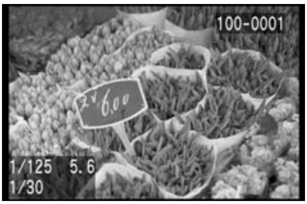


1 メニューから［オートプレイ］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**オートプレイ**］を選びます。



▼



2 自動再生する

- 〈SET〉を押します。

➡ 画像読み込み画面が約2秒間表示されたあと、自動再生が始まります。

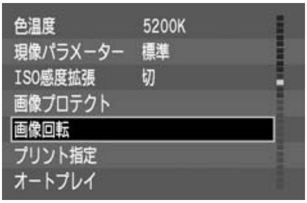
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に［❚❚］が表示されます。再度〈SET〉を押すと、自動再生が再開されます。
- 自動再生を終了するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

- 自動再生中は、オートパワーオフ（→138）は機能しません。
画像を見終わったら、〈MENU〉ボタンを押して自動再生を終了してください。
- 撮影画像によっては、表示時間が異なる場合があります。

一時停止中に〈◎〉を回すと、通常の1コマ表示と同じように、表示画像を切り換えることができます。

MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計方向に90°、270°回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しくセットしておくと、再生のときに正しい向きで表示することができます。



1 メニューから［画像回転］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 画像回転画面になります。

- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示での画像回転画面になります。



2 画像を回転させる

- 〈◎〉を回して回転したい画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ 〈SET〉を押すたびに、時計方向に90°→270°→0°の順に回転します。

- 他に回転したい画像があるときは、手順**2**を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。



グリップを下にした縦位置で
撮影した画像を90°回転

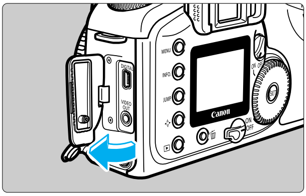


グリップを上にした縦位置で
撮影した画像を270°回転

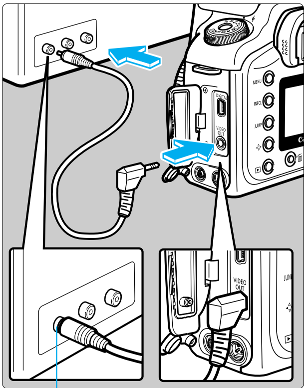
- グリップを下（上）にして縦位置で撮影した画像は、90°（270°）回転させることで、正位置にすることができます。
- メニュー［**縦横自動回転表示**］を［**入**］（→57）に設定して縦位置で撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 画像情報表示、拡大表示で画像を回転することもできます。

撮影した画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで見ることができます。接続の際は、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。



1 カバーを開ける



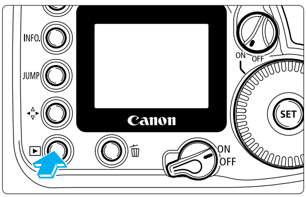
ビデオ入力端子

2 接続する

- カメラのビデオ出力〈VIDEO OUT〉端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

4 〈 〉スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます。

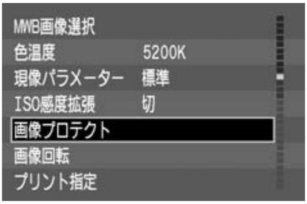
- テレビを見ながら液晶モニターと同じように画像を見たり、メニュー設定を行うことができます。
- 見終わったら、〈 〉スイッチを〈OFF〉にし、テレビの電源をオフにしてから、ビデオケーブルを外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式（→140）を設定すると、画像が正しく表示されません。テレビ方式については接続する機器の使用説明書を参照してください。
- 使用するテレビ（モニター）によっては、画面表示がケラレることがあります。

- ACアダプターキット ACK-E2（別売／→170）のご使用をおすすめします。
- カメラにビデオケーブルを接続すると、液晶モニターに画像やメニューは表示されません。
- 初期状態では日本のテレビ方式と同じ［NTSC］方式に設定されています。
ビデオ出力方式を［PAL］方式に切り換えることができます。（→140）

MENU 撮影画像にプロテクトをかける

大切な画像を間違って消さないようにプロテクト（保護）をかけることができます。



1 メニューから［画像プロテクト］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。
- 〈▦・🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示でのプロテクト画面になります。



プロテクト表示

2 プロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかけたい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面下に〈⊶〉が表示されます。
- 再度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。

- 必要な画像にプロテクトをかけて全コマ消去（→114）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。
- 画像情報表示、拡大表示で画像にプロテクトをかけることもできます。

撮影画像を消去する

画像を消去する方法には、1コマずつ消去する方法とCFカードに記録されているすべての画像を消去する方法があります。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。
- 大切な画像を誤って消去しないよう、プロテクトをかけてください。

1コマ消去



1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。

➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2 消去する画像を選ぶ

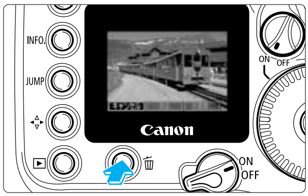
- 〈◎〉を回して消去したい画像を選びます。



3 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。



- 手順2で〈▦·🔍〉ボタンを押してから手順3を行うと、インデックス表示で画像消去ができます。



4 消去する

- 〈◎〉を回して［**消去**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。

- 他に消去したい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。
- 〈▶〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、再生が終了します。

全コマ消去

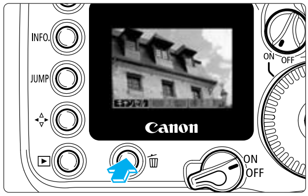
1 画像を表示する

● 〈▶〉ボタンを押します。
➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。



2 消去画面にする

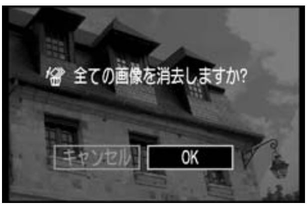
● 〈🗑〉ボタンを押します。
➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。





3 [全画像...] を選ぶ

● 〈◎〉を回して [**全画像...**] を選び、〈SET〉を押します。
➡ 確認画面が表示されます。



4 消去する

● 〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。
➡ プロテクトをかけていないすべての画像が消去されます。
● 消去中に〈SET〉を押すと消去作業が中止されます。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

● 必要な画像にプロテクト（→112）をかけて全コマ消去を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。
● 画像情報表示、インデックス表示、拡大表示で画像を消去することもできます。

MENU CFカードを初期化する

このカメラで使用できるようにCFカードを初期化します。また、CFカードをカメラに入れたとき、表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたときも、CFカードを初期化することで、使用できる場合があります。



1 メニューから[CFカード初期化]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して[**CFカード初期化**]を選び、〈ＳＥＴ〉を押します。

➡ 確認画面が表示されます。



2 初期化する

- 〈◎〉を回して[OK]を選び、〈ＳＥＴ〉を押します。

➡ CFカードが初期化されます。
➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。



CFカードを初期化すると、CFカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカード内の記録内容を十分に確認してから行ってください。

- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、コンピューターで初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。そのときは、必ずこのカメラで初期化してください。初期化することで、使用できる場合があります。
- 表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたときは、スキャンディスクなどのユーティリティーソフトを使って、カードの診断および修復することをおすすめします。
- 初期化や、スキャンディスクなどのユーティリティーソフトを使ってカードの診断および修復作業を行っても、表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたり、正しく動作しないときは、別のCFカードに交換してください。

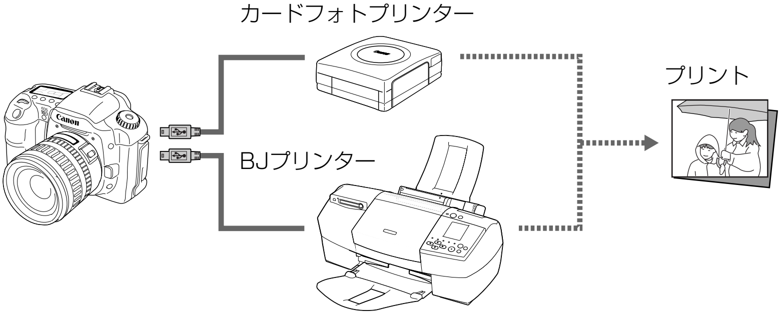


ダイレクトプリントに対応したカードフォトプリンター、またはBJプリンターをカメラと専用ケーブルで接続すると、簡単な操作できれいにプリントすることができます。ダイレクトプリントの操作はすべてカメラ側で行います。

9 カメラダイレクトプリント

ダイレクトプリントについて

このカメラに、カードフォトプリンター（別売）、またはダイレクトプリント対応BJプリンター（別売）を直接つないで、CFカードに記録されている画像を、カメラのボタン操作だけで簡単にプリントすることができます。これをカメラダイレクトプリントといいます。なお、DPOFでプリント指定（→127）した画像をダイレクトプリントすることもできます。



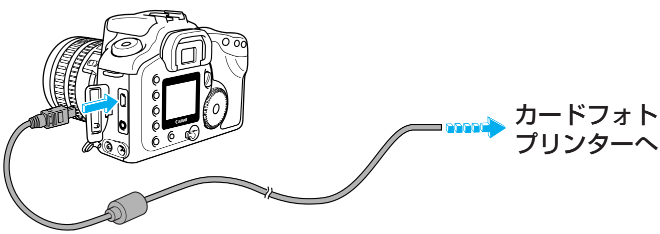
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキット ACK-E2（別売／→170）のご使用をおすすめします。
- カメラの電源にバッテリーパックを使用するときは、フル充電されたバッテリーを使用してください。プリントする際はバッテリーの残量に注意してください。

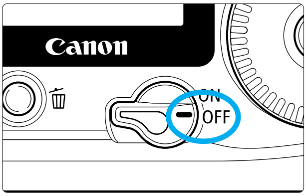
プリンターへのインクカセット/タンクやペーパー（用紙）の入れ方、電源の接続など、プリンターの準備については、プリンターに同梱されている使用説明書を参照してください。

カメラとプリンターを接続する

カードフォトプリンターを接続する

カメラとプリンターを接続するケーブルと、プリンターの接続方法については、プリンターに同梱されている使用説明書の内容に従ってください。



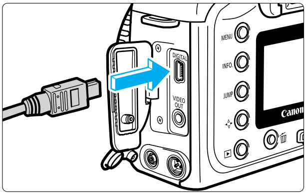


1 カメラの〈 〉スイッチを〈OFF〉にする

(→26)

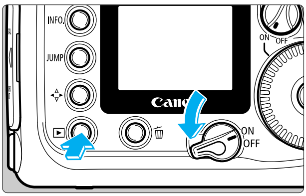
2 プリンターの準備をする

- 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。



3 カメラとプリンターを接続する

- 使用できるケーブルと接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- ケーブルのプラグの形状を確認して、カメラとプリンターを接続します。
- カメラ側を接続するときはプラグの〈 〉が、カメラの前面に向くようにして、プラグをカメラのデジタル〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。



4 カメラの〈 〉スイッチを〈ON〉にしたあと、〈▶〉ボタンを押す

➡ CFカードに記録されている画像が表示されます。



5 プリンターの電源を入れる

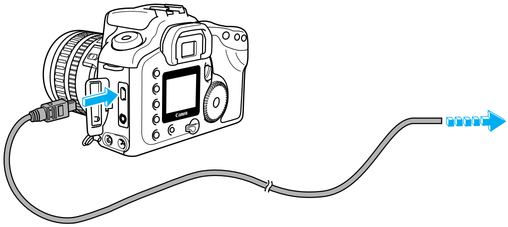
- プリンターのメインスイッチを押して電源を入れます。

➡ カメラの液晶モニターの左上に〈 〉が表示されます。

- カードフォトプリンターCP-10使用時は、手順**2**でプリンターに電源ケーブルを接続した時点で電源が入ります。

BJプリンターを接続する

カメラとプリンターを接続するケーブルと、プリンターの接続方法については、プリンターに同梱されている使用説明書の説明に従ってください。



1 『カードフォトプリンターを接続する』(→119)の1～3と同じ手順で、カメラとプリンターを接続する

2 カメラの〈 〉スイッチを〈ON〉にしたあと、〈▶〉ボタンを押す

➡ CFカードに記録されている画像が表示されます。



3 プリンターの電源を入れる

● プリンターの電源ボタンを押して電源を入れます。

➡ カメラの液晶モニターの左上に〈 〉が表示されます。

➡ プリンターの操作パネルに〈 〉が表示されます。

● カメラのデジタル〈DIGITAL〉端子からケーブルを取り外すときは、必ずプラグの側面を持って引いてください。

● カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。

● カメラとプリンターを接続しているケーブルを取り外すときは、次の手順で行ってください。
1.カメラの電源を切る
2.プリンター側のケーブルを取り外す
3.カメラ側のケーブルを取り外す

● プリンターとの接続が解除されると、カメラの液晶モニターに表示されている〈 〉または〈 〉が消え、通常の再生状態になります。

● カメラにプリンターを接続している状態（プリント中を除く）でも、カメラのシャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

プリントする

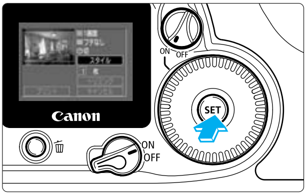
ダイレクトプリントの操作はすべてカメラ側で行います。

プリンター接続表示



1 プリントする画像を選ぶ

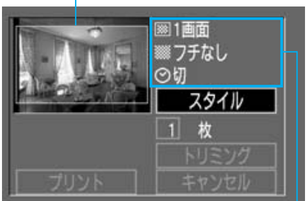
- カメラの液晶モニターの左上に〈 〉または〈 〉が表示されていることを確認します。
- 〈 〉を回してプリントする画像を選びます。
- RAW 形式の画像はダイレクトプリントできません。



2 〈SET〉を押す

➡ ダイレクトプリント画面になります。
- プリントする画像を変更するときは、〈MENU〉ボタンを押し、手順**1**に戻ります。

プリント範囲枠



プリントスタイル設定状態

3 プリント機能の設定をする

プリント機能の設定については、123～126ページを参照してください。

カードフォトプリンター接続時

- 画面右上でプリントスタイルの設定状態、画面左上でプリント範囲を確認することができます。
- 使用する用紙と、プリント画面の設定（1画面／分割画面）が合っていないときは、[**スタイル**]（→123）の [**画面設定**] で、用紙に合った項目（[**1画面**] / [**分割画面**]）を選びます。
- そのままの設定でプリントするときは、手順**4**に進みます。

BJプリンター接続時

- 必ず [**スタイル**]（→123）で [**ペーパー**]（用紙）の設定を行ってください。

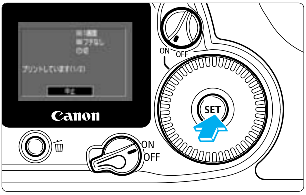


4 プリントする

- 〈 〉を回して [**プリント**] を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリントが開始されます。
- 液晶モニターに [**中止**] が表示されているときは、プリントを中止することができます。
- プリントが正常に終了すると、手順**1**の状態に戻ります。

プリントを中止する



[中止] が表示されている間に〈SET〉を押す

➡ プリントが中止されます。
➡ 確認画面が表示されたときは、〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。

プリント中止について

カードフォトプリンター接続時

プリント枚数が1枚のときは、プリントを中止することはできません。2枚以上のときは、次のプリントから中止されます。

BJプリンター接続時

プリントが中止され、プリント中のペーパー（用紙）が排紙されます。

エラーが発生したとき

プリント中、何らかのエラーが発生したときは、メッセージ（→163）が液晶モニターに表示されます。〈◎〉で [**中止**] ／ [**再開**]（[**続行**]）を選び、〈SET〉を押します。

カードフォトプリンター接続時

エラーの内容により、[**再開**] が表示されないことがあります。その場合は [**中止**] を選びます。

BJプリンター接続時

エラーの内容により、[**続行**] または [**中止**] が表示されます。
BJプリンターの操作パネルにエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。なお、エラーの内容を解決すると、自動的にプリントが再開されます。

プリンターを接続したままカメラを約6分間放置すると、自動的にカメラの電源が切れます。ただし、オートパワーオフ（→138）の設定時間が8分以上のときは、設定した時間で電源が切れます。

- RAW 形式の画像はダイレクトプリントできません。
- BJプリンター接続時に色空間を [Adobe RGB] に設定して撮影した画像をダイレクトプリントすると、低彩度なプリント結果になります。

プリント機能の設定

ダイレクトプリントする画像のプリント枚数、プリントスタイル、プリント範囲（トリミング）の設定を行うことができます。

プリント枚数の設定



1 プリント設定画面で［枚］を選ぶ

- 〈ダイヤル〉を回して［**枚**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**枚**］の横に〈▲▼〉が表示されます。



2 プリント枚数を指定する

- 〈ダイヤル〉を回してプリント枚数を指定し、〈SET〉を押します。
- 1～99枚まで指定できます。

プリントスタイルの設定

カメラに接続するプリンターの種類により、［**スタイル**］で設定できる内容が異なります。

カードフォトプリンター接続時

画面設定	1画面	ペーパー（用紙）1枚に1画像をプリントします。
	分割画面*	用紙1枚に同一の画像を8画面プリントします。
フチ	フチなし	用紙いっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付	切	日付を入れずにプリントします。
	入	撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。

*カードサイズのペーパー（用紙）にプリントするときのみ表示されます。

BJプリンター接続時

ペーパー		ペーパー（用紙）サイズを、［**L判**］［**2L判**］［**はがき**］［**A4**］［**カード**］から選べます。使用できる用紙については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。
フチ	フチなし	用紙いっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付	切	日付を入れずにプリントします。
	入	撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。



1 プリント設定画面で［スタイル］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡［**スタイル**］設定画面が表示されます。



2 スタイルの項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**画面設定**］/［**ペーパー**］、［**フチ**］、［**日付**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

3 スタイルの設定をする

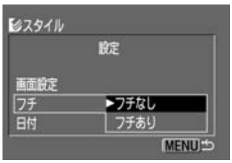
- 〈◎〉を回して希望する設定を選び、〈SET〉を押します。

［カードフォトプリンター接続時］

画面設定



フチ



日付

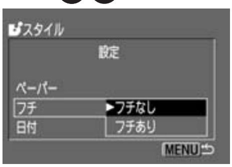


［BJプリンター接続時］

ペーパー



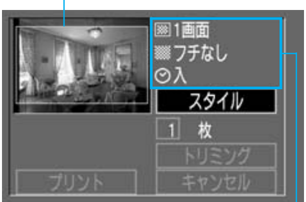
フチ



日付



プリント範囲枠



プリントスタイル設定状態

4 スタイルの設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ スタイルの設定が終了し、ダイレクトプリント画面に戻ります。
- 画面右上でプリントスタイルの設定状態、画面左上でプリント範囲を確認することができます。

[**分割画面**] を選択した場合は、[**フチ**]、[**日付**] の設定はできません。[**フチ**] は [**フチなし**]、[**日付**] は [**切**] でプリントされます。

- [**分割画面**] を選ぶと、撮影した画像の上下左右がカットされてプリントされます。
- [**フチあり**] を選ぶと、撮影した（液晶モニターに表示される）画像とほぼ同じ範囲がプリントされます。そのときは、プリント範囲枠は表示されません。

プリント範囲を設定する（トリミング）

プリントする範囲を任意に指定することができます。トリミングを行うときは、事前に『プリントスタイルの設定』（→123）を行ってください。



1 プリント設定画面で [トリミング] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**トリミング**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [**トリミング**] 画面が表示されます。





2 トリミングする

- 画面内にアイコンなどで表示される操作ガイダンスは、トリミング操作中は消えます。5秒以上何も操作をしないと再度表示されます。
- **トリミング枠の大きさを変更する**
  - 〈Q〉または〈▦・Q〉ボタンを押して、トリミング枠の大きさを決めます。
  - トリミング枠が横長のときは8段階、縦長のときは5段階に枠の大きさを変更することができます。
  - トリミング枠は、最小サイズで表示画面の約半分、最大サイズで表示画面とほぼ同じ大きさになります。
  - カードフォトプリンター接続時、トリミングによりプリント画質が粗くなる場合は、トリミング枠の色が緑から赤になります。



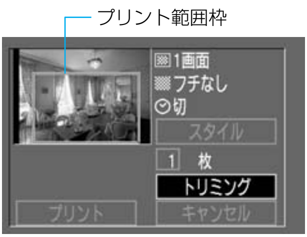


● **トリミング枠を移動する**

- 〈◎〉を回すと、トリミング枠が左右方向へ移動します。
- トリミング枠を上下方向へ移動するときは、〈✥〉ボタンを押して移動方向を切り換えたあと、〈◎〉を回します。〈✥〉ボタン押すごとに移動方向が切り換わります。
- トリミング枠の移動方向は、枠の外側に表示されている〈◀▶〉、または〈▲▼〉で確認することができます。

● **トリミング枠を回転する**

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、トリミング枠の縦横を変更することができます。押すごとにトリミング枠が横長、縦長になります。



3 トリミングの設定を終了する

● 〈SET〉を押します。

➡ トリミングの設定が終了し、プリント設定画面に戻ります。

● 画面左上でプリント範囲を確認することができます。

● BJプリンター接続時は、トリミング枠の大きさ（拡大率）に関係なく、枠の色は変化しません。
● [**トリミング**] 設定後に [**スタイル**]（[**画面設定**]、[**フチ**]）の変更を行った場合は、液晶モニターに [**トリミングの再設定が必要です**] のメッセージが表示されます。[**トリミング**] の再設定を行うか、[**スタイル**] の設定を元の状態に戻してください。
● [**トリミング**] の設定は、以下の操作を行うと解除されます。
　・〈MENU〉ボタンを押して、[**トリミング**] の設定を終了する
　・他の画像に [**トリミング**] の設定をする
　・ダイレクトプリントを終了する
　　（〈⚫〉スイッチ〈OFF〉、シャッターボタン半押し）
　・トリミング枠を最大サイズよりも大きくする
● [**トリミング**] はカメラの液晶モニターを見ながら行ってください。ビデオケーブルを使用してテレビ（モニター）を見ながらトリミングを行うと、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

トリミング枠の形状は、[**画面設定**]、[**フチ**] の設定で自動的に決まります。

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などをあらかじめカメラで指定することができます。この機能をプリント指定機能(DPOF)といいます。DPOF対応のプリンターなどでプリントするときや、ラボプリントサービスに注文するときに大変便利な機能です。

10 撮影画像のプリント指定／DPOF

DPOFについて

DPOF(Digital Print Order Format)は、デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などの指定情報をCFカードなどの記録メディアに記録するための規格です。

DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

- DPOF対応のプリンターにCFカードを入れるだけで、指定した通りにプリントできます。
- ラボプリントサービスのお店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要となります。
- ダイレクトプリント対応のプリンターから直接、指定した通りにプリントできます。

＊ このカメラのプリント指定機能は、DPOF Version 1.1に準拠しています。

MENU 撮影画像をプリント指定する

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などをあらかじめカメラで指定することができます。DPOF対応のプリンターなどでプリントするときや、ラボプリントサービスに注文するときに大変便利な機能です。また、カメラにダイレクトプリント対応のプリンターを接続すれば、DPOFで指定した内容で直接プリントできます。

1 カメラでプリント指定する

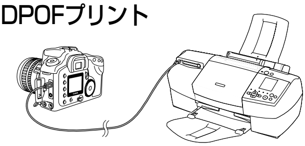


2 プリンターにCFカードを入れるだけで、簡単にプリント



2 ラボプリントサービスのお店で、簡単に注文

2 ダイレクトプリントで簡単にDPOFプリント



DPOFプリント時の注意

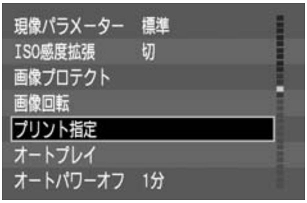
DPOF対応機器でプリントするときは次のことに注意してください。

- RAW 形式の画像はプリント指定できません。また、他のカメラで撮影された動画や、TIFF形式の画像もプリント指定できません。
- 他のカメラでプリント指定されたCFカードをこのカメラに入れると、液晶モニターに［⚠］が表示されることがあります。その状態でプリント指定を変更すると、すでに設定されている内容がすべて書き換えられます。
- 他のDPOF対応機器で設定されたプリント指定の内容を、このカメラで変更することはできません。プリント指定をした機器で変更してください。
- DPOF対応機器やラボプリントサービスによっては、指定内容が反映されない場合があります。お使いの機器の使用説明書、またはラボプリントサービスにご確認ください。

プリントする画像の選択

プリントする画像を指定します。プリント指定する方法には、画像を1コマずつ指定する方法と、全画像を指定する方法の2通りがあります。

1コマずつ指定



1 メニューから［プリント指定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**プリント指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント指定画面になります。



2 ［画像指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**画像指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像指定画面になります



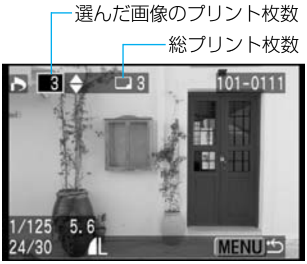
3コマ表示



3 プリント指定する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**プリントタイプ**］（→131）で［**スタンダード**］または［**両方**］を選択しているときは、画面左上の枚数表示が「1」になります。
- ➡ ［**プリントタイプ**］（→131）で［**インデックス**］を選択しているときは、画面左上の□の中に〈✓〉マークがつきます。
- ［**インデックス**］を選択しているときは、再度〈SET〉を押すと〈✓〉マークが消え、選択が解除されます。
- 〈▦・🔍〉ボタンを押すと、3コマ表示での画像指定画面となります。〈🔍〉ボタンを押すと元の表示に戻ります。
- RAW 形式の画像はプリント指定できません。

10 撮影画像のプリント指定



4 プリント枚数を選ぶ

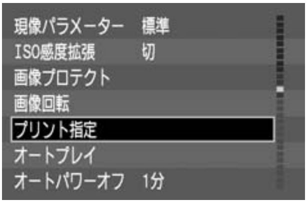
- 画面左上の枚数表示を見ながら〈◎〉を回して枚数を選び、〈SET〉を押します。
- [**プリントタイプ**]（→131）で[**インデックス**]を選択している場合は、枚数を指定することはできません。
- 他に枚数指定したい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

➡ 〈□〉の横に総プリント枚数が表示されます。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、プリント指定画面に戻ります。

全画像を指定

CFカード内に記録されているすべての画像（RAW 形式の画像を除く）をプリント指定します。



1 メニューから[プリント指定]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して[**プリント指定**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリント指定画面になります。



2 [全画像]を選ぶ

- 〈◎〉を回して[**全画像**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ 全画像指定メニューが表示されます。



3 [全画像を指定]を選ぶ

- 〈◎〉を回して[**全画像を指定**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ すべての画像が1枚ずつプリント指定され、プリント指定画面に戻ります。

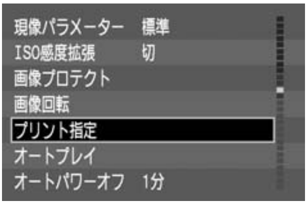
- [**全指定の解除**]を選ぶと、すでにプリント指定されていた画像の指定がすべて解除されます。
- [**キャンセル**]を選ぶと、プリント指定画面に戻ります。

> - 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
> - 最大998画像まで指定できます。

プリントの設定

［**設定**］の内容は次の通りです。

プリントタイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付	切	日付を入れずにプリントします。
	入	撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。
ファイル番号	切	ファイル番号をプリントしません。
	入	ファイル番号を付けてプリントします。



1 メニューから［プリント指定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**プリント指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント指定画面になります。



2 ［設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント設定画面が表示されます。



3 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**プリントタイプ**］［**日付**］［**ファイル番号**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

4 設定する

● 〈◎〉を回して希望する設定を選び、〈SET〉を押します。



プリントタイプ

● [**スタンダード**] [**インデックス**] [**両方**] のいずれかを選びます。



日付

● [**入**] または [**切**] を選びます。



ファイル番号

● [**入**] または [**切**] を選びます。

5 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すとプリント指定画面に戻ります。

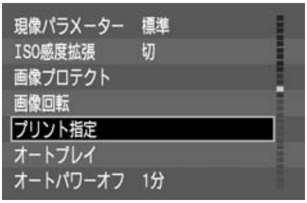
● [**プリントタイプ**]が [**インデックス**] の場合、[**日付**] と [**ファイル番号**] を同時に [**入**] に設定することはできません。
● [**プリントタイプ**] が [**両方**] の場合、[**日付**] と [**ファイル番号**] を同時に [**入**] に設定できますが、インデックスプリントには、ファイル番号のみプリントされます。

日付は、メニュー機能の [**日付/時刻**] で設定した日付表示順序に従ってプリントされます。(→150)

DPOF指定画像のダイレクトプリント

DPOFのプリント指定内容を、ダイレクトプリント対応のプリンター（別売）で簡単にプリントすることができます。

1 カメラとプリンターを接続する （→118）



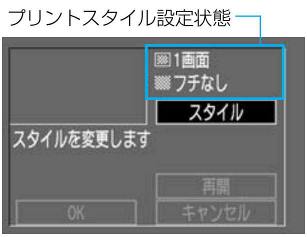
2 メニューから［プリント指定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**プリント指定**］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［プリント］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- カメラにプリンターを接続していないときは、［**プリント**］は表示されません。
- プリント指定を行っていないときは、［**プリント**］は選択できません。



4 プリントスタイルを設定する

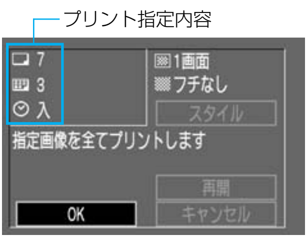
詳しくは『プリントスタイルの設定』（→123）を参照してください。

カードフォトプリンター接続時

- 画面右上でプリントスタイルの設定状態を確認することができます。そのままプリントするときは、手順**5**に進みます。

BJプリンター接続時

- 必ず［**スタイル**］（→123）で［**ペーパー**］（用紙）の設定を行ってください。



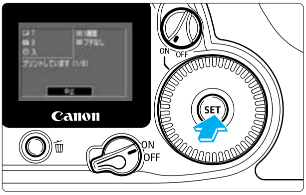
5 プリントする

- 画面左上でプリント指定内容を確認します。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリントが開始されます。

- 液晶モニターに［**中止**］が表示されているときは、プリントを中止することができます。
- 正常に終了すると、手順**3**の状態に戻ります。

プリントを中止する



[中止] が表示されている間に〈SET〉を押す

➡ プリントが中止されます。
➡ 確認画面が表示されたときは、〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。

プリント中止について (→122)

プリントを再開するとき

- プリントを中止したあとに、残りの画像をプリントするときは、プリント画面で、〈◎〉を回して [**再開**] を選び、〈SET〉を押します。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  - 再開する前に、プリント指定を変更した場合
  - 再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  - プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
- バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、ACアダプターキット ACK-E2 (別売／→170) のご使用をおすすめします。バッテリーパックを使用するときは、フル充電されたバッテリーを使用してください。

エラーが発生したとき (→122)

プリントタイプが [**インデックス**] の場合、用紙1枚にプリントされるコマ数は、用紙の種類によって異なります。

・クレジットカードサイズ　：20コマ
・Lサイズ　　　　　　　　：42コマ
・ポストカードサイズ　　　：63コマ

BJプリンターでプリントしたときの画像数については、BJプリンターの使用説明書でご確認ください。

- BJプリンター接続時に色空間を [**Adobe RGB**] (→54) に設定して撮影した画像をダイレクトプリントすると、低彩度なプリント結果になります。
- 日付をプリントする場合は、手順**3**で [**設定**] を選び、[**日付**] を [**入**] にします。手順**4**の [**スタイル**] では、[**日付**] の設定はできません。ただし、[**プリントタイプ**] が [**インデックス**] の場合、[**日付**] を [**入**] に設定しても、日付はプリントされません。
- [**プリントタイプ**] が [**両方**] の場合、[**日付**] と [**ファイル番号**] を同時に [**入**] に設定できますが、スタンダードプリントには日付のみ、インデックスプリントにはファイル番号のみプリントされます。(ただし、BJプリンターでは、インデックスプリントには日付もファイル番号もプリントされません。)
- [**プリントタイプ**] が [**スタンダード**] の場合、[**ファイル番号**] を [**入**] にしてもファイル番号はプリントされません。

メニューによる機能設定

このカメラでは、さまざまなカメラの設定をメニューで行います。このメニューの中で、特に撮影に関する設定のことをカスタム機能（C.Fn）と呼んでいます。本文中では C.Fn マークを付けて簡単な説明をしています。
ここでは、メニュー機能の一覧とカスタム機能の活用方法について詳しく説明します。メニューの操作方法については、『メニュー機能の操作と設定』（→28）を参照してください。

11

MENU メニュー機能一覧

撮影系



記録画質

撮影した画像をCFカードに記録するときの記録画質を設定します。（→42）
[Large ◢] [Large ▟] [Middle ◢] [Middle ▟] [Small ◢] [Small ▟] [RAW] から選びます。



赤目緩和機能

ストロボ撮影時に赤目緩和ランプを点灯させるかどうかを設定します。[切] [入] から選びます。（→95）



AEB設定

自動的に露出を変えながら3コマの画像を撮影できます。標準露出を基準に、1/2段ステップ±2段の範囲で設定します。（→86）



WB-BKT（ホワイトバランスブラケティング）設定

1回の撮影で色温度の異なる3コマの画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの標準色温度を基準に、1段ステップ±3段の範囲で設定します。（→50）



電子音

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時の作動音を鳴らすかどうかを設定します。[入] [切] から選びます。



MWB（マニュアルホワイトバランス）画像選択

マニュアルホワイトバランスを設定するときの画像を選択します。（→48）

撮影系



色温度

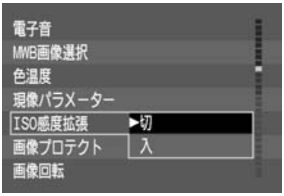
市販の色温度計などで測定した色温度を直接設定します。[**2800K**]～[**10000K**]（100Kステップ）の範囲で設定できます。（→49）



現像パラメーター

[**標準**] 設定の現像パラメーターのほかに、任意に設定した現像パラメーター（4項目、各5段階）を [**セット1**]～[**セット3**] に登録することができます。（→52）

[**標準**]、[**セット1**]～[**セット3**] を選択したときの色空間はsRGBになります。また、[**Adobe RGB**] を選択すると、色空間をAdobe RGBに変更することができます。そのときの現像パラメーターは標準設定になります。

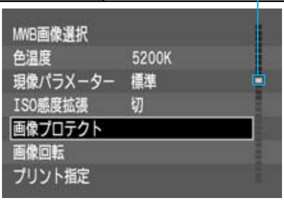


ISO感度拡張

『ISO感度の設定』（→45）で、H（ISO 3200）を選べるようにするかどうかを設定します。[**切**] [**入**] から選びます。

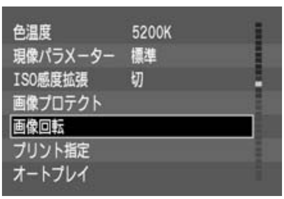
再生系

青



画像プロテクト

撮影画像を誤って消去しないように、画像にプロテクト（保護）をかけることができます。（→112）



画像回転

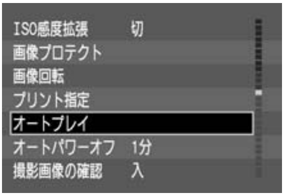
撮影した画像を時計方向に90°、270°回転させることができます。回転を行うと、回転情報が画像に記録され、次の再生時より設定した回転位置で表示されます。（→110）

再生系



プリント指定

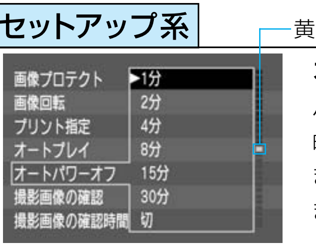
CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などを、あらかじめ指定することができます。指定を行うと、DPOFのプリント指定情報がCFカードに記録されます。（→127）



オートプレイ

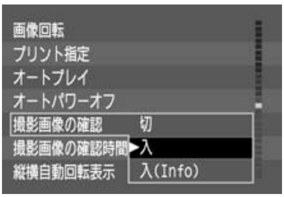
CFカードに記録されている画像を3秒間隔で自動再生します。（→109）

セットアップ系



オートパワーオフ

バッテリーの消耗を防ぐため、一定時間操作しないと自動的に電源が切れる、オートパワーオフ機能の時間を設定します。［**1分**］［**2分**］［**4分**］［**8分**］［**15分**］［**30分**］［**切**］から選びます。



撮影画像の確認

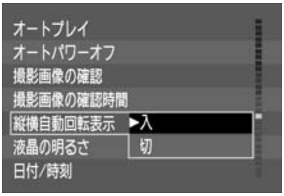
撮影直後に、画像を液晶モニターに表示させるかどうかを設定します。［**切**］［**入**］［**入（Info）**］から選びます。（→38）
表示時間は、［**撮影画像の確認時間**］で設定します。



撮影画像の確認時間

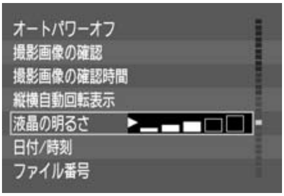
［**撮影画像の確認**］を［**入**］、または［**入（Info）**］にした場合、撮影画像が表示する時間を設定できます。［**2秒**］［**4秒**］［**8秒**］［**ホールド**］から選びます。（→39）

セットアップ系



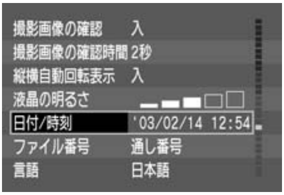
縦横自動回転表示

撮影画像をCFカードに記録するときに、撮影したときのカメラの姿勢（縦横）情報を一緒に記録するかどうかを設定します。[**入**] [**切**] から選びます。[**入**] に設定して縦位置で撮影すると、再生時に画像が時計方向に90°または270°自動回転されて見やすい位置で表示されます。（→57）



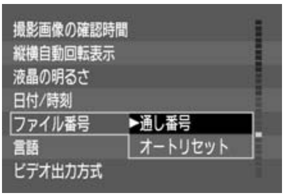
液晶の明るさ

液晶モニターの明るさ設定します。〈◎〉を回して5段階に調整することができます。



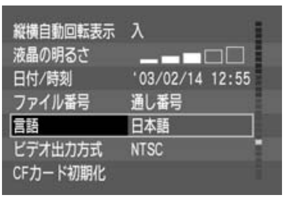
日付/時刻

日付と時刻を設定します。また、日付の表示順序も設定できます。（→150）



ファイル番号

撮影した画像に自動的に振られる番号の付け方を設定します。[**オートリセット**] [**通し番号**] から選びます。（→55）



言語

メニュー画面に表示する言語を設定します。

[**English**]（英語）
[**Deutsch**]（ドイツ語）
[**Français**]（フランス語）
[**Nederlands**]（オランダ語）
[**Dansk**]（デンマーク語）
[**Suomi**]（フィンランド語）
[**Italiano**]（イタリア語）
[**Norsk**]（ノルウェー語）
[**Svenska**]（スウェーデン語）
[**Español**]（スペイン語）
[**汉语**]（簡体中国語）
[**日本語**]

から選びます。

セットアップ系



ビデオ出力方式

ビデオ出力を行う先のテレビ方式を設定します。[NTSC] [PAL] から選びます。(→111)



CFカード初期化

このカメラにセットしたCFカードを初期化します。(→115)



カスタム機能(C.Fn)

撮影スタイルに応じてカメラの機能を細かく変更できるカスタム機能を設定します。(→141、142)



設定解除

[カメラ設定初期化]
カメラの各機能設定を初期状態にします。(→31)

[カスタム機能一括解除]
設定したカスタム機能をすべて解除([0] に設定)します。(→148)



撮像素子の清掃

撮像素子の表面についたゴミなどを清掃するときに選びます。(→152)



ファームウェア Ver. x.x.x

カメラのファームウェアのバージョン情報です。新しいファームウェアのご提供やアップデート方法につきましては、弊社ホームページなどにて適時ご案内します。

MENU カスタム機能の設定方法

さまざまな撮影スタイルに応じてカメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。メニューから［**カスタム機能(C.Fn)**］を選んで変更します。



1 メニューから［カスタム機能(C.Fn)］を選ぶ

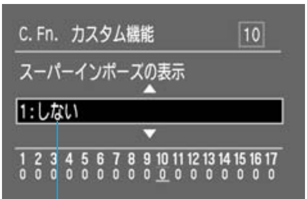
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**カスタム機能(C.Fn)**］を選び、〈SET〉を押します。

カスタム機能番号



2 カスタム機能番号を選ぶ

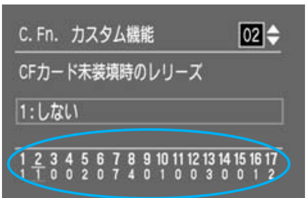
- 〈◎〉を回して希望するカスタム機能番号を選び、〈SET〉を押します。



設定変更内容

3 設定を変更する

- 〈◎〉を回して希望する設定変更内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順**2**、**3**を繰り返してその他のカスタム機能を設定します。
- 画面下でカスタム機能の設定状態を確認することができます。



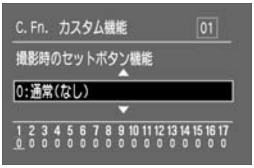
カスタム機能設定状態一覧

4 終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すとメニューに戻ります。
- 再度〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。

MENU カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01　撮影時のセットボタン機能



撮影準備状態における〈SET〉の機能の割り当てを変更することができます。

C.Fn-01-1、2は〈SET〉を押したあと、表示パネルを見ながら、〈◎〉で直接設定することができます。

0：通常（なし）

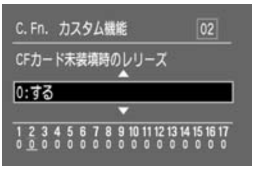
1：記録画質選択
　記録画質を直接選択できるようになります。

2：現像パラメーター選択
　現像パラメーターを直接選択できるようになります。
　［PA-0］は［標準］、［PA-1］～［PA-3］は［セット1］～［セット3］を示します。［PA-A］を選択すると、色空間が［Adobe RGB］になります。

3：メニュー表示
　〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：画像の再生
　〈▶〉ボタンと同じになります。

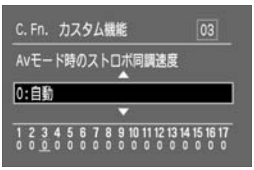
C.Fn-02　CFカード未装填時のレリーズ



0：する

1：しない
　CFカード未装填時にレリーズ動作を行いませんので、CFカードが入っていない状態で撮影動作に入ることを防止できます。シャッターボタンを押すと、表示パネルとファインダー内に「no CF」が点滅します。

C.Fn-03　Avモード時のストロボ同調速度



0：自動設定

1：1/200秒固定
　絞り優先AE（Av）モードでのストロボ撮影で、シャッター速度を1/200秒に固定します。暗中での撮影時に、シャッター速度が遅くなり、スローシンクロにならないようにすることができます。

C.Fn-04　シャッターボタン/AEロックボタン



0：AF/AEロック

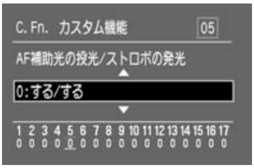
1：AEロック/AF
　ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出を固定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）
AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止させることができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）
移動／停止を繰り返す動物撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-04とC.Fn-17-0、1、2（→147）は、共にAF作動／停止とAEロックの機能を持っていますが、この2つを併用して二重操作を行った場合、後から行う操作で有効になるのは、AFスタート後のAFストップ操作だけです。他の二重操作では、後から行った操作は有効になりません。

C.Fn-05　AF補助光の投光/ストロボの発光



カメラのAF補助光、外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうか、また内蔵・外部ストロボの発光を行うかどうかを設定することができます。

0：する/する
AF補助光を投光します。／ストロボが発光します。

1：しない/する
AF補助光を投光しません。／ストロボが発光します。

2：外部ストロボのみする/する
外部ストロボ使用時のみAF補助光を投光します。／ストロボが発光します。

3：する/しない
AF補助光を投光します。／ストロボは発光しません。

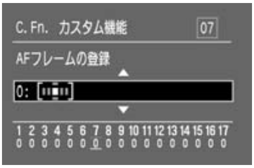
C.Fn-06　露出設定ステップ



0：1/2段

1：1/3段
シャッター速度と絞り数値、および露出補正の設定ステップを1/3段ステップにすることができます。

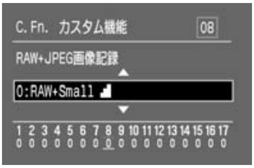
C.Fn-07　AFフレームの登録



よく使うAFフレームをあらかじめ登録しておくことで、他のAFフレームから、瞬時に登録したAFフレームへ切り換えることができます。任意のAFフレームだけでなく、自動選択を登録することもできます。なお、登録したAFフレームをホームポジション（HP）と言います。

0：（中央）
1：（下）
2：（右中）
3：（右端）
4：（自動選択）
5：（左端）
6：（左中）
7：（上）

C.Fn-08　RAW+JPEG画像記録

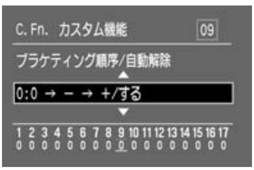


RAW画像のファイル内に同時記録するJPEG画像の記録画質を選択することができます。

0：RAW+Small
1：RAW+Small
2：RAW+Middle
3：RAW+Middle
4：RAW+Large
5：RAW+Large

RAW画像のファイル内に記録されているJPEG画像を抽出するときは、専用のソフトウェアを使用します。

C.Fn-09　ブラケティング順序/自動解除



シャッター速度、または絞り数値を自動的に変化させるAEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）の撮影順序を変更することができます。
「自動解除する」を選択すると、以下の条件でブラケティングが解除されます。

AEB：〈 〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換
WB-BKT：〈 〉スイッチ〈OFF〉

0：0 → − → + /する

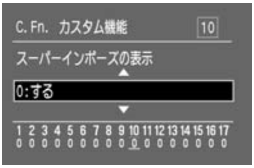
1：0 → − → + /しない
最初の1コマを標準露出（または基準ホワイトバランス）にしたブラケティング撮影を、何回も繰り返すときに有効です。

2：－ → 0 → ＋ /する
マイナス（または青色寄り）補正から順にブラケティング撮影できます。

3：－ → 0 → ＋ /しない
マイナス（または青色寄り）補正からのブラケティング撮影を、何回も繰り返すときに有効です。

AEB撮影	ホワイトバランスブラケティング
0：標準露出	0：基準ホワイトバランス
－：マイナス補正	－：青色寄りに補正
＋：プラス補正	＋：赤色寄りに補正

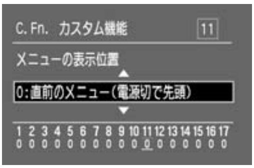
C.Fn-10　スーパーインポーズの表示



0：する

1：しない
合焦時にファインダー内のAFフレームの赤色点灯表示を行いません。点灯がわずらわしいときに設定します。
ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn-11　メニューの表示位置



〈MENU〉ボタンを押したときのメニュー項目の表示位置を設定することができます。

0：直前のメニュー（電源切で先頭）
前回設定したメニュー項目を表示します。
ただし、〈 〉スイッチ〈OFF〉、バッテリーパック交換、CFカード交換で、一番初めのメニュー項目［**記録画質**］を表示します。

1：直前のメニュー
前回設定したメニュー項目を表示します。

2：メニューの先頭
常に一番初めのメニュー項目［**記録画質**］を表示します。

C.Fn-12　ミラーアップ撮影



0：しない

1：する
近接撮影や望遠撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影の方法については、90ページを参照してください。

C.Fn-13　アシストボタンの機能

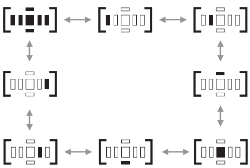


〈 〉ボタンの機能の割り当てを変更することができます。

0：通常
〈 〉ボタンと〈 〉ボタンの同時押しで、登録したAFフレームへ移動します。

1：HPに移動
〈 〉ボタンの単独押しで、登録したAFフレーム（ホームポジション）へ移動します。

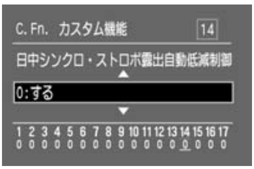
2：HPに移動（押している間）
〈 〉ボタンを押している間だけ、登録したAFフレーム（ホームポジション）へ移動します。〈 〉ボタンを離すと、直前のAFフレームに戻ります。



3：Av±（サブ電子：AFフレーム選択）
〈 〉ボタンに露出補正/手動絞り数値設定の機能を割り当てます。〈 〉ボタンを押しながら、〈 〉を回して設定します。そのときは〈 〉で直接AFフレームを選択することができます。AFフレームは次のように循環します。

4：FEロック
〈 〉ボタンでFEロックを行うことができます。C.Fn-04-1、2、3（→142）設定時にFEロックができるようになります。なお、このときは〈✱〉ボタンでFEロックはできません。

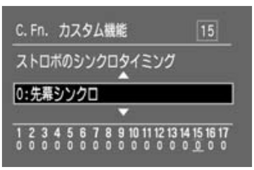
C.Fn-14　日中シンクロ・ストロボ露出自動低減制御



0：する
自然な日中シンクロ描写がオートで得られます。

1：しない
夕日など強い逆光下での人物撮影で、人物が露出アンダーになるのを防ぎます。

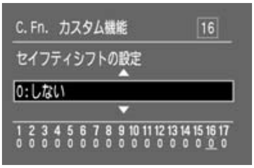
C.Fn-15　ストロボのシンクロタイミング



0：先幕シンクロ

1：後幕シンクロ
低速シャッター速度設定時に光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。シンクロタイミング切り換え機能がないEXシリーズストロボで後幕シンクロができるようになります。切り換え機能を内蔵したEXシリーズストロボでは、ストロボ側の設定が優先します。

C.Fn-16　セイフティシフトの設定



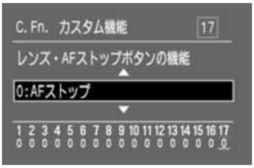
シャッター優先AEと絞り優先AEにセイフティシフトを設定することができます。

0：しない

1：する

被写体の明るさが急に変化して、シャッター優先AE、絞り優先AEの設定値が不適切になっても、設定値を自動的に変更して適正露出にします。

C.Fn-17　レンズ・AFストップボタンの機能



0：AFストップ

1：AFスタート

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。

2：AEロック(タイマー中)

測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：AFフレーム 任意→自動　自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけAFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に任意選択したAFフレームで追従できなくなったときに有効です。AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AFフレームが選択されます。

4：ONE SHOT ⇔ AI SERVO

ワンショットAF設定時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF設定時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動･停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。

- AFストップボタンは、大型の超望遠レンズに装備されています。
- C.Fn-17-4設定時にAFストップボタンを押しても、表示パネルのAFモード表示は切り換わりません。

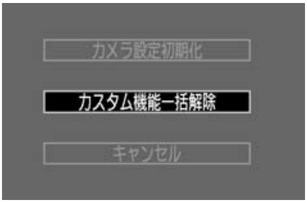
MENU カスタム機能の一括解除

すべてのカスタム機能を一括して解除（[0] に設定）することができます。



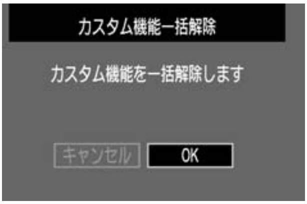
1 メニューから [設定解除] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して [**設定解除**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [カスタム機能一括解除] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**カスタム機能一括解除**] を選び、〈SET〉を押します。



3 一括解除する

- 〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。

➡ カスタム機能が一括解除されます。

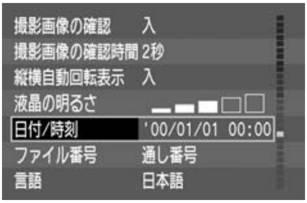
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

日付／時刻の設定や、日付／時計用電池の交換、撮像素子の清掃について説明します。

12 メンテナンス

MENU 日付／時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。日付／時刻は撮影した画像に記録されます。



1 メニューから [日付/時刻] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 日付／時刻設定画面が表示されます。



2 日付と時刻を設定する

- 〈◎〉を回して数字を合わせ、〈SET〉で設定します。
- 設定すると、次の項目に移動します。



3 日付の表示順序を選ぶ

- 〈◎〉を回して希望する表示順序を選びます。

年／月／日
↕
月／日／年
↕
日／月／年

4 〈SET〉を押す

➡ 日付／時刻が設定され、メニューに戻ります。

- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消え、メニューが終了します。

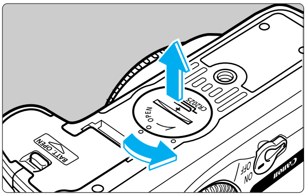
> 撮影した画像には撮影した日付／時刻が一緒に記録されます。日付／時刻が設定されていないと、撮影した日付／時刻が正しく記録されませんので、必ず正しく設定してください。

日付／時計機能用電池を交換する

日付／時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電池残量がなくなると、表示パネルに「C bC」と表示されます。そのときは、新しいCR2025リチウム電池を次の手順で交換してください。

- バッテリーパックやDCカプラーを取り付けた状態で交換すると、設定されている日付／時刻などのメニュー機能の設定は保持されます。

1 〈 〉スイッチを〈OFF〉にする

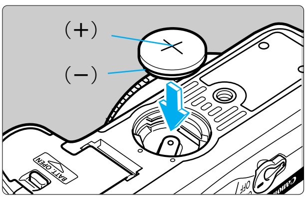


2 ふたを取り外す

- コインなどでふたを矢印の方向に45°回します。
- 45°以上回さないでください。

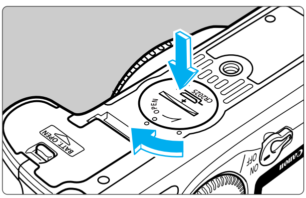
3 古い電池を取り出す

- 電池室を下にし、電池の端を指で押して取り出します。



4 新しい電池を入れる

- （＋）側を上にして入れます。



5 ふたを取り付ける

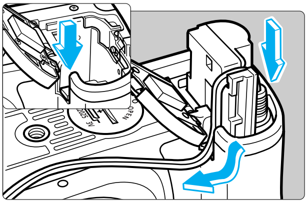
- 日付／時刻がずれてしまった場合は、再度設定してください。

日付／時計機能用電池は、必ずCR2025リチウム電池を使用してください。

MENU 撮像素子（CMOS）を清掃する

撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分で、撮像素子の表面にゴミやほこりなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このような場合は、次の手順で撮像素子の表面についたゴミなどを清掃してください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、清掃が必要なときはできるだけキヤノンサービスセンターにお申し付けください。

- 清掃を行うときは、ACアダプターキット ACK-E2（別売／→170）による家庭用電源のご使用をおすすめします。バッテリーを使用する場合は、必ず残量が十分にあるバッテリーを使用してください。清掃を始める前にレンズを取り外してください。



1 DCカプラー（→22）かバッテリーを入れて、〈⊘〉スイッチを〈ON〉にする

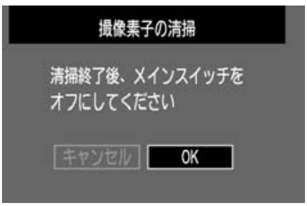


2 メニューから［撮像素子の清掃］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［**撮像素子の清掃**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ バッテリー使用時は、十分な残量があるときに手順**3**の画面が表示されます。

- バッテリー残量が不足しているときは、警告画面が表示され次の操作には進めません。バッテリーを充電するか、DCカプラーを使用して、もう一度手順**1**からやり直してください。

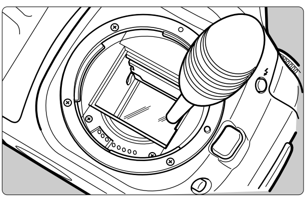


3 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。

➡ 表示パネルに「CLEA n」が点滅表示されます。



4 撮像素子を清掃する

- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面のほこりを吹き飛ばします。

5 清掃を終了する

- 〈 〉スイッチを〈OFF〉にします。

➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じ、ミラーが下がります。

- 〈 〉スイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります。**
  - **〈 〉スイッチ〈OFF〉**
  - **CFカードスロットカバーを開く**
  - **バッテリーを取り出す**
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、表面に傷が付くことがあります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により、撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- バッテリー残量が少なくなると、電子音が鳴り、表示パネルの〈 〉が点滅します。〈 〉スイッチを〈OFF〉にして、残量が十分にあるバッテリーに交換し、初めからやり直してください。



カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

13 資　料

デジタルカメラ・写真の基本用語解説

AE
Auto Exposure(オートエクスポージャー)の略でカメラが自動的に露出を調節する機能です。カメラに内蔵された露出計で自動的に最適な露出（シャッター速度と絞り数値の組み合わせ）が決まります。

AF
Auto Focus（オートフォーカス）の略でカメラが自動的に焦点（ピント）を合わせる機能です。

CF（コンパクトフラッシュ）カード
小型のフラッシュメモリーカードです。このカメラでは、撮影画像を記録するのに使用します。

DCF（ディーシーエフ）規格
DCFは、Design rule for Camera File system（デザインルール フォー カメラファイルシステム）の略です。
デジタルカメラなどで撮影した画像ファイルなどをメーカーの異なるデジタルカメラや関連機器間で手軽に利用しあえる環境を整えることを目的に、（社）電子情報技術産業協会(JEITA)によって標準化された規格です。本カメラはDCF規格（Adobe RGB設定時を除く）に準拠しています。

ISO（イソ）感度
フィルムの光に対する感光度（感度）の強さを示すものです。通常「ISO100」のように表記します。ISO感度は数値が大きくなるほど光に対する感光度が強くなります。デジタルカメラでも、フィルムに準じてISO感度が使われます。

JPEG（ジェイペグ）
Joint Photographic Experts Group（ジョイントフォトグラフィックエキスパートグループ）形式の略です。
カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸張（画像の復元）したときの画像は劣化します。

RAW（ロウ）
撮像素子の生（RAW）データを保存する、コンピューター画像処理を前提としたファイル形式です。
画像劣化のない方式で圧縮・保存・解凍されますので、専用ソフトウェアの画像処理機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。

sRGB
Microsoft社とHewlett-Packard社が共同開発したカラーマッチングに関する規格で、この規格に準拠したカメラ、モニター、アプリケーション、プリンター間での、同一色再現を実現するものです（sはStandardの略です）。

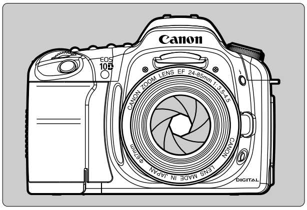
赤目現象

目の瞳孔が開いているような暗い部屋でストロボ撮影すると、瞳孔を通して網膜に反射した光で瞳孔が赤く写る現象のことを言います。レンズの光軸とストロボの距離が短い場合、特に多く発生します。赤目現象を起こりにくくするには次のようにします。

① 赤目緩和機能を[入]にして撮影する（撮影前に赤目緩和ランプを点灯させ、瞳孔を小さくすることで赤目現象を緩和する）
② EXシリーズスピードライトを使って撮影する（瞳孔から反射してきた光とレンズの光軸をずらして赤目現象を緩和する）
③ できるだけ近づいて撮影する（②と同じ）

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、撮像素子に当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、「1.0」〜「91」となっています。



シャッター速度

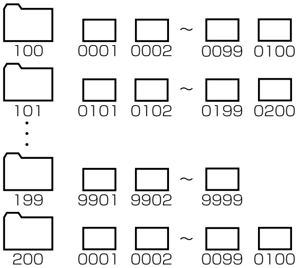
カメラ本体に組み込まれているシャッターは撮像素子に当たる光の量をシャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。

初期化

CFカードの初期化とは、CFカードの内部を画像データの書き込みができるように整えることです。初期化を行うとCFカードに記録されているすべてのデータが消去されるので、初期化を行う際は十分注意してください。

ファイル番号とフォルダについて

撮影した画像は、自動的に0001〜9999までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに最大100コマずつ保存されます。各フォルダには100〜999までの番号が付けられ、CFカードに記録されます。



JPEG形式で撮影した画像のファイル名は「IMG_ 」、拡張子は「.JPG」となり、RAW形式で撮影した画像のファイル名は「CRW_ 」、拡張子は「.CRW」となります。「.THM」の拡張子が付いた画像は、インデックス表示用のサムネイル画像ファイルです。

例） IMG_0001.JPG

- IMG_：ファイル名
- 0001：ファイル番号
- .JPG：拡張子

ファームウェア

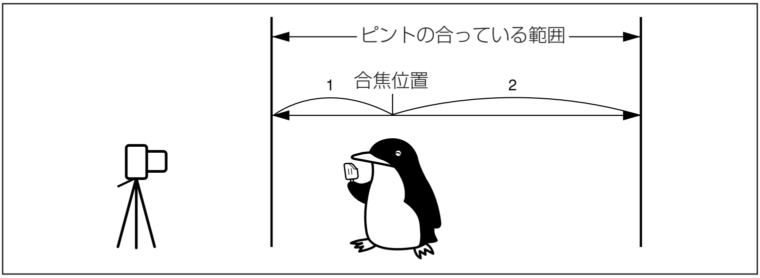
ファームウェアとは、機器を制御するために組み込まれたソフトウェアのことで、EOS 10Dでは、このファームウェアによって撮影、画像処理などが行われます。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広くなります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントが合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

① 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
　…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
② 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
　…望遠レンズよりも広角レンズのほうが被写界深度は深くなる。
③ 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
④ 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前側1に対して奥側が2になる。（下図参照）





絞り数値：F2



絞り数値：F22

露出

撮影するために撮像素子に光を当てることを露出（または露光）といいます。また、ISO感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。適正露出は、「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能

モードダイヤル										P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW									○	○	○	○	○
ISO感度	オート		●	●	●	●	●	●	●					
	手動設定									○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB		●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB・MWB 色温度・WB-BKT									○	○	○	○	○
現像パラメーター			● 標準							○	○	○	○	○
AF	ワンショット			●	●	●		●		○	○	○	○	●
	AIサーボ						●			○	○	○	○	—
	AIフォーカス		●						●	○	○	○	○	—
	AFフレーム選択	自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
		任意								○	○	○	○	
測光方式	評価測光		●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光									○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光									○	○	○	○	○
ドライブ	1コマ撮影		●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	連続撮影			●			●			○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光		●	●		●		●						
	手動発光									○	○	○	○	○
	赤目緩和		○	○		○		○		○	○	○	○	○
カスタム機能(C.Fn)										○	○	○	○	○

AFモードとドライブモードの関係

ドライブモード	ワンショットAF	AIサーボAF	AIフォーカスAF
1コマ撮影	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光の場合は、露出を固定します。(撮影前に露出を記憶)	被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。	被写体の状態によってワンショットAFからAIサーボAFに自動的に切り換わります。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります。 (1秒間に約3コマ、最大約9コマまで)	上と同じ条件で連続撮影となります。ピント合わせは連続撮影中も作動します。 (1秒間に約3コマ、最大約9コマまで)	

露出警告表示一覧

撮影モード	表示警告例（点滅）	意　味	対　応
P	30" 3.5	被写体が暗すぎます。	1）ISO感度を上げてください。 2）ストロボを使用してください。
	4000 22	被写体が明るすぎます。	1）ISO感度を下げてください。 2）減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	125 3.5	露出アンダーになります。	1）〈 〉を回してシャッター速度を遅くしてください。 2）ISO感度を上げてください。
	125 22	露出オーバーになります。	1）〈 〉を回してシャッター速度を速くしてください。 2）ISO感度を下げてください。
Av	30" 5.6	露出アンダーになります。	1）〈 〉を回して絞り数値を小さくしてください。 2）ISO感度を上げてください。
	4000 5.6	露出オーバーになります。	1）〈 〉を回して絞り数値を大きくしてください。 2）ISO感度を下げてください。
A-DEP	60 22	希望する被写界深度が得られません。	1）被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2）ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	30" 3.5	被写体が暗すぎます。	1）ISO感度を上げてください。 2）ストロボを使用してください。撮影結果は〈**P**〉によるストロボ撮影と同じです。
	4000 22	被写体が明るすぎます。	1）ISO感度を下げてください。 2）減光用のNDフィルターを使用してください。

警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF3.5、最大絞り数値がF22のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

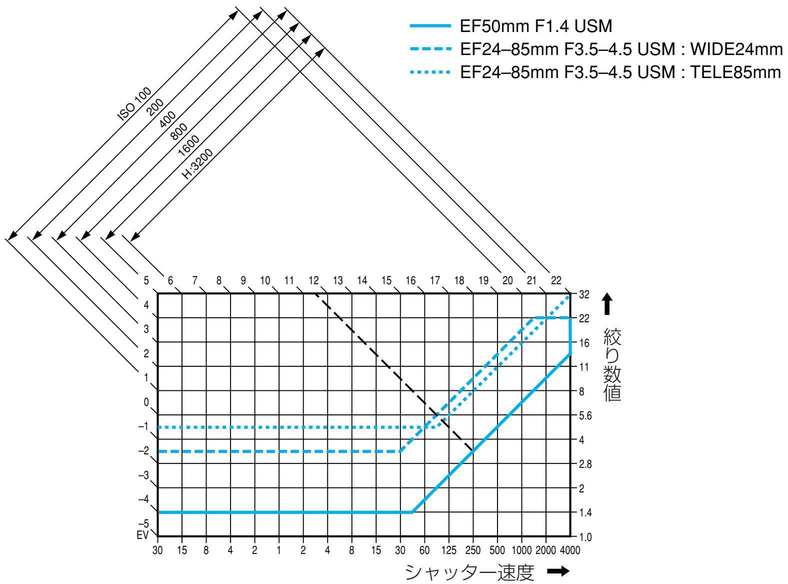
AEロックの効果

（撮影モードが応用撮影ゾーンのとき）

AFフレームの選択 測光方式	自動選択	任意選択
評価測光	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。
部分測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	
中央部重点平均測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	

プログラム線図

〈 **P** 〉（プログラムAE）に設定したときのプログラム線図を示します。



図の見かた

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。
図の左端と上端に目盛られている被写体輝度（EV数値）の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが色の線で示されています。

例：EF50mm F1.4 USMのレンズを使用したとき、被写体輝度がEV11.5の場合は、上端の11.5の点から右下45°の方向にのばした線とプログラム線図の交点を見るとシャッター速度1/250、絞り数値F3.5が自動的に設定されることがわかります。
左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は、ISO感度に対する測光輝度範囲です。

シャッター速度と絞り数値の表示

シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段ステップで変わります。「4000」から「4」までは分数の分母を表しています。例えば「125」は1/125秒を表しています。また「0"3」は0.3秒、「15"」は15秒を表しています。

絞り数値の表示

絞り数値は1/2段ステップで変わります。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

1/2段ステップ				1/3段ステップ			
シャッター速度		絞り数値		シャッター速度		絞り数値	
4000	2"	1.0	91	4000	10	1.0	20
3000	3"	1.2		3200	8	1.1	22
2000	4"	1.4		2500	6	1.2	25
1500	6"	1.8		2000	5	1.4	29
1000	8"	2.0		1600	4	1.6	32
750	10"	2.5		1250	0"3	1.8	36
500	15"	2.8		1000	0"4	2.0	40
350	20"	3.5		800	0"5	2.2	45
250	30"	4.0		640	0"6	2.5	51
180		4.5		500	0"8	2.8	57
125		5.6		400	1"	3.2	64
90		6.7		320	1"3	3.5	72
60		8.0		250	1"6	4.0	81
45		9.5		200	2"	4.5	91
30		11		160	2"5	5.0	
20		13		125	3"2	5.6	
15		16		100	4"	6.3	
10		19		80	5"	7.1	
8		22		60	6"	8.0	
6		27		50	8"	9.0	
4		32		40	10"	10	
0"3		38		30	13"	11	
0"5		45		25	15"	13	
0"7		54		20	20"	14	
1"		64		15	25"	16	
1"5		76		13	30"	18	

C.Fn シャッター速度と絞り数値の設定を1/3段ステップに変更することができます。(C.Fn-06-1→143)

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

表示メッセージ	詳細内容
処理中...	カメラがデータを処理している、または撮影した画像をCFカードに記録しています。しばらくお待ちください。
画像読み込み中...	CFカードに記録されている画像を読み込んでいます。しばらくお待ちください。
CFカードがありません	CFカードが入っていません。指定のCFカードを入れてください
CFカードが異常です	CFカードに何らかの問題があります。CFカードを交換してください。
CFカードがいっぱいです	CFカードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上画像を記録できません。またはこれ以上プリント指定を保存できません。
画像がありません	表示できる記録画像がCFカードに入っていません。撮影して画像を記録するか、画像が記録されたCFカードに交換してください。
画像が大きすぎます	4064×2704画素を超えるサイズの画像のため、再生できません。
互換性のないJPEGです	互換性のないJPEG画像のため、再生できません。
データが壊れています	画像データが壊れているため、再生できません。
回転できない画像です	別のカメラや異なるフォーマットで撮影された画像、またはコンピューターで加工した画像のため、回転できません。
認識できない画像です	特殊なフォーマット（他社のカメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影された画像のため、再生できません。
プロテクトされています	画像がプロテクトされているため、消去できません。消去する場合は、プロテクトを外してから再度消去してください。
指定できない画像です	JPEG形式以外の画像をプリント指定しようとしました。プリント指定できません。 別のカメラで撮影された画像、またはコンピューターで加工した画像をMWB画像選択で指定しようとしました。ホワイトバランスデータを取り込むことができません。
指定が多すぎます	プリント指定が多すぎます。これ以上プリント指定できません。
指定完了できませんでした	プリント指定の内容を保存できませんでした。
拡大できない画像です	別のカメラや異なるフォーマットで撮影された画像、またはコンピューターで加工した画像のため、拡大できません。
バッテリーを交換してください	バッテリーの残量が少ないため、撮影や再生ができません。バッテリーを交換してください。
CCDRAW	他機種で撮影されたCCDRAW画像のため、再生できません。

表示メッセージ	詳細内容
日付/時刻を設定してください	日付/時刻が設定されていません。そのまま撮影すると、撮影した日付/時刻が正しく記録されません。
清掃終了後、メインスイッチをオフにしてください	撮像素子の清掃を行ったあとは、いったん〈〉スイッチを〈OFF〉にしてください。
バッテリーの残量が不足しています。撮像素子の清掃はできません	バッテリーの残量が少ないため、清掃中にシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子を破損する恐れがあります。フル充電したバッテリーに交換するか、家庭用電源を使用して清掃を行ってください。
フォルダ番号がいっぱいです	新しいCFカードを準備してください。999Canonフォルダが作成されたため、もうすぐ画像の記録ができなくなります。(IMG_9999が作成されると、「FuLL CF」になります。)

ダイレクトプリント対応のカードフォトプリンターを接続しているときに、カメラの液晶モニターに以下のメッセージが表示されることがあります。

表示メッセージ	詳細内容
ペーパーがありません	ペーパー(用紙)カセットが正しく入っていないか、カセット内に用紙がありません。または給紙動作が正しく行われていません。
インクがありません	インクカセットが入っていません。またはインクカセットのインクがありません。
指定外のペーパーです	プリントできないサイズのペーパー(用紙)がプリンターに取り付けられています。
指定外のインクです	プリントできないインクカセットがプリンターに取り付けられています。
インクカセットが異常です	インクカセットに異常があります。
ペーパーとインクが不一致です	ペーパー(用紙)とインクの組み合わせが正しくありません。
ペーパーが詰まりました	プリント中にペーパー(用紙)が詰まりました。
ペーパーが変更されています	プリントを開始するまでの間にペーパー(用紙)サイズが変わりました。
プリンターバッテリー切れです	プリンターの電池残量がありません。
通信エラー	通信中にエラーが発生しました。
トリミングの再設定が必要です	トリミング設定時と異なるスタイルでプリントしようとしました。

表示メッセージ	詳細内容
プリントできない画像です	別のカメラや異なるフォーマットで撮影された画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をプリントしようとしました。
プリントできない画像が枚ありました**	別のカメラで撮影した画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像を、**枚DPOF設定でプリントしようとしました。
****枚残っています**	DPOF設定でプリント中にプリントが中断されたため、まだ**枚プリントできていません。
トリミングできない画像です	別のカメラや異なるフォーマットで撮影された画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をトリミングしようとしました。
バッテリーの残量が不足しています	ダイレクトプリントをしようとしましたが、カメラのバッテリー残量が少ないためプリントできません。

ダイレクトプリント対応のBJプリンターを接続しているときに、カメラの液晶モニターに以下のメッセージが表示されることがあります。なお、以下のメッセージが表示されたときは、BJプリンターの操作パネルに表示されているエラー番号を確認し、BJプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

表示メッセージ	詳細内容
ペーパーがありません	ペーパー（用紙）が正しく入っていないか、用紙がありません。または給紙動作が正しく行われていません。
インクがありません	インクタンクが入っていません。またはインクタンクのインクがありません。
ペーパーが詰まりました	プリント中にペーパー（用紙）が詰まりました。
プリンターは使用中です	コンピューター、またはプリンターに差し込まれたメモリーカードからプリントしています。プリントが終了すると、自動的にカメラ内のCFカードに記録されている画像のプリントを開始します。
プリンターは準備中です	プリンターを準備しています。準備が終了すると、自動的にプリントを開始します
プリントヘッド未装着	プリントヘッドが取り付けられていません。
プリンターカバーが開いています	プリンターのフロントカバーを閉じてください。
ペーパーの種類が違います	プリンターで使用できないペーパー（用紙）を選択しています。カメラのダイレクトプリント画面の［**スタイル**］で使用できる用紙を選択してください。
紙間レバー位置が不正です	紙間選択レバー位置を正しい位置にしてください。

表示メッセージ	詳細内容
インクが残りわずかです	そろそろインクタンクの交換時期です。新しいインクタンクを準備してください。エラー画面で［**続行**］を選ぶとプリントを再開します。
廃インクタンクが満杯です	BJプリンターのリセットボタンを押すと、プリントを再開しますが、お早めにお買い上げの販売店または修理窓口（BJプリンターに付属の一覧を参照）に廃インクタンクの交換を依頼してください。
プリンタートラブル発生	プリンターの電源を入れなおしてください。それでもエラーが表示されるときは、BJプリンターの使用説明書に記載されている最寄りのサービスセンターにご相談ください。
通信エラー	通信中にエラーが発生しました。BJプリンターの電源をいったん切ってから再度プリントしてください。
トリミングの再設定が必要です	トリミング設定時と異なるスタイルでプリントしようとしました。
プリントできない画像です	別のカメラや異なるフォーマットで撮影された画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をプリントしようとしました。
プリントできない画像が枚ありました**	別のカメラで撮影した画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像を、**枚DPOF設定でプリントしようとしました。
****枚残っています**	DPOF設定でプリント中にプリントが中断されたため、まだ**枚プリントできていません。
トリミングできない画像です	別のカメラや異なるフォーマットで撮影された画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をトリミングしようとしました。
バッテリーの残量が不足しています	ダイレクトプリントをしようとしましたが、カメラのバッテリー残量が少ないためプリントできません。

エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、表示パネルに「Err　xx」が表示されます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えて最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙）にお持ちください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈▶〉ボタンを押して画像の確認をしてください。

エラーコード	対 応
Err 01	レンズの接点を清掃してください。（→7）
Err 02	CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。CFカードの抜き差しを行う。CFカードをフォーマットする。別のCFカードに交換する。
Err 04	CFカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。
Err 05	内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害しました。 〈 〉スイッチ〈OFF〉→〈ON〉を行ってください。
Err 99	上記以外のエラーが発生しました。 バッテリーパックの抜き差しを行ってください。

故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、この表を参考にしてカメラをチェックしてください。

電源

バッテリーが充電できない	専用のバッテリーを使用していますか？ ➡バッテリーパックBP-511、BP-512を使用してください。（→3） チャージャーに正しくセットしましたか？ ➡バッテリーパックを正しくセットしてください。（→18）
〈 〉スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない	バッテリーパックが消耗していませんか？ ➡バッテリーパックを充電してください。（→18） バッテリーを正しく入れましたか？ ➡バッテリーを正しく入れてください。（→20） バッテリー室ふたが開いていませんか？ ➡バッテリー室ふたをしっかりと閉じてください。（→20） CFカードスロットカバーが開いていませんか？ ➡CFカード取り出しボタンが飛び出すまでしっかりと差し込み、CFカードスロットカバーをしっかりと閉じてください。（→24）
〈 〉スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する	撮影後、すぐに〈 〉スイッチを〈**OFF**〉にしても、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間はアクセスランプが点滅します。 ➡CFカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。
バッテリーの消耗が早い	バッテリーパックが十分に充電されていますか？ ➡十分に充電してください。（→18） バッテリーパックの寿命ではありませんか？ ➡新しいバッテリーパックをお買い求めください。（→170）
電源が勝手に切れる	オートパワーオフ機能が働いていませんか？ ➡もう一度〈 〉スイッチを〈**ON**〉にするか、オートパワーオフ機能を［**切**］にしてください。（→138）
表示パネルに〈 〉のみが点滅している	バッテリーパックの容量が極端に少なくなっています。 ➡バッテリーパックを充電してください。（→18） 何らかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。 ➡シャッターボタンを半押しして、カメラが撮影準備状態に戻れば、正常に撮影できます。（→26） ＊〈 〉表示がそのままの場合はカメラの故障です。カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。（→別紙）

撮影

撮影・記録ができない	CFカードが正しくセットされていますか？ ➡CFカードを正しく入れてください。（→24） CFカードがいっぱいになっていませんか？ ➡新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（→24、113） バッテリーが消耗していませんか？ ➡バッテリーパックを充電してください。（→18） ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅していませんか？） ➡もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（→26、67）
液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる	ゴミやほこりがついていませんか？ ➡眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。 液晶が消耗していませんか？ ➡お買い上げの販売店またはキヤノンサービスセンターにご相談ください。（→別紙）
画像がボケて写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（または〈**M**〉）になっていませんか？ ➡レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（→23） シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？ ➡手ブレを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。（→26、32）
CFカードが使えない	CFカードのデータが壊れていませんか？ ➡CFカードを初期化してください。（→115） ➡指定されたCFカードを使用してください。（→2、171）
表示パネルに「C bC」が表示される	日付／時計機能用電池が消耗していませんか？ ➡新しい日付／時計機能用電池に交換してください。（→151）

撮影画像の確認・操作

画像を消去できない	画像にプロテクトをかけていませんか？ ➡プロテクトを解除してください。（→112）
撮影年月日／時刻が正しく表示されない	日付／時刻が正しく設定されていますか？ ➡日付／時刻を正しく設定してください。（→150）
テレビに画像が表示されない	ビデオケーブルのプラグを根元まで差し込んでいますか？ ➡ビデオケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込んでください。（→111） ビデオ出力方式（NTSC/PAL）が正しく設定されていますか？ ➡接続する機器と同じビデオ出力方式に設定ください。（→140）

主なアクセサリー（別売）



バッテリーパック　BP-511

EOS 10Dの強力なリチウムイオン二次電池パックです。電源の定格は7.4V。充電はバッテリーチャージャーCB-5Lで行います。フル充電で約500コマ（常温・ストロボ50%使用）の撮影ができます。充電所要時間は約90分です。



ACアダプターキット　ACK-E2

EOS 10D用の家庭用電源キット（ACアダプター、DCカプラー、電源コード）です。ACアダプターの定格入力はAC100～240V、定格出力はDC7.8V。DCカプラーをカメラのバッテリー室に入れて使用します。



コンパクトパワーアダプター CA-PS400

バッテリーパックBP-511、BP-512用の急速充電器です。1パックの充電所用時間は約90分、一度に2パックの取り付けができます。また、CA-PS400にDCカプラーDR-400（別売）を接続することもできます。電源はAC100～240Vにそのまま対応します



バッテリーグリップ　BG-ED3

バッテリーパックBP-511を2本取り付け可能なバッテリーグリップで、縦位置用シャッターボタン、電子ダイヤル、AEロック／FEロックボタン、AFフレーム選択ボタンが装備されています。なお、電源にDCカプラーを使用することもできます。バッテリーパックBP-512は使用できません。



視度補正レンズ　E

内蔵の視度調整機能との組み合わせでさらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類（－4dpt～＋3dpt）用意されています。



クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用する、クリップオンタイプストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。通常のAE撮影と同じ操作感覚で、E-TTL自動調光、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影などのストロボ撮影を行うことができます。なお、550EXでは、簡単な操作で、E-TTL 自動調光対応のワイヤレス多灯撮影ができます。





マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボがあります。片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL自動調光で簡単に行うことができます。また、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影のほか、550EX、420EXをスレーブにしたワイヤレス増灯機能など、多様なマクロストロボ撮影に対応しています。



リモートスイッチ　RS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は80cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。ワンタッチロック式接続プラグをEOS 10Dのリモコン端子に接続して使用します。



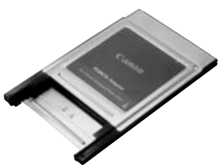
タイマーリモートコントローラー TC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。ワンタッチロック式接続プラグをEOS 10Dのリモコン端子に接続して使用します。



CFカード

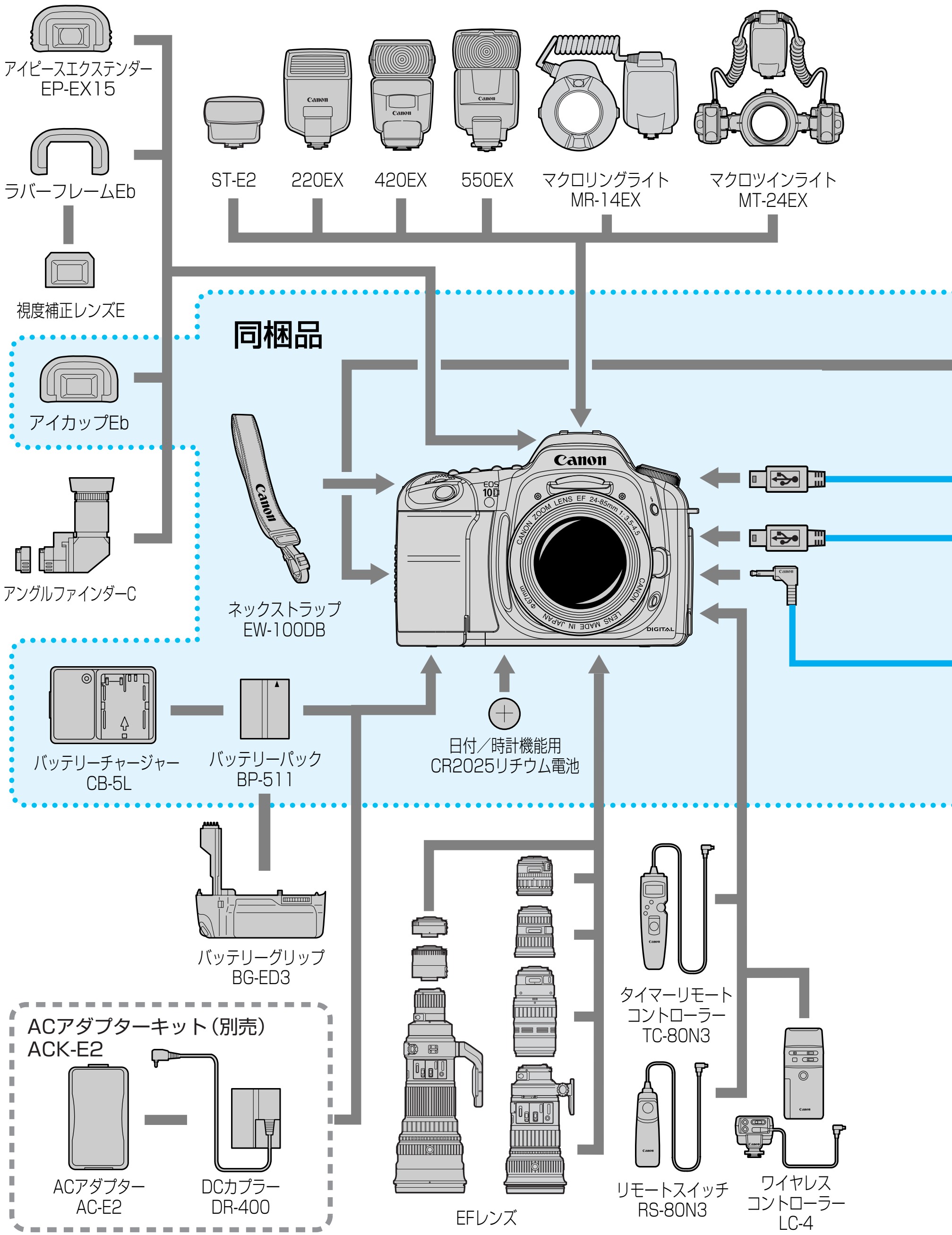
撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。
CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。



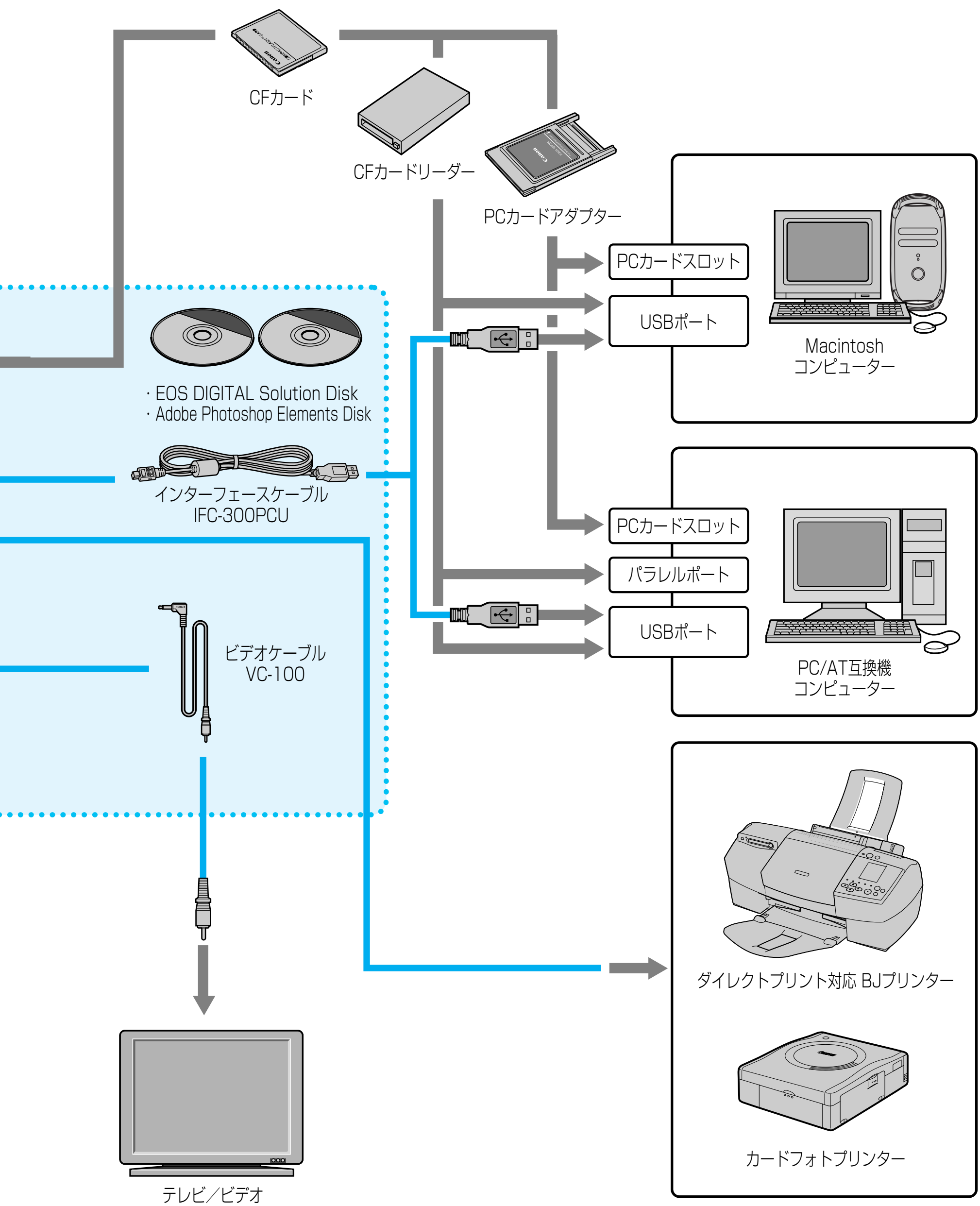
PCカードアダプター

CFカードをコンピューターのPCカードスロットや、カードリーダーへ差し込むためのアダプターです。

システムマップ



アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
ST-E2
220EX
420EX
550EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
同梱品
ネックストラップ
EW-100DB
バッテリーチャージャー
CB-5L
バッテリーパック
BP-511
日付／時計機能用
CR2025リチウム電池
バッテリーグリップ
BG-ED3
ACアダプターキット（別売）
ACK-E2
ACアダプター
AC-E2
DCカプラー
DR-400
EFレンズ
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモートスイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-4


CFカード
CFカードリーダー
PCカードアダプター
PCカードスロット
USBポート
Macintosh
コンピューター
・EOS DIGITAL Solution Disk
・Adobe Photoshop Elements Disk
インターフェースケーブル
IFC-300PCU
PCカードスロット
パラレルポート
USBポート
PC/AT互換機
コンピューター
ビデオケーブル
VC-100
ダイレクトプリント対応 BJプリンター
カードフォトプリンター
テレビ／ビデオ

主な仕様

■型式

型式……ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体……CFカード（Type Ⅰ、Ⅱ準拠）
撮像画面サイズ……22.7×15.1mm
使用レンズ……キヤノンEFレンズ群
(有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当)
レンズマウント……キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数……カメラ部有効画素：約630万画素（3088×2056）
総画素：約650万画素（3152×2068）
アスペクト比……3：2
カラーフィルター方式……RGB原色フィルター
ローパスフィルター……固定式、撮像素子前面に配置

■記録形式

記録フォーマット形式……DCF：JPEG（Adobe RGB設定時を除く）、およびRAW
記録画像形式……JPEG、RAW（12bit）
ファイルサイズ……(1)Large/Fine　：約2.4MB（3072×2048画素）
(2)Large/Normal　：約1.2MB（3072×2048画素）
(3)Middle/Fine　：約1.3MB（2048×1360画素）
(4)Middle/Normal ：約0.7MB（2048×1360画素）
(5)Small/Fine　：約0.8MB（1536×1024画素）
(6)Small/Normal　：約0.4MB（1536×1024画素）
(7)RAW（3072×2048画素）
・RAW+Small/Normal　：約6.0MB
・RAW+Small/Fine　：約6.4MB
・RAW+Middle/Normal ：約6.2MB
・RAW+Middle/Fine　：約6.8MB
・RAW+Large/Normal　：約6.7MB
・RAW+Large/Fine　：約8.0MB
*ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度などにより異なる
ファイル番号……通し番号、オートリセット
色空間……sRGB、Adobe RGB
現像パラメーター……標準のほか、任意設定した現像パラメーター（4項目各5段階設定）を3セット登録可能
インターフェース……USB（専用ケーブル使用）

■ホワイトバランス

種類……オート、太陽光、日陰、くもり、電球、蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度指定
オートホワイトバランス……撮像素子を用いたオートホワイトバランス
色温度補正……ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段

■ファインダー

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下／左右とも95%（対有効画素・視野率）

倍率……0.88倍（50mmレンズ・∞・−1dpt）
アイポイント……20mm
視度調整範囲……−3.0〜+1.0dpt
フォーカシングスクリーン……固定式、全面ニューレーザーマットスクリーン
ミラー……クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：600mm F4までなし）
ファインダー情報……AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、マニュアル露出、AEロック、露出補正量、AEBレベル、部分測光範囲）、ストロボ情報（充電完了、赤目緩和ランプ点灯、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正量）、警告表示（露出警告、FEロック時の連動範囲外警告、CFフル警告、CFエラー警告、CF未装填警告、データ処理中）、連続撮影時の最大撮影可能コマ数、撮影可能コマ数
被写界深度確認……絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式……CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
（TTL二次結像位相差検出方式）
測距点……7点
測距輝度範囲……EV0.5〜18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード……ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択……自動選択、任意選択、ホームポジション
AFフレーム選択表示……ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光……ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部 約4m／周辺部 約3.5m

■露出制御

測光方式……35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに連動）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・中央部重点平均測光
測光範囲……EV1〜20（常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）
露出制御方式……プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTLストロボAE
ISO感度……簡単撮影ゾーン：自動設定
応用撮影ゾーン：ISO100, 200, 400, 800, 1600相当、およびISO 3200相当の感度拡張が可能
露出補正……AEB：1/2, 1/3段ステップ±2段
手動：1/2, 1/3段ステップ±2段（AEB併用可能）
AEロック……自動：ワンショツトAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式……電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度……1/4000〜30秒（1/2、1/3段ステップ）、バルブ、X=1/200秒

レリーズ方式..............................ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー..........................10秒後撮影
リモコン.....................................N3タイプ端子リモコン対応

■内蔵ストロボ

形式..リトラクタブル式、E-TTL自動調光オートポップアップストロボ
ガイドナンバー..........................13（ISO100相当・m）
充電時間.....................................約3秒
充電完了表示..............................ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角...レンズ表記焦点距離18mm相当の画角に対応
調光方式.....................................E-TTL自動調光（すべてのAFフレームに連動）
ストロボ調光補正......................1/2、1/3段ステップ±2段

■外部ストロボ

EOS専用ストロボ.....................スピードライトEXシリーズ使用時、E-TTL自動調光
シンクロ端子..............................あり

■ドライブ関係

ドライブモード..........................1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー
連続撮影速度..............................約3コマ/秒（1/250秒以上）
連続撮影時の最大撮影可能コマ数：9コマ

■液晶モニター

形式..TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ..................................1.8型
画素数...約11.8万画素
視野率...約100%（対有効画素・視野率）
輝度調整.....................................5段階

■再生機能

画像表示形式..............................1コマ、1コマ(Info)、拡大（約1.5倍〜約10倍・15段階、拡大コマ送り可能）、9コマインデックス、オートプレイ、および画像回転、ジャンプ
ハイライト表示..........................画像表示形式1コマ、1コマ（Info）のとき、画像情報のないハイライト部分を点滅表示

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト..................................1コマ単位でプロテクト、解除
消去..1コマ、またはカード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

■カメラダイレクトプリント機能

対応プリンター..........................キヤノン製カードフォトプリンター、およびカメラダイレクトプリント対応BJプリンター
プリント対応画像......................JPEG画像
設定項目.....................................プリント枚数、スタイル（画面設定、用紙、フチ、日付）、トリミング

■メニュー機能

メニュー内容..............................撮影系：赤、再生系：青、セットアップ系：黄
液晶モニター表示言語................12言語対応（英語、ドイツ語、フランス語、オランダ語、デンマーク語、フィンランド語、イタリア語、ノルウェー語、スウェーデン語、スペイン語、中国語［簡体字］、日本語）
ファームウェアアップデート....ユーザー対応にて可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能..............................17種61項目

■電源

使用電池.....................................バッテリーパックBP-511/BP-512、1個使用
*DCカプラー使用によりAC駆動可能
撮影可能コマ数..........................［コマ］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+20℃）	650	500
低温（0℃）	500	400

*フル充電のバッテリーパックBP-511/BP-512使用時
バッテリーチェック..................自動
節電機能.....................................あり、設定時間（1/2/4/8/15/30分）経過で電源OFF
日付／時計機能用電池................CR2025リチウム電池、1個使用

■大きさ・質量

大きさ...149.7（幅）×107.5（高さ）×75.0（奥行）mm
質量...790g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度..............................0℃〜+40℃
使用可能湿度..............................85%以下

■バッテリーチャージャー CB-5L

対応バッテリー..........................バッテリーパックBP-511/BP-512
バッテリー取り付け部................1箇所
電源コード長..............................約1.8m
充電時間.....................................約90分
定格入力.....................................AC100〜240V（50/60Hz）
定格出力.....................................DC8.4V
使用可能温度..............................0℃〜+40℃
使用可能湿度..............................85%以下
大きさ...91.0（幅）×32.3（高さ）×67.0（奥行）mm
質量...105g（電源コードなし）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索　引

英数字

あ

か

さ

Canon

キヤノン株式会社　http://canon.jp/
キヤノン販売株式会社　カメラ販売事業部

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
http://cweb.canon.jp/camera/

この使用説明書は、2003年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。

CT1 - 5147 - 000 PRINTED IN JAPAN